

14. 5-187  
1200501215189

14.5  
187



始





14.5  
187

彙纂第九三號

第五回並第六回萬國家禽會議要錄

農  
林  
省  
畜  
產  
局



凡例

本編ハ第五回（昭和八年自九月六日至同月十五日）ノ十日間伊太利國羅馬

市ニ於テ開催）及第六回（昭和十一年自七月廿四日至八月二日）ノ十日間獨

逸國ライプツヒ市ニ於テ開催）ノ萬國家禽會議ニ夫

々出席セル種鶏場技師大島徳重外二名（第五回）及種鶏

場技師神尾正夫（第六回）ノ提出ニカカル復命書ニシテ

本邦養鶏ノ進歩發達ニ貢獻スル所尠カラザルヲ以テ參

考資料トシテ印刷ニ附セリ



昭和十四年四月

農林省畜産局





第五回萬國家禽會議



14.5  
187

第五回萬國家禽會議

目次

緒言	.....	一頁
第一、會議	.....	一
(一) 名稱	.....	二
(二) 會期	.....	二
(三) 會場	.....	二
(四) 主催者	.....	二
(五) 贊同國	.....	二
(六) 役員	.....	二
(七) 會議概況	.....	三
イ、會員	.....	三
ロ、各國提出ノ報文	.....	三



二

八、會議日程……………六

ニ、會議經過……………八

第二、展覽會……………三

(一) 列國展覽部……………三

(二) 商品部……………四

(三) 動物部……………四

第三、視察旅行……………九

附……………三

第五回萬國家禽會議報文要旨……………三

緒 言

萬國家禽會議ハ萬國家禽學會主唱ノ下ニ開催セラレソノ目的ハ次ノ如シ

(一) 養鶏業ノ進展ニ干與スル當事者ノ連絡ヲ圖リ親睦ヲ期ス

(二) 斯業ニ關スル最新智識ヲ蒐集ス

(三) 養鶏ニ關スル科學的研究並教育ノ發達ヲ圖ル

(四) 列國ノ出陳ニ依リ家禽ノ最良品種ノ普及ヲ畫ス

(五) 養鶏ニ關スル最モ合理的ナル器具機械ヲ紹介ス

(六) 適宜ノ方法ニ依リ養鶏生産物ノ交易ヲ刺戟ス

本會議ハ三ヶ年毎ニ開催サルモノニシテ第一回ハ和蘭(一九二二)、第二回ハ西班牙(一九二四)、第三回ハ加奈陀(一九二七)、第四回ハ英國(一九三〇)ニ於テ催サレ第五回會議並萬國展覽會ハ一九三三年九月伊太利政府ニ依リ羅馬ニ於テ開カレタリ

第一、會議

(一) 名稱 第五回萬國家禽會議 (The Fifth World's Poultry Congress)



(二) 會 期 一九三三年自九月六日至同十五日 十日間  
 (三) 會 場 伊國羅馬萬國農事協會  
 (四) 主 催 者 萬國家禽學會  
 伊國農林省

(五) 贊 同 國 四十九ヶ國  
 役 員

名譽總裁 伊太利國王陛下  
 名譽顧問 外務、大藏、農林各大臣、羅馬市長、萬國農事協會々頭、外十五名  
 總 裁 伊國農林大臣

副總裁 萬國家禽學會々頭W、Aコック(丁抹)  
 實行委員會

委員長 農林次官  
 副委員長 農務總長 マリオマリアニ教授  
 事務總長 ボロニア大學名譽總長、ロビゴ養鶏試驗場長、アレサンドロギーニ教授  
 幹事長 農林省畜産課長 エマヌエレコルティス博士

猶此ノ他ニ副事務總長一名、事務次長二名、幹事次長一名ヲ任命シ總務並會計係十一名、會議報文係二十三名

印刷宣傳係七名、展覽會係十七名、旅行案内係四名、接待係六名、視察旅行係六名ヲ配置セリ

列國代表委員

主催國以外ノ贊同國ニ於テ各委員長及委員若干名ヲ舉ゲ會議展覽會ノ事務ニ當ラシメタリ

(七) 會議概況

イ、會 員

贊同四十九ヶ國ヨリ出席セル政府代表員ハ百十九名ニシテソノ主ナルハ獨逸(四名)、オーストリ  
 ア(四名)、白耳義(八名)、エチプト(三名)、西班牙(三名)、北米合衆國(五名)、佛蘭西(十六名)  
 加奈陀(四名)、伊太利(十二名)、和蘭(六名)、ポーランド(三名)、ポルトガル(三名)、ユーゴー  
 スラビヤ(五名)ニシテ本邦ヨリハ種鶏場技師大島德重、畜産試驗場技手波多野正、畜産試驗場  
 技手神屋正夫ノ三名出席ス

次ニ主催國及英佛獨等ノ各國ヨリ登録又ハ參加セル一般會員ハ九百十名ニシテ前記代表員ト併セ  
 テ一千二十九名ノ多數ニ上レリ

ロ、各國提出ノ報文



賛同各國ヨリ提出セラレタル報文ニシテ採擇發表セラレタルモノハ百六十二種ナリ、而シテ之等ハ左記總會及六分科會ノ七日ニ類別セラレ後記ノ日程ニ依リ順次發表セラレタリ

- 總會報文
  - 第一部 總論及遺傳 一五種
  - 第二部 生理榮養及蕃殖 二四種
  - 第三部 衛生及疾病 四〇種
  - 第四部 指導及機關 三六種
  - 第五部 經濟問題及家禽生產物ノ取引 二〇種
  - 第六部 養 一八種
  - 計 九種
- 計 一六二種

右各國提出ノ報文ヲ國別部別ニ表示スレバ左ノ如シ

國別部別	總會報告	第一部	第二部	第三部	第四部	第五部	第六部	計
アルゼリア		1						1
オーストリア								1

國別部別	總會報告	第一部	第二部	第三部	第四部	第五部	第六部	計
白耳義								2
ブルガリヤ								2
加奈陀								2
丁抹								2
フィンランド								2
佛蘭西								2
獨逸								2
大英國								2
愛爾蘭								2
伊太利								2
日本								2
和蘭								2
ホラド								2
ルマニヤ								2
西班牙								2
瑞典								2
北米								2
計合衆國								2



猶本邦ヨリ提出セル報文ハ左記十種ニシテ總テ採擇發表セラレタリ

一、日本ニ於ケル鶏ノ産卵能力ノ發達ニ就テ 農林省畜産局  
二、白色レグホーン種ノ産卵ニ關スル統計的研究

三、鶏ニ於ケル排卵 農林省畜産試驗場 木村和誠  
農林省畜産試驗場 芝田清吾

四、植物性蛋白質飼料ガ鶏ノ交尾及受精ニ及ボス影響 農林省畜産試驗場 波多野正  
農林省畜産試驗場 海鹽義男

五、産卵鶏血液中ノコレステロール含有量 農林省畜産試驗場 能美季一  
農林省畜産試驗場 近藤正一

六、鶏コクシチウムニ關スル研究 農林省獸疫調査所 中村哲哉  
農林省獸疫調査所 中村哲哉

七、鶏ヘスト豫防ノ種痘ニ就テ 農林省獸疫調査所 中村哲哉  
農林省獸疫調査所 中村哲哉

八、鶏ヘスト病毒ニ對スル抵抗力ノ差違ニ就テ 農林省獸疫調査所 中村哲哉  
農林省獸疫調査所 中村哲哉

九、白痢病防遏ニ關スル一考察 農林省獸疫調査所 中村哲哉  
九州帝國大學農學部 佐々木清綱

十、鶏ノ兩性ノ血清ニ關スル試驗 九州帝國大學農學部 佐々木清綱

ハ、會議日程

報文ノ發表並討議ハ總會及分科會ニヨリ四室ニ別レ左記ノ如ク進行セリ

九月 六日(水曜) 會員ノ登録 午後市中見物、夜農林大臣主催歡迎宴

七日(木曜) 開會式 午後萬國家禽學會委員會

八日(金曜) 展覽會開場式 午後萬國家禽學會總會及オスチア視察旅行

九日(土曜) 總會、第一部、第三部、第四部 午後近郊養鶏場見學

十日(日曜) 第二部、第三部、第五部、第六部 午前動物園ニ於テ園遊會、午後ラトリヤ開墾地視察

十一日(月曜) ナポリ及ポンペイ視察旅行

十二日(火曜) 總會、第一部、第三部、第四部 午後伊國外務大臣主催園遊會

十三日(水曜) 總會、第二部、第三部、第五部 午後羅馬州立養鶏場及法王廳農場見學、夜國會議事堂ニ於テローマ市長招宴會

十四日(木曜) 總會、第二部 午後全員委員會、マーカレーゼ開墾視察、夜萬國家禽學會總會

十五日(金曜) 終了總會 午後羅馬法皇謁見、ベアトリスエリア伯夫人招宴



ニ、會議經過

九月六日 (水曜日)

一、午前八時ヨリ午後四時迄羅馬萬國農事協會ニ於テ各國代表員並一般會員ノ參加登錄アリ大島技師、波多野技手、神尾技手ノ三名ハ日本政府代表員トシテ會費ヲ納付シ會員章、日程表、發表報文及會期中ノ見學視察旅行券ノ配付ヲ受ク、猶波多野技手ハ會議終了後ニ於ケル視察旅行參加ノ手續ヲ了セリ

一、午後四時三十分羅馬遺跡及ムッソリニ首相計畫ノ下ニ活動セル體育協會フアシスト記念博覽會等新興フアシスト羅馬ヲ視察ス

一、午後九時三十分伊國農林大臣主催ノ下ニトラヤンマーケット樓上ニ於テ歡迎ノ招宴アリ、日本代表三名出席ス

九月七日 (木曜日)

一、午前十時國會議事堂ニ於テ開會式舉行セラレ總裁伊國農林大臣ノ挨拶萬國家禽學會々頭 コック氏ノ第四回迄ノ會議經過報告及伊國首相ノ告示アリ十一時三十分終了ス

一、午後二時ヨリホテルフローラニ於テ萬國家禽學會委員會開催、日本國代表委員木村和誠氏ノ代員トシテ大島技師出席ス

總務幹事ヘネップ氏 (和蘭) ヨリ會計報告アリタル後主トシテ會員ノ加入勧誘、會費ノ徵集並會費分擔金ノ改正等ニツキ論議ス

九月八日 (金曜日) 會議第一日)

一、午前十時トラヤンマーケットニ於テムッソリニ首相臨場ノ下ニ展覽會開場式舉行サル

一、午前十一時三十分ヨリ萬國農事協會々議室ニ於テ總會ヲ舉行シ總裁伊國農林大臣ノ訓示、副總裁コック氏及前萬國家禽學會々頭エルフォード氏 (加奈陀) 名譽會頭ブラウン氏 (英國) 及カステロー氏 (西班牙) ノ挨拶アリ

會議ニ移リ各部役員ノ任命アリ、總會報文第一號及第二號ノ說明討論アリタリ

一、午後二時三十分トラヤンマーケットニ於テ萬國家禽學會總會 (每三年目開會) 開會、同會員約五十名列席シ次回ノ會議開催地ヲ獨逸國伯林ニ決定シ次回會頭ヲ推薦ス

一、午後四時列車ニヨリオスチア廢墟及飛行場ヲ視察ス

九月九日 (土曜日) 會議第二日)

一、午前九時第二回總會開催、報文第三、四及五號ノ說明討議ノ後議長ヨリ各部ノ副議長ノ指名アリ日本代表員大島徳重第一部副議長ヲ命ゼラル、尙提出報文多キニ過ギ時日少キヲ以テ參加會員以外ノ缺席者ノ報文ハ特殊ナルモノ、外ハ代讀セズ質問アラバ議長ニ於テ取纏メ著者ニ通信スル



コトトシ分科會ニ移ル

要旨別冊ノ通

第四部ニ於テ日本代表員大島徳重ハ農林省畜産局ヨリ提出ノ報文「日本ニ於ケル鶏ノ産卵能力ノ發達ニ就テ」ヲ拔萃報讀シニ、三ノ質疑ニ對シ説明ヲ與ヘタリ

一、午後三時自動車ニヨリ羅馬郊外ニアル伊太利家禽協會附屬養鶏場及「ファッシ」男爵ノ養鶏場ヲ見學ス

九月十日（日曜日） 會議第三日）

一、九時三十分ヨリ第二部、第三部、第五部、第六部ノ分科會開カレ十時三十分乃至十二時ニ終了ス  
要旨別冊ノ通

一、午前十一時羅馬市動物園ニ於テ園遊會開催セラレ各國代表招待サル

一、午後三時ヨリ「ムッソリー」首相大事業ノ一タル「ラトリア」開墾地ヲ視察ス

九月十一日（月曜日）

一、終日「ナポリ」及「ポンペイ」視察旅行ニ費サレ日本代表員波多野正之ニ參加ス

九月十二日（火曜日） 會議第四日）

一、午前九時第三回總會開催報文第六號ヨリ第九號迄ノ説明討議アリ十一時終了直チニ第一部、第

三部、第四部ノ分科會ニ移リ十二時乃至十二時三十分ニ散會ス、要旨別冊ノ通

一、午後四時ヨリ伊國外務大臣主催ノ列國代表員招待園遊會アリ

九月十三日（水曜日） 會議第五日）

一、午前九時第四回總會開催報文第十、十一及十二號ノ説明討議アリ十一時終了直チニ第二部、第三部、第五部ノ分科會ニ移リ十二時三十分迄ニ夫々終了ス、要旨別冊ノ通

第二部ニ於テハ日本代表波多野正ノ提出報文「植物性蛋白質飼料ガ鶏ノ交尾及授精ニ及ボス影響」ノ報讀説明アリ質問多出シ夫々之ニ回答ヲ與ヘタリ、尙十一時三十分ヨリ約一時間ニ涉リ日本代表員ノ監督ノ下ニ小松馬太、西谷光男ノ兩名ニヨリ初生雛雌雄鑑別技術ニ就キ實地紹介ヲ行ヒ熱心者間ニ好評ヲ博セリ

一、午後二時ヨリ郊外ノ羅馬州立養鶏場及法王廳農場附屬養鶏場ヲ見學ス

一、午後九時三十分伊國々會議事堂ニ於テ羅馬市長ノ招宴會アリ

九月十四日（木曜日） 會議第六日）

一、午前九時三十分第五回總會開催、第十三、十四及十五號ノ報文ニ就キ提出者ヨリ夫々報讀説明アリ、同十時三十分ヨリ第二部分科會ニ移リ十二時終了セリ、要旨別冊ノ通

一、十二時三十分ヨリ全員委員會開催サレ、總會及分科會提出ノ附托事項ヲ協議シ(A)(B)及(C)ニ就テ



ハ左記ノ如ク可決シDニ就テハ否決セリ

(A) 伊太利ビロッチ氏提出ノ鶏ノ國際取引ニ對スル病鶏防遏ノ件ニ就テハ各國ニ於ケル種禽業組合ハ更ニ一層ノ留意ヲ爲ス事

(B) 白耳義セラフ氏及伊太利ビロッチ氏提案ノタウシヒ氏ノ報文ニ依ル産卵能力檢定規約統制ニ關シテハ各國詮衡委員ニヨリ萬國農事協會ト協力シ規約草稿ヲ作成シ次ノ第六回萬國家禽會議ニ提出討議スル事

(C) 第四部指導及機關ニ關シテハ萬國家禽學會ハ詮衡委員ヲ任命シ國際養鶏用語表ヲ作成スル事  
(D) 本會議ニ養兎業者代表ヲ參加セシムベキ事(第六部分科會ニ於テ提案)

一、午後三時ヨリマーカレーゼ開墾地視察旅行アリ

一、午後九時トラヤンマーケットニ於テ萬國家禽學會總會アリ

九月十五日 (金曜日) 會議第七日)

一、午前十時ヨリ終了總會ヲ開キ會頭コック氏議長席ニ着キ事務總長ギーギ氏ノ本會議經過報告アリ前日ノ全員委員會ヨリ回附ノ決議事項ニ對シ滿場一致ニテ可決シ次一九三四年一月以降三ヶ年間ノ次回會頭ハ伊太利ボロニア大學總長エーギーギ氏ニ決定、尙第六回萬國家禽會議ハ獨逸政府ノ招聘ニヨリ一九三六年伯林ニ於テ開催スベク決議セリ

次ニ伊國農林大臣ノ臨席ヲ仰ギ西班牙カステロ、佛蘭西ボアトリエール、英國フランシスノ三氏ヨリ伊太利國竝國王陛下、羅馬市長及ムッソリニ首相以下伊國政府各關係者ニ對シ謝辭ヲ述べ次デ伊國農林大臣アセルボ閣下ノ閉會ノ挨拶アリ、午前十一時盛大ナル拍手裡ニ本會議ヲ終了セリ  
一、午後ヴァチカン宮殿ニ於テ各國代表員及一般會員ニ對シ羅馬法王ノ謁見竝法話アリ  
一、午後五時婦人委員長ベアトリスエリア伯夫人主催ノ各國代表員夫妻ノ招宴會アリ

## 第二、展 覽 會

第五回萬國家禽會議ニ附隨シテ自九月八日至同月十六日九日間古代羅馬ノ繁榮ヲ語ル遺跡トラヤンマーケットヲ會場トシテ開催サレシ家禽展覽會ハ其ノ規模ノ廣大ナルト内容ノ充實セルハ近年稀ニ見ルモノニシテ參觀者ノ養鶏ニ對スル識見ノ啓發ニ資スル事甚大ナリトス

期間中午前九時ヨリ午後十時ニ至ル迄入場ヲ許シ夜ハ各國養鶏ニ關スル活動寫眞及慰安演奏會等餘興アリテ頗ル盛觀ヲ呈シタリ

出品ハ「列國展覽」「動物」「商品」ノ三部ニ分タレ展示セラレタリ

(一) 列國展覽部

主ナル參加出陳ハ十四ヶ國ニシテ何レモ自國ノ養鶏養兎ノ改良進展狀況ト其ノ特色トヲ實物、寫眞



圖表、模型ノ陳列或ハ映寫等ニ依リ紹介シ國際的信用確保ニ努メ電光、動力等ノ運轉裝置ニヨリ實物或ハ模型ノ作業實演ヲ行ヒ説明者又ハラチオ等ニヨリ解説ヲ爲シ觀衆ノ注目ヲ惹キタリ

(二) 商品部

家禽家兔ニ關スル商品ニ在リテハ各國ノ數多ノ商會、會社ノ各種機械、器具及飼料等ヲ主トシタル出陳アリ殊ニ立體孵卵機、バタリー、育雛器等ハ製作ノ進歩並使用ノ普及顯著ナルヲ認メラレ兔毛兔毛皮及羽毛ノ加工品ノ陳展ハ極メテ華麗ニシテ即賣等モ行ハレ好評ヲ博シタリ

(三) 動物部

動物ノ出陳ハ就中廣範圍ニ行ハレ參加各國ヨリソノ數家禽二千五百餘點、家兔五百餘點計三千餘點ニ及ブ出品アリ、實用種ヨリ愛玩種ニ涉リ又珍奇ナル變異種ノ參考品ニ至ルマデ粹ヲ集メ珍ヲ競フテ展示サレ科學的ニ將タ實用的ニ養鶏界ニ裨益貢獻スル所絶大ナリキ即チ出品點數ノ最モ多キハ任意出品ヲ加ヘタル伊太利ノ一、〇四九點ニシテ獨逸ノ六七五點、佛蘭西ノ三八六點之ニ次ギブルガリアノ一五點ヲ最少トス  
更ニ出品種別ノ内容ヲ窺ヘバ鶏ノ出品ハ一、六八〇點ニシテ出品總點三、一八九點ノ約五四%ヲ占メテ鳩ノ五七六點(一八%) 兔ノ五二一點(一三%) 之ニ續キ鶩ノ二三點ヲ最少トナスモ從來ノ同種展覽會ニ出品ヲ見ザリシ傳書鳩五二點ノ出陳ハ注目ニ値シタリ

次ニ鶏ノ品種別點數ニ在リテハレグホーン種ノ二三一點(一四%) 最モ多クロードアイランドレッド種一二四點(七%強) ワイアント種一一七點(七%) プリマスロック種ノ九三點(六%弱) 等主ナルモノナリ  
出品動物ヲ國別、種類別等ニ表示セバ次ノ如シ

第五回萬國家禽會議展覽會各國出品點數表

國別	種別	鷄	七面鳥	鶩	鶩	兔	鳩	傳書鳩	珠鷄	計
伊太利	太利	△ 一七七一	一〇二	八三	四	一六五	一二六	四	一二八	五二二
英吉利	吉利	一三二	二	一八		九	二		二	五二二
獨逸	逸	三七八	四	六〇	六	九九	二八			六七五
佛蘭西	蘭西	一八三	一三	二七	二	二七	三四			三八六
丁加	奈陀	五六								五六
加爾各答	ガリア	三六								三六
ブルガリア	ブルガリア	九	三							一五
白耳義	耳義	六三								四二
奧地利	太利	三六								四八
澳洲	洲	一五								二〇
計										一五



鶏品種別各國出品點數表

△印ハ任意出品點數

國名	種別	佛蘭西	獨逸	英吉利	伊太利	ユーゴスラビア	和蘭	西班牙	北米合衆	瑞西	洪牙利	計		
												雄	雌	
レグホー	雄	一六	一三	四	三	二	一	二	一	一	一	一	一	一
レグホー	雌	三三	二五	六	二	一	一	二	一	一	一	一	一	一
フリマ	雄	二六	一一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
フリマ	雌	三三	二二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
ドット	雄	一六	一一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
ドット	雌	二七	二二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
イランド	雄	一六	一一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
イランド	雌	二四	一八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
オー	雄	一三	一一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
オー	雌	二一	一六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
ミノル	雄	二九	二六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
ミノル	雌	三六	二九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
サセツク	雄	一三	一一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
サセツク	雌	二〇	一五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
ランシヤ	雄	一三	一一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
ランシヤ	雌	二一	一六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
アノコ	雄	一三	一一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
アノコ	雌	二一	一六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
其他	雄	一八	一六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
其他	雌	二六	二一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	計	三、八九	三、二五	一、八五	一、五一	一、〇三	一、〇七	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三

雌雄別出品羽數

△ハ任意出品點數

國名	種別	雄	雌	計	七面鳥	鷲	鷲	兔	鳩	傳書鳩	珠鷄	計	和蘭		西班牙		北米合衆		瑞西		洪牙利				
													雄	雌	計	雄	雌	計	雄	雌	計	雄	雌	計	
佛蘭西	鷄	二一	三九	六〇	二	三	六	九	一	一	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
獨逸	鷄	二二	三九	六一	二	三	六	九	一	一	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
英吉利	鷄	二二	三九	六一	二	三	六	九	一	一	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
伊太利	鷄	二二	三九	六一	二	三	六	九	一	一	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
ユーゴスラビア	鷄	二二	三九	六一	二	三	六	九	一	一	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
和蘭	鷄	二二	三九	六一	二	三	六	九	一	一	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
西班牙	鷄	二二	三九	六一	二	三	六	九	一	一	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
北米合衆	鷄	二二	三九	六一	二	三	六	九	一	一	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
瑞西	鷄	二二	三九	六一	二	三	六	九	一	一	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
洪牙利	鷄	二二	三九	六一	二	三	六	九	一	一	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
計		一、六八〇	二、四〇〇	四、〇八〇	五〇	一〇〇	二〇〇	三〇〇	四〇〇	五〇〇	六〇〇	七〇〇	八〇〇	九〇〇	一、〇〇〇	一、一〇〇	一、二〇〇	一、三〇〇	一、四〇〇	一、五〇〇	一、六〇〇	一、七〇〇	一、八〇〇	一、九〇〇	



白	ブルガリア	加	丁	佛	獨	英	伊	ユーゴスラビア	和	西	北	瑞	洪	計
三	九	八	五	三	二	〇	一	一	八	六	六	二	一	二二
二	九	三	九	二	二	二	一	二	五	六	六	三	三	九三
六	六	三	六	五	一	九	一	三	〇			一	一	一七
三	三	九	三	二	二	五	一	一	八	九	六	四	二	二四
				二	九	六	一	二	六			九	四	五四
			六	三	三									二四
			六	三	六	一	五	三	六				三	四八
			六	六	六	八	六	六	八					二六
			三	三	三	六	三	三	三					二七
六	三		六	二	二	九	〇	六	三	一	九	二	四	九三六

△印ハ任意出品點數

### 第三、視察旅行

第五回萬國家禽會議ニ引續キ會議終了ノ翌日九月十六日ヨリ同廿三日ニ至ル八日間會議後旅行 (Post Congress Tour) ト稱シ伊太利各地ノ視察並見學旅行舉行セラル、之ニ參加セル會員男子五七名、婦人四五名計一〇二名ニシテ本邦ヨリハ畜産試驗場技手波多野正參加セリ、而シテ其ノ旅行ノ概要左ノ如シ

九月十六日 (土曜日)

午前八時二〇分羅馬出發、ヘルチア市ニ於テチヨコレート工場、家禽、アングラ兎飼育場ヲ視察シタル後同夜深更フロレンス市到着 一泊

九月十七日 (日曜日)

州立養鶏試驗場視察後、市ノ内外ヲ遊覽 "I. S. A. F. delle Cascine" ニ於テ茶菓ノ饗應ヲ受ク、一泊

九月十八日 (月曜日)

午前七時十五分フロレンス市出發、ピサ市ニ於テ寺院其他ヲ見物、一一時一六分レグホーン市到着 Gherardesca 伯養鶏場、Teuta Danoratico トマト罐詰製造工場及白色レグホーン種原産地方ヲ視察シタル後、午後八時同市出發、深更ボロニヤ市到着



九月十九日 (火曜日)

ボロニヤ大學、大學博物館、州立養鶏試験場見學ノ後、市内及ギギー村遊覽、同地ノ雉、野鶏飼育場ヲ視察同市 一泊

九月二十日 (水曜日)

午前七時二〇分出發、ロービゴ市ニ於テ養鶏試験場視察後午後一時五〇分パデュア市到着、市内遊覽、ベネチヤ三縣聯合獸疫調査所 (Istituto zooprofilattico Sperimentale delle tre Venezie) 及パデュア大學見學後ベニスニ向ヒ午後七時半同市着 一泊

九月二十一日 (木曜日)

Murano 及 Burano 島遊覽、午後ベニス市長ノ晚餐饗應アリ

九月二十二日 (金曜日)

午前九時三〇分ベニス出發、途中ヴァルタニテ市ニ於テ毛織工場、農事試験場ヲ視察、ピセンツア市ニ至リ同市遊覽後午後八時一五分ミラン市ニ向ヒ、一一時四〇分同市着 一泊

九月二十三日 (土曜日)

鶏卵肉市場並 Ovocultura Valmonte 養鶏場ヲ見學セリ、本養鶏場ハ個人ノ經營ナルモ諸般ノ設備最モ完備セルモノノ一ナリ

午後二時自動車ニテコモ市ニ向ヒ途中船中ニテ茶菓ノ饗應アリ、午後七時歸途ニ就キ午後八時ミラン市歸着 散會

### 第五回萬國家禽會議報文目次

#### ◎總會報文

- |          |                         |                      |
|----------|-------------------------|----------------------|
| 第一號 (伊)  | 家鶏ノ起源ニ關スル研究             | A. Ghigi             |
| 第二號 (獨)  | 鶏ノ榮養生理                  | E. Mangold           |
| 第三號 (英)  | 一九三二年及三三年ニ於ケル英國ノ養鶏業     | P. A. Francis        |
| 第四號 (伊)  | 家禽ニ於ケル内分泌學ノ研究           | E. Baldi             |
| 第五號 (獨)  | 家兔系統論                   | H. Nachtsheim        |
| 第六號 (米)  | 亞米利加合衆國ニ於ケル養鶏業          | J. A. Hannah         |
| 第七號 (伊)  | 家禽疾病防遏法                 | P. Bisanti           |
| 第八號 (獨)  | 家禽ノ寄生蟲病及傳染病ニ關スル豫防       | H. Messner, & others |
| 第九號 (佛)  | 鶏ノ發生、生殖並病理ニ關スルヴァイタミンニ就テ | H. Simonnet          |
| 第一〇號 (獨) | 能力檢定品種改良法               | L. Weimiller         |
| 第一一號 (伊) | 産卵能力檢定國際規約ニ對スル提案        | S. Tauszig           |
| 第一二號 (伊) | 家禽統計                    | R. Albertario        |



- 第一三號 (西) 各種ノ養鶏教育ニ就テ S. Castelló
- 第一四號 (獨) 養鶏技術指導者ノ公私養成策 R. Römer
- 第一五號 (伊) 肉及毛、皮用トシテノ養兔ノ發達 F. Maiocco

◎第一部 總論及遺傳

- 第一號 (英) 實用鶏ニ於ケル種鶏諸形質維持ノ重要性 C. K. Greenway & W. Hannett
- 第二號 (英) 伴性因子ニヨリテ招致セラル、豫期セザル交配結果 F. A. E. Crew
- 第三號 (獨) 白色レグホーン雌、バンキーパー雄ノ一代雜種ニ關スル觀察 Fr. Wehner
- 第四號 (伊) 白色レグホーン種ニ於ケル雄ニヨル產卵能力ノ遺傳 R. Giuliani
- 第五號 (伊) レグホーン種ニ於ケル羽色ノ遺傳ニ就テ M. T. Fattori
- 第六號 (伊) レグホーン州ニ於ケル養鶏改良 E. Bassi
- 第七號 (伊) 能力向上ヲ目的トセル白色レグホーン種鶏購買者ニ就テ調査セル結果 M. Guardasoni
- 第八號 (伊) 白色レグホーン雌鶏淘汰ニ於ケルホーガン氏法ノ價値ニ就テ E. Borgioli

- 第九號 (日) 白色レグホーン種ノ產卵ニ關スル統計的研究 木村和誠

第一〇號 (瑞典) 白色レグホーン、ロードアイランドレッド及バーネフエ

ルター種ニ於ケル單冠ノ大サ及形態ノ遺傳ニ就テ J. Axelsson

- 第一一號 (米) 鶏、吐綬鶏、鶩及鶩ニ於ケル胚雛成長率ノ比較

H. W. Henderson & R. Penquite

- 第一二號 (英) 一九三〇—一九三三年英國ニ於ケル鶏ノ蕃殖試驗 M. S. Pease
- 第一三號 (奧) ステリヤン鶏ノ發達 S. Prithart
- 第一四號 (伊) シシリニ於ケル逆羽鶏 A. Magliano
- 第一五號 (ニヤ) 鶏卵ノ氣室ニ關スル研究 N. Mihalescu
- 第一六號 (獨) 環境ノ家禽ニ及ボス影響 E. Klein
- 第一七號 (米) 雜種鶏遺傳形質判定ニ於ケル性ホルモンノ應用 L. W. Taylor
- 第一八號 (日) 鶏ノ兩性ノ血清ニ關スル試驗 佐々木清綱
- 第一九號 (米) 輸卵管各部ノ分泌力ト卵重量遺傳トノ關係 V. S. Asmundson
- 第二〇號 (佛) 產卵能力ノ移行 P. Waroquier
- 第二一號 (米) 家禽ニ於ケル就巢性ノ遺傳ニ就テ E. Roberts & L. E. Card



- 第二二號 (獨) 觀測可能ノ形質ト産卵能力トノ關係 Kuethé
- 第二三號 (ルマ) エムデン鶯及支那鶯ノ雜種試驗 N. Teodoreanu
- 第二四號 (米) 孵卵期間ノ長サニ影響ヲ及ボス諸要素 T. C. Byerly

◎第二部 生理、榮養及蕃殖

- 第二五號 (伊) 羽毛ノ色調及雌雄ニ異相ノ發達ニ就テノ生理的研究 G. Montalenti
- 第二六號 (伊) 鶏ノ乾燥甲状腺給與ニヨル換羽ト色調並羽装ノ變化ニ就テ E. Giacomini
- 第二七號 (米) 雄性生殖腺、冠及肉髯ノ發達ニ影響ヲ及ボス諸要素 G. D. Buckner & others
- 第二八號 (佛) 鶯ニ於テ突發セル性ノ轉換ニ就テ F. Caridroit
- 第二九號 (伊) 鶏ニ於ケル産卵ト腦下垂體機能トノ關係 C. Colombi
- 第三〇號 (伊) 紫外線ノ雛ノ生長並健康ニ及ボス影響 A. Pirocchi
- 第三一號 (伊) 鶏ニ於ケル「ブルーサーファブリッシー囊」摘出試験 A. Taibel
- 第三二號 (伊) 孵卵期間ニ於ケル鶏卵各部ノ石灰含量ノ變化ニ關スル研究 A. Cazzanica
- 第三三號 (波) 孵卵中ニ低溫ニヨリ惹起サレタル發育中斷ニ關スル L. Kaufman

研究豫報

- 第三四號 (加) 陽光照射ノ孵化率ニ及ボス影響 T. B. Smith
- 第三五號 (丁) 鶏卵ノ變化ニ關スル研究 P. Ulrik
- 第三六號 (日) 鶏ニ於ケル排卵 芝田清吾
- 第三七號 (愛自) 家禽卵重量ノ變異性 D. Philippott
- 第三八號 (伊) 養鶏飼料トシテノ牡蠣殻及石灰岩粒 G. Giusti
- 第三九號 (伊) 各種無機物質ノ給與試験 A. Vecchi
- 第四〇號 (米) 鶏ニ於ケル「ビタミンG」ノ必要 L. C. Norris
- 第四一號 (米) 若雌ノ健康並産卵ニ對スル「ビタミンA」所要量 R. M. Sherwood
- 第四二號 (和) 育雛飼料トシテノ肝油並人工「ビタミンD」 P. Ubbels
- 第四三號 (芬) 産卵鶏ノ飼料産出ノ理論的並實際的根底 G. von Wendt
- 第四四號 (米) 養鶏飼料ニ慣用サル、蛋白質飼料ノ重要ナル榮養特質 H. S. Wilgus
- 第四五號 (日) 植物性蛋白質ガ鶏ノ交尾及受精ニ及ボス影響 波多野正
- 第四六號 (米) 雛ノ發育及生長後ノ状態ニ及ボス蛋白質基準量ノ影響 G. F. Heuser



- 第四七號 (獨) 產卵鶏飼料中ノ粗纖維及蛋白質 R. Fangauf
- 第四八號 (米) 育雛ニ要スル蛋白質ノ適量 J. L. St. John
- 第四九號 (加) 粒餌ノ鶏榮養上ノ意義 H. D. Branion
- 第五〇號 (伊) 鶏卵ノ生物學的價值 R. Tallarico
- 第五一號 (瑞典) 鶏卵特ニ卵白ノ形成ニ就テ C. H. Hansen
- 第五二號 (和) 產卵ノ變異ニ關スル數量的研究 I. G. Tukker
- 第五三號 (ニルマ) 鶏諸品種間ニ於ケル基礎代謝ノ差異 G. Nichita
- 第五四號 (英) 鶏ニ於ケル脂肪代謝ノ觀察ト實用價值 E. T. Halnan
- 第五五號 (日) 產卵鶏血液中ノ「コレステロール」含有量 海鹽義男
- 第五六號 (伊) 去勢ニ因ル血球ノ變化 A. Magliano
- 第五七號 (伊) 初産日齡ト卵重量並産卵トノ關係 M. Righi
- 第五八號 (獨) 卵黃色ノ標準制定及飼料添加物ニヨル卵黃色ノ變化 D. W. Kupsch
- 第五九號 (英) 小麥副産物ノ組成ノ變異ニ就テ T. J. Shaw
- 第六〇號 (加) 一九三一—三三年ニ施行セル大麥玉蜀黍比較試驗 M. C. Herner
- 第六一號 (伊) 魚粉及其ノ養鶏飼料トシテノ利用 C. M. Maldura

第六二號 (米) 肝粉ノ養鶏飼料トシテノ價值 A. D. Holmes

第六三號 (米) 特種飼料中ノカルシウム對磷ノ比率ノ變化ガ吐糞 F. E. Muschel

鶏ノ成長ニ及ボス影響

第六四號 (伊) 所謂鳩ノ腺囊乳ノ化學的組成及形態學的構成 F. Dulzetto

◎第三部 衛生及疾病

第六五號 (英) 家禽疾病—傳染病學的研究 D. C. Matheson

第六六號 (佛) 佛蘭西ニ於ケル主ナル家禽疾病 G. Lesbouyries

第六七號 (丁) 丁抹ノ家禽疾病ニ對スル指導及防遏 O. Nielsen

第六八號 (伊) サルチニアニ於ケル家禽傳染病及寄生蟲病 G. Pegreffi

第六九號 (和) 和蘭政府ノ家禽防疫ニ就テ B. J. c. te. Hennepe

第七〇號 (瑞) 瑞西ニ於ケル家禽防疫法制並其組織 G. Flückiger

第七一號 (白) 養鶏業ノ發達ノ養鶏衛生ニ及ボス影響 L. Geurden

第七二號 (佛) 專業養鶏場ニ於ケル鶏ノ衛生並疾病ニ對スル抵抗性 E. Huault

第七三號 (獨) 家禽ノ前部呼吸器ノ疾患ニ關スル最近ニ於ケル研究 O. Seifried

成績



- 第七四號 (米) 家禽ロイコーシス E. L. Stubbs
- 第七五號 (米) 家鳩ニ於ケル鳥類寄生性圓蟲病 E. B. Cram
- 第七六號 (伊) ロンバルチーニ於ケル傳染性家禽麻痺症 G. Vinallo
- 第七七號 (波) 家禽コレラノ異常限局 Dr. S. Serkowski
- 第七八號 (ニヤ) 家鳩コレラ M. Mihaliescu
- 第七九號 (日) 家禽ヘスト豫防ノ種痘ニ就テ 近藤 正一
- 第八〇號 (日) 鶏ベスト病毒ニ對スル抵抗性ノ差異ニ就テ 中村 哲哉
- 第八一號 (日) 日本ニ於ケル白痢菌ノ防遏ニ就テ 中村 哲哉
- 第八二號 (米) 合衆國ニ於ケル白痢病急速血液凝集診斷法ノ進歩 J. M. Schaffer
- 第八三號 (米) 合衆國ニ於ケル鶏痘豫防注射ノ發達 J. R. Beach
- 第八四號 (米) 免疫血清ニヨル家禽チブスノ豫防 R. S. Dearstynne
- 第八五號 (ニヤ) 家鳩ニ於ケル「バラチブス」ト其ノ防遏 C. Cernaiann
- 第八六號 (佛) 家禽ニ於ケル擬似結核 C. Truche
- 第八七號 (獨) 家禽麻痺症防遏ノ可能性アリヤ G. Lerche
- 第八八號 (英) 家禽ニ於ケル麻痺症ト其ノ病狀ニ關スル研究 H. P. Bayon

112

- 第八九號 (加) 家禽麻痺症 J. Biely
- 第九〇號 (英) 英國ニ於ケル家禽ノ麻痺症 T. Dalling
- 第九一號 (伊) 異常排卵ニ起因スル下半身麻痺 A. Mensa
- 第九二號 (米) 傳染性咽頭氣管枝炎 F. R. Beaudette
- 第九三號 (獨) 家禽ニ於ケル傳染性腸炎 W. Zwick
- 第九四號 (日) 鶏コクシチウムニ關スル研究 能美季一
- 第九五號 (米) 雛ノ營養上ノ缺陷ヨリ起ル腦軟化症 A. M. Pappenheimer
- 第九六號 (米) バタリー育雛ニ於ケル脚蹠關節病ノ實驗的發生並豫防 J. E. Hunter
- 第九七號 (米) 吐綬鶏及鶏ニ於ケル鷓口瘡 W. R. Hinshaw
- 第九八號 (佛) 家禽ニ於ケル盲腸内寄生蟲 A. Henry
- 第九九號 (加) 鶏蛔蟲 (Heterakis Gallinae) ノ運動ニ關スル觀察 A. D. Baker
- 第一〇〇號 (英) 貧節條蟲 (Davainea Proglotina) ト其ノ疾病 一般寄生蟲ノ病原性並未知ノ一病因 E. L. Taylor

◎第四部 指導及機關



- 第一〇一號 (和) 和蘭ニ於ケル養鶏ノ發達ト其ノ重要性 D. S. Huizinga  
 第一〇二號 (ワルガ) 最近五ケ年間ニ於ケルブルガリヤノ養鶏ノ發達 G. S. Chlebaroff  
 第一〇三號 (ワルギ) アルゼリヤノ養鶏 J. Bernard  
 第一〇四號 (米) 紐育州ニ於ケル養鶏指導計畫 H. E. Botsford  
 第一〇五號 (米) オハイオ州ニ於ケル鶏種改良計畫 G. S. Vickers  
 第一〇六號 (日) 日本ニ於ケル最近ノ鶏産卵能力ノ増進 農林省畜産局  
 第一〇七號 (獨) 獨逸ニ於ケル現行養鶏獎勵施設ノ形態ト目的 Th. Schultz  
 第一〇八號 (獨) 獨逸ニ於ケル鶏系統蕃殖獎勵團體 O. Hopping  
 第一〇九號 (白) 白耳義ニ於ケル養鶏團體 V. Pulinckx  
 第一一〇號 (伊) 養鶏業ニ於ケル婦人ノ活動ト聯合會ノ養鶏宣傳 A. C. Moretti  
 第一一一號 (米) 養鶏巡回講習ニ於ケル實地指導ノ效果 C. M. Ferguson  
 第一一二號 (獨) 養鶏相談ノ成功 B. Schliösingk  
 第一一三號 (ワルガ) ブルガリヤ地方種ノ蕃殖價值ニ就テ G. S. Chlebaroff  
 第一一四號 (獨) 官民合同ノ養鶏獎勵五ケ年計畫 S. Mühlberg  
 第一一五號 (米) 健康雛育成運動ニ就テ R. E. Jones

- 第一一六號 (和) 和蘭ニ於ケル養鶏組合ノ活動 P. J. van Haaren  
 第一一七號 (獨) 血統登録組合 A. von Burgsdorff  
 第一一八號 (伊) 「トラップネスト」ニ關スル觀察 F. Clementi  
 第一一九號 (米) 北米合衆國ニ於ケルR、O、P O. E. Shear  
 第一二〇號 (伊) 伊太利ニ於ケル養鶏組合 R. Rinaldi Ceroni

◎第五部 經濟問題及家禽生産物ノ取引

- 第一二一號 (佛) 鶏卵變敗ノ起因ニ關スル考察 C. H. Perard  
 第一二二號 (佛) 水素イオン測定ニヨル鶏卵新鮮度鑑別法 Ch. Voitelier  
 第一二三號 (米) 合衆國ニ於ケル鶏卵ノ防腐用油處理法ノ實用化 J. Lawler  
 第一二四號 (米) 最近經濟恐慌ニ對スル本邦冷凍乾燥卵業ノ活動 A. D. Greenlee  
 第一二五號 (米) 冷蔵卵ノ重量減損 M. E. Pennington  
 第一二六號 (獨) 鶏卵市場組合ニ於ケル諸實驗 F. Skaller  
 第一二七號 (白) 鶏卵ノ標識ト其養鶏業ニ及ボセル影響 F. Mannes  
 第一二八號 (伊) ミラン帝室養鶏試驗場ニ於ケル孵卵費及三ヶ月迄ノ 育雛費 G. Giusti



- 第一二九號 (獨) 世界各國ニ於ケル養鶏業ノ比較研究 W. Rieth
  - 第一三〇號 (獨) 世界的ニ有利ナル養鶏生産物消費宣傳 F. Plenningsdorff
  - 第一三一號 (加) 加奈陀ニ於ケル養鶏生産物ノ取引 C. Henderson
  - 第一三二號 (ニヤ) ルーマニヤ小農家ニ於ケル養鶏收益 J. Braghina
  - 第一三三號 (瑞) 瑞西ニ於ケル養鶏生産物ノ利用ト其ノ鶏卵、肉ニ及  
ボセル影響 K. Kleb
  - 第一三四號 (米) 合衆國ニ於ケル鶏卵肉ノ國營検査及格付 R. C. Potts
  - 第一三五號 (米) 合衆國ニ於ケル吐綬鶏ノ公定格付ニヨル取引狀況 T. W. Heitz
  - 第一三六號 (米) アイオハ州ニ於ケル養鶏生産物ノ販賣指導 W. D. Ternohlen
  - 第一三七號 (米) 合衆國ニ於ケル鶏卵及生鳥ノ格付 A. E. Jones
  - 第一三八號 (米) 合衆國ニ於ケル鶏ノ急速冷凍 C. Birdseye
- ◎第六部 養 兔
- 第一三九號 (伊) 家兔ニ於ケル染色體數 C. Ragonieri
  - 第一四〇號 (英) 家兔ニ於ケル「ブリュー」ト「ダッチ」間ノ新連鎖關係 M. S. Pease
  - 第一四一號 (佛) 卵子ノ成熟ガ性決定ニ及ボス影響 Ch. Voitellier

- 第一四二號 (伊) アンゴラ兔ニ於ケル流産症ニ就テ D. Bidone
- 第一四三號 (伊) 紫外線照射飼料ニヨル幼兔ノ血球ノ變化 A. Magliano
- 第一四四號 (獨) アンゴラ兔ノ皮毛 E. Tänzer
- 第一四五號 (伊) 數種ノ家兔ノ鼻加答兒ニ就テノ觀察 C. Ragonieri
- 第一四六號 (白) ベルギーニ於ケル實用養兔獎勵法 H. Monier-Tilmann
- 第一四七號 (白) ベルチヤン兔ノ體型及種類ノ統一ニ就テ H. Monier-Tilmann



## 二、總會報文

第一號 家鶏ノ起源ニ關スル研究

伊 太 利    **ボロニア** 國立大學動物學教授

A. Ghigi

赤色野鶏ト綠襟野鶏ノ一代雜種ノ雌ハ生殖能力ヲ缺クモ雄ニ於テハ微弱ナル生殖力ヲ有スルヲ以テ之ト家禽及赤色野鶏ヲ交配セシニ其ノ何レノ子孫モ兩性共ニ生殖能力ヲ有スルニ至レリ、次ニ「**セIRON**」野鶏ト矮鶏種トヲ種々交配セルニ兩性共ニ生殖能力ヲ有スル雜種ヲ得タルヲ以テ之等ノ外貌ノ遺傳竝換羽狀態ヲ考究スルニ現存ノ家鶏ノ各種ノ成立ニハ單ニ赤色野鶏ノミガ干與スルニ非ズシテ他ノ三野鶏モ共ニ加ハリ居ルモノト推定サル

第二號 鶏ノ榮養生理

獨 逸    伯林高等農業學校動物生理研究所長

E. Mangold

鶏ノ啄食ヨリ喙囊、筋胃及腸ニ於ケル消化作用竝攝取飼料ノ吸收、排泄狀態ニツキ嚴密ナル調査ヲ行ヒ、實際上ノ飼料給與ノ原理ヲ述ベテ飼料ノ消化率ノ多少ハソノ配合ノ合理的ナルヤ否ニ依ルコトヲ示セリ

第三號 一九三二年及三三年ニ於ケル英國ノ養鶏業





「イングラント」及「ウエルス」ニ於ケル養鶏業ハ最近二十年間ニ異狀ナル發達ヲ示シ鶏卵ノ如キハ一九一三年ニ於テ生産五、五五〇、〇〇〇磅ナリシガ一九三二年ニハ一七、二七〇、〇〇〇磅ニ増加シ食鶏ト併セ總額ハ一九、七五〇、〇〇〇磅ヲ産シ乳製品、大家畜ニ次ギ農業生産物中第三位ヲ占メタリ次ニ鶏卵ノ需給状態ヲ見ルニ一九一三年ニハ需要ノ七〇%ヲ國外ヨリ輸入セシモ一九三二年ニ於テハ四〇%ニ下リ一方國內生産高ハ一七〇%ヲ増加シ一人當消費量モ又二五%ノ増加ヲ示セリ然レ共最近ノ世界不況ハ一般消費力ノ減退ヲ來シ金輸出禁止鶏卵關稅ノ賦課ニモ拘ラズ卵價ハ大戰後引續キ低落ノ一途ヲ辿リ爲ニ養鶏家ノ收益次第ニ減少スルノ傾向ニ有リ、政府ハ一九三一年イングラントニ於テ養鶏經濟調査ヲ行ヒタルニ稀ニ一羽當最高一二「シリング」ノ收益ノアリシモ最低ニ「シリング」ノ缺損ノモノモアリ生産技術ノ向上普及竝之ガ對策ノ必要ヲ一層痛感スルニ至レリ、政府ハ數年前ヨリ種々努力ノ結果鶏卵食鶏ノ嚴密ナル規格ヲ設定シ之ニ目下穀物、果物等ニ準ジ國產標ヲ附シテ一九三一年制定ノ農產物販賣法ヲ適用シツ、アリ

尙最近ハ農產物及鶏卵ノ輸入調節竝國內生産統制ヲ行フ爲ニ議會ニ對シ國債發行ヲ提議セリ

第四號 家禽ニ於ケル内分泌學ノ研究

伊 太 利

E. Baldi

著者ハ家禽ニ於ケル各内分泌腺ノ機能竝雌雄ノ去勢、臍ノ移植、腺液ノ注射、腺組織ノ移植等ノ影響及兩性具有、半雄半雌性等ノ中間性現象ヲ述ベ最後ニ Danforth 及 Foster 氏ノ皮膚ノ移植ニ關スル研究ニ基キテ鳥類ノ性ノ決定ハ「ホルモン」ト遺傳形質ノ融和如何ニヨルト論ゼリ

第五號 家兔系統論

獨 逸 伯林農科大學遺傳學研究所

H. Nachtsheim

家兔ハ成立比較的淺ク中世紀以後歐羅巴ノ野兔ヨリ馴致サレシモノナルヲ以テ遺傳學的研究ニヨリ各品種ノ起源ヲ知ルヲ得ベシ、即チ現在ノ家兔ノ各品種ハ突然變異ト雜種交配ニヨリ作出サレシモノニシテ一九世紀ノ中頃マデハ僅カ四品種ニ過ギザリシモ其ノ間ニ十五個ノ突然變異型ヲ得、一九〇〇年ニハ十二品種ノ成立ヲ見後半ニ三種ノ變異ヲ加ヘタリ、尙最近三十年間ニ於テハ六種ノ變異ヲ得種々ノ配合ニヨリ今日ノ如キ多數ノ品種ノ成立ヲ見ルニ至リシモノニシテ將來モ更ニ種々ノ組織的交配ニヨリ新品種ノ作出可能ト信ゼラル

第六號 亞米利加合衆國ニ於ケル養鶏業

北米合衆國 ミシガン州立大學

J. A. Hannah

合衆國ニ於ケル人口ノ增加率ハ一九二〇年ヨリ十ヶ年ニ於テ一六・一%ナルニ對シ鶏卵ノ生産ハ一九一九年ヨリ十ヶ年間ニ六二・六%ノ異狀ナル増加ヲ示ス、今一九二〇年及一九三〇年ノ家禽調査



ノ結果ヲ比較表ニ示セバ次ノ如シ

年次	鶏飼養戸數	飼養羽數	生産卵數	成雌一羽當産卵數
一九二九年	五,五三,一〇八	六三,〇七,〇三三	三,三六,六元,八六四	六五・二
一九一九年	四,七六,一〇三	四三,一〇〇,六六九	一九,八四八,五七,一八四	五五・三

年次	家禽生産額	一ケ年一人當消費量	一人當飼養羽數
一九二九年	一,四六,九六,八〇六 <small>弗</small>	三三・八 <small>箇</small>	五・四八 <small>羽</small>
一九一九年	一,〇五〇,一四,七五〇	一七・八	三・五三

次ニ米國孵卵業ノ發達ハ全國初生雛協會ノ貢獻スル所大ニシテ孵卵場及種鶏ノ検査ニヨリ種禽ノ繁殖並生産雛ノ品質ヲ留意セシメ今日ノ如ク一般農家ニ對シ充分ナル信用ヲ獲得セリ

一九二九年ノ調査ニ依レバ採卵用孵化業者ハ雛二七二、四〇三、九六二羽ヲ農家九五二、七八三戸ニ供給シ猶漸次其數ヲ増加スル傾向ナルヲ以テ一般農家ノ種鶏ノ改良ハ孵卵業者ノ種鶏ノ良否ニ依ルモノニシテ米國ノ養鶏ノ盛衰モ一ニ茲ニ存スベシ

近時鶏卵肉ノ需要ハ品質本位トナリ從ツテ生産者モ大ニ之ニ意ヲ用ヒ、各州ノ産卵能力檢定モ生産

卵ノ重量、型狀ヲ考慮スルニ至リ又孵卵業者モ二打二十三―二十四オンスノ種卵ヲ用ヒツ、アルヲ以テ近時鶏卵ノ資質大ニ向上セリ、尙一般農家ハ政府ノ獎勵ニヨリ販賣組合ヲ設立シ出荷ノ調節販賣ノ合理化ヲ圖ル等近年米國養鶏業ハ種々ノ改善行ハレ今後更ニ一層改新ノ傾向ニアリ

第七號 家禽疾病防遏法

伊 太 利

Bisanti

鶏ノ法定傳染病トシテ現行ノ鶏コレラ及鶏ペスト以外ニチフテリヤ、鶏痘、鶏チブス、鶏結核ヲモ加ヘテ防遏スルヲ可トシワケチンノ供給ハ政府ソノ責ニ當リテ豫防注射ハ發病地方ニ次ギ近接區域ニモ施行スベク又特別法例ニヨリ罹病地方ヨリ鶏ノ搬出ヲ禁止スルト共ニ貨車及自動車ニヨル一般ノ鶏輸送ニ付テモ病毒傳播ヲ阻止スルタメニ防疫策ヲ講ズベシ

第八號

家禽ノ寄生及傳染病ニ關スル豫防

獨 逸 ハノヴァー 獸醫大學衛生研究所

H. Miessne R. Berge and R. Wetzel

養鶏經濟上傳染病ノ防遏ハ最重要事項ナリ、而シテ罹病鶏ノ個々ニツキ處理スルハ不經濟ナリトシ次ノ傳染病ニ就キ各々簡單ニ獨逸ニ於ケル發生經過並豫防法ヲ列舉セリ

(一) 鶏コレラ、鶏ペスト (二) 鶏結核 (三) チフテリヤ性鶏痘 (四) 家禽腸カタル (五) 白痢症 (六) 家禽麻痺症 (七) 黑頭病 (八) 吸血蟲 (九) 絛蟲 (十) 其他寄生蟲



第九號 鶏ノ發生、生殖並病理ニ關スル**ヴィタミン**ニ就テ

佛 蘭 西 獸醫學得業士

H. Simonnet

鶏ノ飼料ト榮養ニ關スル**ヴィタミン**ノ影響ヲ説キ現在發見サレタル**ヴィタミン**ノ種類、效用並ソノ  
缺乏ニ依ル疾病ニ對スル最低必要量ト適量ニ就キ記述セリ

第一〇號 能力檢定品種改良法

獨 逸

L. Weimiller

獨逸ニ於ケル能力調査ノ一般法ヲ擧ゲ外貌ニ依ル多産鶏ノ鑑別法ニ就キ論ジ、**ホーガン**氏法ハ休産  
鶏ニノミ適用シ得ルモノニシテ精確ナル選別法ハ**トラツブネスト**調査ニ依ル他無キヲ述ベ次ニ獨逸  
種鶏登錄協會ノ施行シツ、アル産卵能力檢定事業ノ方針並登錄方法ヲ示シテ本法ガ品種改良上大ニ  
貢獻シツ、アルルコトヲ説ケリ

第一一號 産卵能力檢定國際規約ニ對スル提案

伊 太 利

S. Tausig

現在ノ産卵能力檢定ハ各國共相異セル規則ニ準據スルヲ以テ直チニ其ノ成績ヲ比較スルコトハ甚ダ  
困難ナリ、而シテ檢定規約ハ各地ノ氣候、風土並經濟的關係ニヨリ容易ニ統一シ難キモ之ガ實行ニ  
ヨリ各國ガ檢定成績ヲ互ニ比較考究スルコトヲ得バ種鶏ノ賣買ニ便スルノミナラズ科學的ニモ亦實

用的ニモ貢獻スル所大ナルベシ、即チ著者ハ個體別檢定法ノ大綱ヲ一定セバ左記要項ノ統制ニ依リ  
國際規約ヲ制定シ得ベシト述ブ

(一) 能力檢定ノ公營

(二) 檢定期間

(三) 檢定鶏ノ年齢

(四) **トラツブネスト** (巢外卵ニ關スル規定)

(五) 飼料並一般管理 (點燈給温等ノ人工増産法ノ除外)

(六) 能力審査標準 (産卵數、卵量及冬季産卵等ニ對スル採點法)

更ニ群檢定及飼料攝取量等ノ調査ハ各自隨意トス、而シテ右ニ基キ國際産卵能力檢定報告ヲ發行シ  
ソノ成績ヲ種類、血統、記號、番號及生産又ハ所有者ト共ニ發表セザルベカラズ、尙詳細ナル規約  
ノ制定ニ就テハ今後各國關係者ノ熟議評定ヲ俟ツトス

第一二號 家禽統計

伊 太 利

P. Albertario

家禽統計ハ現在ノ家禽ノ羽數及生産ヲ明ニシ將來ノ生産量ニ對シ適確ナル推定ノ根據ヲ得ルニ必要  
ナルモノニシテ調査時期ハ春ノ産卵蕃殖ノ盛期ヲ可トス、而シテ羽數ノ調査ヨリ生産卵ノ推定ニ



涉リ種々他ノ統計數ヲモ得ベク年産卵數、羽色、卵等ニ専門的竝經濟的蕃殖條項等ヲモ確定サルベシ、又前年ニ於ケル雛ノ生産、販賣數及孵化卵數ヲ調査スル必要アリ、尙養鷄業ノ完全ナル研究ニ資スル爲ニ品種ノ特性、一般農場ト養鷄場トノ關係、農場型式ト飼養鷄種、職業的見地ヨリノ飼養鷄ト蕃殖者ノ關係等ニ就キ調査ヲ進ムベキナリ

第一三號 各種ノ養鷄教育ニ就テ

西班牙 バルセロナ養鷄研究所長

S. Gastello

著者ハ養鷄學校ニ於ケル三十八年間ノ教育經驗ニ基キ養鷄教育ヲ受ケムトスル者ヲ分チテ自家ノ養鷄ニ從事スル農家ノ子弟、給料ヲ得テ農場其他ノ技術員トナルモノ、新ニ養鷄業ヲ起シ地方養鷄篤農家タラントスルモノ、養鷄學者トナル者ノ四類ニ分チ地方養鷄ノ發達ニ貢獻スルモノハ多ク農家ノ子弟ニシテ自家養鷄ニ從事スル初等又ハ中等程度ノ教育ヲ受ケタルモノナルヲ述ベソノ養鷄ノ教育ノ課程及授業日數ニ就キ論ジ最後ニ教師タル者ハ必ズ養鷄ノ經驗者タルベシト結論ス

第一四號 養鷄技術指導者ノ公私養成策

獨逸 養鷄研究養成所農事顧問

R. Römer

養鷄業ノ發達ハ農家ノ指導者トシテ大養鷄場へ能力檢定所其他鷄卵販賣組合等ニ監督又ハ助手タル養鷄技術家ヲ必要トスルニ至リ、獨逸ハ過去十二年間國ノ補助組織ニヨリコレヲ養成セリ、即チ見

習生ハ農務省ノ認可セル農場ニ於テ二ケ年間勤務シ所定ノ試験ニ合格シ「助手」トナリ以後五ケ年以内各地ノ種々ノ農場ニテ或ハ外國ニテ修業スルヲ要シ更ニ第二回ノ試験ニヨリ合格者ヲ「養鷄得業士」ト稱シ猶一ケ年間政府ノ養鷄研究所ニ入所シタル者ヲ「蕃殖士」ト號シ技術員トナリ得、而シテ政府ハカ、ル試験ノ公平、正確ヲ期スルタメ試験檢定委員ヲ任命ス、又優秀ナル成績ノ者ニ對シテハ指導者タルベキ智識ヲ習得セシメ畜産技術師農學教授其他大農場ノ管理者ヲ養成シツ、アリテ獨逸ニ於ケル本制度ノ成績實ニ見ル可キモノアリ

第一五號 肉及毛皮用トシテノ養兔ノ發達

伊太利 國民養兔研究所長

F. Maioggo

最近養兔ハ大ニ發達シ各國政府ハ之ガ發達ヲ期セムガタメ斯業ノ獎勵助成ニ努メ養兔家ハ又組合聯合會ヲ設立シツ、アリ、而シテ養兔ノ將來ヲ慮ルニ兔肉ノ需要ハ榮養價高キ故増進容易ナレドモ毛皮ニ於テハ生産過剩ニヨリ近年大ニ養兔業ニ混亂ヲ來シタルヲ以テ之ガ利用ニ就キ充分ニ考慮ノ要アリ、而シテ一九二八、二九年歐羅巴養兔聯盟成立シ翌三十年ノライプチヒ會議ニ於テ關係各國ノ聯盟ヘノ助成ヲ要請シ更ニ國際諮問委員會ノ組織ヲ提議シ次ノ諸件ヲ諮ル事トナレリ

(一) 次回國際家兔會議ノ期日竝場所ノ決定

(二) 家兔標準ノ決定ニ關スル質疑答申



- (三) 家兎品評會ニ存スル國際的問題ノ認定
- (四) 養兎ニ關スル參考印刷物ノ蒐集
- (五) 各養兎研究實驗所ニ托スベキ科學的竝實際的ノ研究調査問題ノ設定、又更ニ將來ノ活動ヲ期シ萬國家禽學協會内ニ養兎部ノ設置ヲ提議セリ

### 第一部 總論 及 遺傳

第一號 實用鶏ニ於ケル種鶏諸型質維持ノ重要性  
 イングランド 名譽大佐

C. K. Greenway

現存各鶏種本來ノ實用價值ハ養鶏上極メテ有意義ニシテ蕃殖ニ從事セルモノハ須ラク之等諸特質ノ維持ニ努力スベシト説キ、之ヲ達成シ得ベキ各種ノ手段方法ヲ論ジタリ

第二號 伴性因子ニヨリテ招致サルル豫期セザル交配結果

スコットランド

F. A. E. Crew

實利養鶏ヘノ伴性遺傳原理ノ應用ハ時トシテハ豫期セザル結果ヲ招來シ理論ニ從ハザルコトアリトテ最近ニ於ケル左ノ三例ヲ舉グ

- (一) ライトサセツクス雌×ロードアイランドレッド雄ヨリ出デタル金色仔雄鶏
- (二) 白色ワイアンドット雌×ロードアイランドレッド雄ヨリ出ヅル金色娘鶏、銀色仔雄鶏、無斑娘鶏及横斑仔雄鶏

- (三) J. L. W. Taylor 氏ノ證明セル如ク銀色トシテ蕃殖サレタル雌鶏ハ黃金色出現ノ阻止サレタルモノナルコト



第三號 白色レグホーン雌、バンキーバー雄ノ一代雜種ニ關スル觀察

獨逸

Fr. Wehner

- (一) 白色レグホーンノ羽毛白色性ハ優性ニシテ、脚ノ綠色、嘴ノ着色、眼ノ橙黃色竝大サ及ビ冠形ハ伴性遺傳ヲナシ、矮形ハ優性ナリ
- (二) 體重ハ兩原種ノ中間大ニ遺傳シ、白色レグホーンヨリモ早熟ナリ
- (三) 個體ニヨリ差異アルモ冬季産卵數相當大ナリ
- (四) 早期就巢性ノ傾向アリ
- (五) 産卵重量ハ兩原種ノ中間位ニ遺傳シ、重量ノ變異小ナリ

第四號 白色レグホーン種ニ於ケル雄鶏ニヨル産卵能力ノ遺傳

伊太利

R. Giuhani

フロレンス地方ニ飼養サルル冬季産卵數平均一七・六箇、年産九七箇ナル鶏種ニ優良ナル白色レグホーン雄鶏ヲ交配シテ得タル娘鶏ニ更ニ白色レグホーン種雄鶏ヲ配シテ孫娘鶏ヲ作出シ産卵能力ヲ比較セルニ娘鶏、孫娘鶏ハ何レモ在來鶏ヨリ産卵數多ク特ニ冬季産卵數ハ 1:2, 26:3, 16ノ比ノ示シ著シク向上セシメ得タリ

第五號 レグホーン種ニ於ケル羽色ノ遺傳ニ就テ

伊太利

ボロニヤ國立大學動物學試驗所

M. J. Fattori

- 白色レグホーン雄鶏ヲ黑色、横斑、バフ色、金色及銀色因子ヲ同種接合型トシテ保持セル雌鶏ニ交配シ、四代ニ亘リテ白色レグホーンノ影響ヲ探求シ左ノ結果ヲ得タリ
- (一) レグホーン種ノ羽毛白色性ハ右何レノ羽色ニ對シテモ優性ナリ
  - (二) 但シ横斑ニ對シテノミ完全優性ナルモ其他ノ場合ハ不完全優性ニシテ白色ニ黑色ノ散在セルモノ、雄ノ背部ニバフ色斑點、雌ノ胸部ニ淡褐色羽毛ノ發生ヲ見ル
  - (三) 羽毛ノ黑色及ビ脚ノ着色ハ伴性遺傳ヲナス
  - (四) 横斑ハ灰色竝ニ黑色ノミナラズ他ノ全テノ羽色ニ於テモ現ハルルヲ以テ羽毛ノ着色因子ニ關係ナシ横斑ハ又一箇以上ノ因子ニヨリ決定サレ體部及一枚ノ羽毛ニモ發現スルコトアリ
  - (五) 金色及銀色ハ夫々強力因子ニシテ相互ニ關係ナク遺傳シ得
  - (六) 特ニ金色及銀色型ニ於テ横斑狀ニ現ハルル淡茶色ハ金色及銀色ノ融合セルモノナリト認メラル
  - (七) 地色ニ金色及銀色條ノ現ハルルハ雄ニ限ラル、或種ノ軍鶏等ニモ羽毛ノ各部ニ現ハルル銀色毛
  - (八) ハ雄ニ限ラレ、雌雄ニ異相ヲ示スモノニシテ典型的金色及銀色條ハ雄ノ第二次性徵ナリ
  - (九) 白色レグホーン種ノ優性白色毛ハ横斑、黑色、銀色及金色等ノ發現ヲ阻止スルモ、バフ色ハ白色中ニ包含サルルト認メ難シ



(十) 同種接合型白色レグホーン雄鶏ヲ交配セル時ハ白色又ハ殆ト白色ノ一代雜種ヲ得、雜種第二代ニ於テハ白色因子ヲ缺ク同種接合型ニシテ、各種ノ陰影ニ對シテハ異種接合型タル金色鶏四分一ヲ得、ヨツテ雜種第二代ノ有色鶏ノミヲ蕃殖ニ供用セル時ハ、異種接合型有色鶏ノミヲ殘有セシメ得ベシ

第六號 **レグホーン州ニ於ケル養鶏改良**

伊 太 利

E. Bassi

一九三〇年 "Cattedra Ambulante di Agricoltura" ハ伊國農林省ノ後援ニヨリ白色レグホーン種普及ノ目的ヲ以テ組織的ニ改良種鶏、種卵及種雛ノ配付ヲ行ヒ一九三一年八月ヨリ一九三三年一月ニ至ル間ニ於テ配付セル種鶏四、六四二羽、種卵六九、五四一箇ニ及ビ純粹種ヲ飼養セル養鶏業者ヨリ販賣セル種卵四〇、〇〇〇箇、雛七、〇〇〇羽ニ達セリ、又現在ニ於テハ (一)改良純粹種ノミヲ飼養セルモノ二〇% (二)大部分改良純粹種ヲ飼養セルモノ五〇% (三)一部分改良純粹種ヲ飼養セルモノ二〇% (四)在來種ヲ飼養セルモノ僅ニ一〇%ニシテ一九三〇年迄ハ年産千五百萬箇ナリシ生産卵ハ最近二千三百萬箇トナレリ

第七號 能力向上ヲ目的トセル白色レグホーン種鶏購買者ニ就テ調査セル結果

伊 太 利 **レチヲ・エミリヤ巡回農學校**

M. Guardasoni

自發的ニ或ハレチヲ・エミリヤ巡回農學校ノ勸告ニヨリ系統蕃殖サレタル白色レグホーン若雄ヲ購入セシ農家ニ就テ調査セル結果、在來鶏ノ産卵能力ヲ著シク向上セシメタルノミナラズ將來ニ於テモ效果アラシ

第八號 白色レグホーン雌鶏淘汰ニ於ケルホーガン式法ノ價值ニ就テ

伊太利**フロレンス國立農林科大學畜産試驗場**

E. Borgioli

所謂**ホーガン式法**ノ生物測定學的價值ヲ判斷スルト共ニ、生體重ト産卵箇數間ニ相關々係ノ存否ヲ知ランガタメ、産卵第二年度ニ於テ (一)恥骨間隔 (二)體幅 (三)眼窩距離 (四)鼻骨ノ高サ (五)生體重等ヲ測定シ初年度産卵箇數トノ相關關係ヲ求メテ次ノ結果ヲ得タリ

- (一) 恥骨間隔ト産卵箇數トノ相關係數  $r = +0.3329 \pm 0.0424$
- (二) 體幅ト産卵箇數トノ相關係數  $r = +0.2003 \pm 0.0458$
- (三) 頭部ノ形態及諸數値ハ産卵能力ニ何等ノ關係ナシ
- (四) 生體重ト産卵箇數トノ相關係數  $r = +0.3176 \pm 0.0421$

第九號 白色レグホーン種ノ産卵ニ關スル統計的研究

日 本 畜産試驗場

木 村 和 誠

本報文ハ畜産試驗場ニ於テ過去十四年間ニ亘リ續行セル白色レグホーン種ノ産卵能力増進ニ關スル



蕃殖試験ノ成績ニツキ統計的ニ調査セル結果ノ概要ナリ

本研究ニ於テハ主トシテ供試鶏ノ初年度産卵箇數及ビ其ノ平均重量ニツキ、母鶏ト娘鶏、姉妹鶏、祖母鶏ト孫娘鶏、從姉妹鶏ノ各近親者間ニ現ハレタル關係ヲ統計的ニ檢索シ更ニ父鶏ノ娘鶏ニ對スル影響、祖父鶏ノ孫娘鶏ニ對スル影響ヲモ調査シ、尙初産日齡ニツキテモ産卵箇數並卵平均重量トノ關係ヲ調査セリ

即チ血統關係ノ近親ナルモノノ間ニハ概シテ産卵箇數ニ於テ相當密接ナル關係ヲ示スニ拘ラズ平均卵重量ニ於テハ其ノ關係極メテ微弱ナルカ或ハ相關零ニ近キモノ多シ

又調査鶏全般ニツキ血縁關係ニヨリテ區別セズ初年度産卵ニ關シ統計的ニ調査セシ結果ニ在リテハ産卵箇數ト初産日齡トノ間ニ於テ中等度ノ負ノ相關ヲ示セルモ卵重量ト初産日齡トノ相關ハ極メテ微弱ニシテ産卵箇數ト平均重量トノ間ニハ何等ノ關係ヲ存セザル事ヲ示セリ

第一〇號 白色レグホーン、ロードアイランドレッド及バーネフェルダー種ニ於ケル單冠ノ大イサ及形態ノ遺傳ニ就テ

瑞典 ルンド

J. Axelsson

表記三鶏種ニ於ケル冠ノ長サ、面積及冠尖數ニ關スル遺傳學的觀察ヲナスト共ニ之等三形質間ノ關係ヲ觀察セル結果左ノ如シ

(一) 冠ハ白色レグホーン種最モ長ク、ロードアイランドレッド種最モ短シ、雜種第一代ニ於テハ兩親ノ中間ヲ示セルモ、兩親ノ平均ニ比シテ稍長キヲ以テ長冠ハ短冠ニ對シテ不完全優性ナリ、雜種第二代ニ於テハ兩親ヨリモ稍小トナル、伴性因子ニハ長冠ニ影響スルモノナク、重複因子ニヨツテ決定サル

(二) 冠面積ニ於テモ白色レグホーン最モ大ニシテ、ロードアイランドレッド最モ小ナリ、雜種第一代及第二代ニ於ケル現象ハ全ク冠長ニ於ケル場合ト同様ナリ

(三) 冠尖數ニ在リテハバーネフェルダー最モ多ク、ロードアイランドレッド最モ少シ、雜種第一代ニ於テハ其ノ平均數兩親ノ平均ヨリモ多少大ニシテ多尖因子ハ寡尖因子ニ對シ不完全優性ナルヲ示ス

雜種第二代ニ於テハ幾分明瞭ヲ缺クモ近親交配ノ結果豫期數ヨリモ稍少ナク現ハル、而シテ伴性因子ハ何等ノ影響ナキモ、微弱ナレ共父鶏ト娘鶏、母鶏ト娘鶏間ニ正ノ相關々係アリ

(四) 冠長ト冠面積ノ間ニハ極メテ密接ナル關係アリテ單ニ冠ノ大サニ對スル因子ノミ存在シ、冠長ハ夫ニ應ジテ變化スルモノノ如シ、之等冠長ト冠尖數及冠面積ト冠尖數ハ遺傳的ニ無關係ナリ

第一一號 鷄、吐綬鷄、鶩及鶩ニ於ケル胚雛成長率ノ比較

北米合衆國

Earl W. Hendesson and R. Penquite



(一) 孵化中ノ最適要件ハ日時ニヨリ變化スベキヲ以テ、異ナレル環境ニ於ケル胚雛ノ發育ニ關スル研究ハ孵化成績ノ向上ニ資スベシ

(二) 單冠白色レグホーン及北京鶩ニ於テハ孵卵期ヲ略三期ニ分チ得、各期ニヨリ胚雛ノ發育率ハ一定ス、ツールーズ鶩ニ於テモ略相似タル性質ヲ示スモ、實驗數少ナキヲ以テ全期ニ亘リテ比較シ能ハズ

(三) 鶩卵ノ孵化ニ最適ノ溫度ハ鷄ニ於ケルヨリモ高溫ナルモノノ如シ

(四) 孵卵器中ノ溫度ノ分布狀態ハ最適溫度ニ著シク影響ス、即チ種卵周圍ノ同一平面上ノ溫度ガ全ク等温ナルガ如キ場合ニ於テハ正當ナル發育ニ要スル溫度ハ遙ニ低溫ニテ可ニシテ、扇風器裝置ヲ設ケタル立體孵卵器ニ於テ九九・七度ニ整温セル場合ニハ自然換氣ノ平面孵卵器ニ於テ一〇・八度ニ整温セル場合ト略同等ノ發育率ヲ示ス

第一二號 一九三〇—一九三三年英國ニ於ケル鷄ノ蕃殖試驗

英 國 ケンブリッジ大學農學部 M. S. Pease, M. A.

第四回萬國家禽會議以後ブリテンニ於テ發表サレタル諸家ノ研究ノ總說ニシテバンネットノ「性ニヨル遺傳因子ノ連鎖」グリーンウッドノ「母鷄ノ年齢ガ仔鷄ノ能力ニ及ボス影響」ニ關スルモノ等アリ

又前回會議ニ出陳セラレタル新品種キヤムバーハ伴性遺傳ヲ示スト云フ科學的興味ヲソソリシ時代ヨリ漸ク實用鷄タラントシツツアリト云フ

第一三號 ステイリヤン鷄ノ發達

オーストリア ラスニツツヘー F. Trithart

ステイリヤン鷄ハバンキーバ鷄ニ類似シ古來歐洲ニ知ラル、本種ハ二ノ内種アリ、一ハ肉用種ニシテスルムターラー (Sulm taler) ト稱シ他ハ兼用鷄ニシテアルトスタイラー (Altsteier) ト呼ブ、共ニ肉質良好ニシテ脛及皮膚ハ白色ヲ呈ス

本邦ニ於ケル産卵能力檢定ニ於テアルトスタイラーハ平均二二〇箇ノ成績ヲ示セルコトアリ、本種ハ體質極メテ強健ニシテ嚴寒、酷暑ニ耐ヘ、放飼ニ適セルモ純集約經營ニハ適セズ  
ライトサセツクスト雜交セバ伴性遺傳ヲナシ其ノ産卵能力優秀ナリ

本種ハ他種ニ比シ産卵所要ノ飼料量少ナク、本邦一般農家ニハ理想的品種ナリ

第一四號 シシリニ於ケル逆羽鷄

伊 太 利 メツシナ大學畜産學教授 A. Magliano

逆羽鷄ハ東洋ノ原産ニシテ伊太利ニ於テハシシリ島ニ最モ多ク飼養セラル、之ハ氣候ノ關係竝同島ノ家婦ノ他種ニ比シテ多産ナリト誤信セルニヨルモノナルベシ、逆羽鷄ハ特種ナル多様性ヲ持



チ、其ノ體型ニ於ケル變異極メテ多ク從來他品種ト交雜サレ、其ノ遺傳形質ノ探究極メテ困難ナリトセラシ

本報文ハ本種ニ特異ノ逆羽性ト相關連シテ發現スル生理的諸形質ヲ掲ゲタリ

第一五號 鷄卵ノ氣室ニ關スル研究

ルーマニヤ フカレスト國立畜産試驗場助手

N. Minulescu

一九三一年一月一日ヨリ一九三三年一月一日ニ至ル迄、鷄卵ノ氣室ノ形成、位置及發達等ニ就テ觀察セルニ、氣室ハ產卵後二分乃至一〇時間ニ形成サルルモ、大多數ハ產卵後六乃至六〇分間ニ現ハル、其ノ發現スルヤ經〇・五—〇・九種ノ圓板狀ヲ呈シ、最初ノ二時間ニ於ケル發達最モ著シク、經一・三—一・五種トナリ二四時間後ニハ經二—二・五種ニ達ス、爾後增徑率ハ極メテ緩漫トナリ一日〇・〇五—〇・一〇種ヲ増大スルニ過ギズ氣室ハ殆ド常ニ鈍端ノ中心部ニ位シ極メテ稀ニ側面ニ扁ス、卵ノ鈍端或ハ全面ニコロジウム又ハアラビヤゴムヲ塗布シ、氣孔ヲ閉塞セル場合ト雖モ氣室發生スルモ幾分晚ク其ノ增徑率ハ產卵後第三日ニ於テ僅カニ〇・六種ニ達スルニ過ギズ

第一六號 環境ノ家禽ニ及ボス影響

獨逸 バイヒンゲンエンツ

E. Klein

英國ヨリ輸入サレタルドーキング、マレイ及インディアンゲーム等骨格ノ發達著シキ品種モ獨逸ニ

於テハ骨格ト共ニ外貌ノ退化ヲ來ス、之ハ氣候ト飼料ノ影響ニシテ、土壤ノ石灰含有量、海濱土砂ノ沃度含有量ガ飼料成分ニ影響スルヲ以テナリ

エールスベリ—鷄等ニ於テモ同様ノ現象現ハル、環境ハ又羽毛、冠、鳩ノ肉疣ニモ影響ヲ及ボスモノニシテ、特ニ羽毛ノ發達ハ給餌法ノ如何ニ因ルコト多シ、短羽毛ノ品種ニハ軟飼料ハ不可ナルモ長羽毛種又ハ脚羽種等ニハ軟飼料ヲ必要トス又獨逸ニ於テハ英國ニ於ケルヨリ一般ニ冠ノ發達乏シ石灰質及多窒素質土壤ハ羽色及脛色ヲ褪色セシムルモ、肝油ハ脛ノ黄色度ヲ増加セシム、斯ノ如ク環境ハ外貌ニ種々ノ影響ヲ及ボスヲ以テ世界共通ノ家禽標準ノ作成ハ不可能ナリト論ズ

第一七號 雜種鷄遺傳形質判定ニ於ケル性ホルモンノ應用

北米合衆國 カリフォルニヤ大學家禽部

L. W. Taylor

黒色ミノルカ、銀色點斑ハンバークニ於ケル雌雄ニ異相ハ褐色レグホーンニ於ケルト同様雌性ホルモンニヨリ左右セラルモノニシテ雌性ホルモンハ黒色素ノ増加ヲ來サシムルト同時ニ地色及點斑ノ發現ヲ減退セシム、セツクス・リンケーチヲ示セル前報告ノ實驗ハ今回ノホルモン說ニヨリテモ説明シ得、雌雄ニ異相ヲ示セル一代雜種ノ遺傳形質判定ニ當リ從來ハ數代ニ亘リ、多數ノ後裔蕃殖ヲ必要トシタレドモ、性ホルモンヲ應用セバ雜種第一代ニ於テ數ヶ月ノ間ニ的確ナル結論ヲ舉グルヲ得ベシ



第一八號 鶏血清ノ性別ニ關スル沈澱反應試驗

日 本 九州帝國大學農學部

佐々木 清 綱

雄鶏、産卵鶏並休産鶏ノ各血清ヲ夫々家兎ニ注射シテ免疫血清ヲ作成シ、普通ノ沈澱反應及ビ操氏ノ改良セシ飽和法ニヨリテ、鶏血清ニ於ケル性別ヲ檢索シ次ノ結果ヲ得タリ

(一) 産卵鶏ノ血清ハ各種ノ免疫血清ヲ用ヒ普通ノ沈澱反應ニヨリテハ雄鶏又ハ休産鶏ノ血清ト區別スルヲ得ズ、然レドモ産卵鶏ノ血清ニ對スル免疫血清ヲ特異化シ飽和法ニヨル時ハ、前者即チ産卵鶏血清ハ後二者ト明カニ識別スルヲ得、而シテ後二者間ニ於テハ各血清ニ對スル免疫血清ヲ用ヒ飽和法ニヨルモ相互ニ區別スルヲ得ズ

(二) 雌ノ血清ハ雄又ハ休産鶏ノ血清ト同様ナル關係ニアリ、從ツテ雌及ビ成鶏ニ於テ雌雄ノ血清ハ産卵鶏ノ血清ヲ除ク外ハ相互ニ區別スル事ヲ得ズ

(三) 産卵鶏ノ血清ニ對スル免疫血清ハ産卵ニ特異ナル沈澱素ヲ含有ス、之ハ産卵鶏ノ血清中ニ存在スル類脂體ニ起因スルモノナルベシ

第一九號 輸卵管各部ノ分泌力ト卵重量遺傳トノ關係

北米合衆國 カリフォルニア大學家禽部

V. S. Asmundson

四一羽ノ若雌初年度初期(十月—二月間)ノ産卵二三五箇ニツキ、卵各部ノ平均重量及比率ヲ求ル

ニ次ノ如シ

卵重量	四六・一四瓦
卵黄重量	一二・六五瓦 (二七・四二%)
卵白重量	二八・四三瓦 (六一・六二%)
卵殼膜重量	〇・四八瓦 (一・〇四%)
卵殼重量	四・五七瓦 (九・九〇%)

右各部分間ノ相關々係ヲ見ルニ(一)卵白、卵殼間ニ於テハ  $r = +0.705 \pm 0.022$  ナル高係數ヲ(二)卵黄、卵白間ニハ  $r = +0.432 \pm 0.036$  (三)卵黄、卵殼間ニハ  $r = +0.495 \pm 0.033$  ヲ示ス、卵白、卵殼膜、卵殼重量ノ大小ハ輸卵管各部ノ大小ニ歸因スルコトハ周知ノ事ニシテ、卵黄ノ大サハ輸卵管ノ分泌機能ヲ左右スルモ卵各部ノ重量ハ相互ニ何等ノ關係ナク變化シ、全卵重量ハ各部ノ相互ニ關係ナキ變化ニ從フモノナリ、故ニ卵重量ノ遺傳ニ關スル精確ナル研究ヲ爲スニハ卵各部ノ重量ノ變化ヲ考慮スルヲ要ス

第二〇號 産卵能力ノ移行

佛 蘭 西 フランスノ養鶏主筆、全國養鶏組合理事長 P. Waroquiez

一九二〇年以降産卵能力ノ遺傳ニ關スル試験ヲ行ヒ左ノ結果ヲ得タリ (一)母鶏ト息鶏、祖母鶏ト孫



鶏ヲ交配セル結果ハ産卵數ノ低下ヲ來ス (二) 兄弟、姉妹間ノ交配ニヨツテモ娘鶏ノ能力低下來スモ  
 (三) 第一從兄弟姉妹間ノ交配ニ於テハ前例ニ於ケルヨリモ成績良ク (四) 第二從兄弟姉妹間ニ於テハ  
 常ニ淘汰ヲ行ヘバ成績極メテ良好ナリ

毛皮ヲ目的トシレツキス兎ニ於テモ同様ノ試験ヲ行ヒタルニ、甚シク前例ト異ナレル結果ヲ得、而  
 シテ新血液ノ優良雄ヲ多産鶏ニ直配シタル際ハ常ニ最優ノ産卵鶏ヲ得タリ、近親交配ハ形態ノ遺傳  
 ニ最モ效果アルモ過去ニ於ケル近親交配ノ惡影響ノ現レタルモノニ於テハ其ノ結果良好ナラズ、即  
 チ近親交配ハ血縁關係ナキモノノ間ニ於テ實行スベク而モ母鶏ト息鶏、祖母鶏ト孫鶏只一回限リト  
 シ、爾後ハ新血液ヲ混ジタル後第一、第二從兄弟姉妹間ノ交配ニ限ルモノトス

第二一號 家禽ニ於ケル就巢性ノ遺傳ニ就テ

北米合衆國 イリノイ農事試験場

E. Roberts & L. E. Card

黒色コーニツシユ及白色レグホーンヲ交雜シ、コーニツシユ一三五羽白色レグホーン一四四羽、一  
 代雜種一三三羽、二代雜種一三七羽、戻シ交雜種一〇六羽計六三三羽ヲ用ヒテ就巢性ノ遺傳ニ關ス  
 ル研究ヲ行ヒタリ

コーニツシユ總數ノ九〇%ハ一回以上就巢セルモ白色レグホーンニ在リテハ僅ニ四%ニ過ギズ、  
 而シテ其ノ回数コーニツシユニ於テハ平均年三・五回、白色レグホーンニ在リテハ年一回ナリキ、猶

コーニツシユヲ父鶏トセル一代雜種ハ就巢率八八%同回数平均年三・七回ナルモ白色レグホーンヲ  
 父鶏トセル一代雜種ハ就巢率三七%回数二・一回ナリ、以上ノ結果ヨリ見ル時ハコーニツシユ雄ハ少  
 ナクトモ一箇ノ就巢性因子ヲ持ツモ白色レグホーン雄ハ然ラズシテ、之ヲ父トセル一代雜種ハ  
 前者ヲ父トセル一代雜種ノ如キ強キ就巢性ヲ現ハサズ

第二二號 觀測可能ノ形質ト産卵能力トノ關係

獨逸 カツセル農學得業士

Kuehe

頭蓋骨ハ頭部形態ノ基底ヲナシ變化スルコト無キヲ以テ能力判定ニ當リ其ノ扁平度、幅員、對照度  
 及顔面角ハ特ニ重要視セラレ

眼ノ状態ハ精神状態ノ判定ニ際シテ考慮スベク、神經系統ノ活力及代謝機能ノ強弱ヲ指示ス

冠及肉髯ハ第二次性徴ニシテ、生殖腺ヨリ分泌サルホルモント關係アリ、其ノ分泌機能ハ産卵時  
 ニ旺盛ナルヲ以テ、冠ノ發育程度ニヨリ産卵ノ多寡ヲ推定シ得

嘴ハ多産鶏ニ在リテハ短ク、強ク、稍彎曲シ、先端ハ鈍ナリ、眼角ヨリ先端マデノ嘴ノ長サハ四〇  
 耗ヲ越ヘザルヲ良シトス

胸幅ニ就テハ二型アリ (一) 長ク、深ク樽狀ヲ呈シ、肉及脂肪ノ蓄積ニ對シテ十分ノ餘地ヲ示スモノ  
 ニシテ之ハ生體重ノ増大ニ對シ重大ナル意義アリ (二) 肺臟及心臟ヲ包圍スル胸部細狭ナルモノニシ



テ此ノ如キ鶏ハ體軀不良、産卵能力又低シ

榮養佳良ナルモノハ胸骨ノ基部及骨盤ニ脂肪蓄積ス、産卵開始時ノ若雌及換羽後ノ成雌ニシテ骨盤

ニ脂肪ノ蓄積ナキモノハ榮養不良ノモノニシテ、産卵中體重ノ増加ヲ來スコトナク衰弱スベシ

早熟ト骨盤ノ大サハ、恥骨間ノ距離及胸骨、骨盤間ノ距離ト密接ナル關係アリ、然レドモ之等ノ諸

形質ハ夫々他ノ總テノ諸形質ト同時ニ考慮セラルルニ非ザレバ何等ノ意義ナキモノナリ

第二三號 エムデン鷺及支那鷺ノ雜種試驗

ルーマニヤ バラス・コンスタンツア家畜検査長

N. Teodoreanu

一九〇七年以降エムデン鷺雄、支那鷺雌ヲ交雜シ、一代雜種、二代雜種及戻シ交配ヲ行ヒ次ノ結果ヲ得タリ

- (一) 瘤起ハ中間大ニ遺傳サルルモ稍々支那種ニ近シ
- 灰色モ亦中間位ニ遺傳サレ、一代雜種ニ於テハ雌ハ雄ヨリモ白色度エムデン種ニ近シ
- (三) 咽袋モ亦中間性ニ遺傳サルルモエムデン種ニ近シ
- (四) 體重及卵重量モ亦中間性遺傳ヲナスモエムデン種ニ近シ
- (五) 産卵能力ハ優性ナルモノノ如ク鷄ニ於ケル場合ト異ナレリ
- (六) 瘤起、色調、體重及卵重量ハ多數ノ因子ニヨツテ決定サルルガ如シ

(七) 支那種ニ於ケル嘴及爪ノ黒色ハ劣性因子ニ因ルモノノ如シ

(八) 一代雜種ハ支那種ヨリモ成育速ニシテ、體重エムデン種ニ近ク、且産卵數エムデン種ヨリモ多

キヲ以テ、支那種ニ比シ其ノ經濟的價値大ナリ

第二四號 孵卵期間ノ長サニ影響ヲ及ボス諸要素

北米合衆國 農務省畜産局

T. C. Byerly

- (一) 産卵日ニ於ケル卵重量
- (二) 孵化卵ノ貯藏日數
- (三) 産卵鶏ノ種類
- (四) 孵化雛ノ性ニ因ル孵卵期間ノ長短ヲ試験セリ

重大ナル種卵ハ輕少ナルモノヨリモ長期ヲ要ス、從ツテ強健ナル鷄ハ概シテ重大ナル種卵ヲ生産シ重大ナル種卵ヨリハ概ネ重大ナル雛ヲ孵化スルヲ以テ、孵化ノ晚キ雛ハ少ナクトモ其ノ一部分ハ最も優良ナル産卵鶏ノモノナルベシ

種卵ノ貯藏日數ニ關シテハ、其ノ長キニ從ヒ孵卵期間ハ幾分延長サルロードアイランドレッド、白色レグホーン、ロードアイランドレッド雄ト白色ワイアンドット雌ノ交配竝白色レグホーン、ジャイシーブラックジャイアント種一代雜種間ノ交配等ヨリ得シ種卵ニシテ其ノ重量等シキ時ハ孵化日數ニ殆ド差異ナキモ近親交配サレシ白色レグホーンノ種卵ハ然ラザルモノヨリモ孵化日數十二時間内外延長サル



孵化雛ノ性ハ孵化日數ニ殆ド影響スルコト無シ

### 第二部 生理、榮養及蕃殖

第二五號 羽毛ノ色調及雌雄ニ異相ノ發達ニ就キテノ生理的研究

伊 太 利 羅馬國立大學動物學助教

G. Montalenti

羽毛ノ色調及構造ハ遺傳的並生理的ニ二種ノ要素ノ協力作用ニヨルモノニシテ後者ノ内最モ重要ナルハ内分泌作用ナリ、羽毛ノ性質並雌雄ニ異相ヲ決定スベキ之等ニ種ノ要素ノ重要性ハ數多ノ研究ニヨリ指示セラレ最近ノ數量的探究ハ**ホルモン**ニ對スル羽毛ノ反應原理ヲモ明カニセリ之等ニ基キ**横斑フリマスロツク**ニ於ケル横斑ノ發現ニツキ研究セルニ、横斑ハ遺傳的ニ決定サレ内分泌ノ影響ヲ受ケザル事判明セリ、遺傳的要素ニ對スル羽毛再生組織ノ反應原理ハ内分泌的要素ニ對スル原理ト同様ナリ

**横斑フリマスロツク**羽裝ノ雌雄ニ異相ハ**性ホルモン**ニ因ル構造上ノ二異相ト雌雄ノ遺傳的組成ニ直接起因スル色調ノ二異相トニヨリ形成セラレ

第二六號 鶏ノ乾燥甲状腺給與ニヨル換羽ト色調並羽裝ノ變化ニ就テ

ボロニア

E. Giacomini

鶏ノ甲状腺及ビ哺乳動物甲状腺ヲ鶏ニ給與シ、其ノ羽裝ニ及ボス影響ヲ比較セントシ乾燥粉末ノ鶏甲状腺ヲ**バルタル**ノ種成雌雄ニ給與シ浸出乾燥セル牛甲状腺ヲ**黑色ボロニア**種ニ給與セリ、給與量ハ鶏生體重ニ比例シ略等量ナルモ牛甲状腺ハ鶏甲状腺ニ比シ稍少量トセリ、經口的ニ鶏甲状腺ヲ給與セル結果ヲ見ルニ次ノ諸點ノ他ハ牛甲状腺ト略相似タル影響ヲ及ボスヲ見ル

- (一) 等量給與セル場合其ノ作用ハ稍程度ナリ、即チ牛甲状腺ヲ給與セル場合ト同時期ニ換羽ヲ起スモノノ程度及ビ速度ハ劣レリ
- (二) 再生羽毛ノ褪色ハ全クナキカ或ハ極メテ輕度ナリ
- (三) 再生羽毛ノ變形ヲ起スモ牛甲状腺ニ因ルガ如ク著シカラズ

第二七號 雄性生殖腺、冠及肉髯ノ發達ニ影響ヲ及ボス諸要素

北米合衆國 **ケンタツキー**大學農事試驗場

G. D. Buckner, Ph. D., J. H. Martin  
Ph. D., & W. M. Insko, Tr., M. S.

直射日光ヲ遮斷セル**バツテリ**ニテ育成セル若雄ハ草生地ニ直射日光ヲ受ケシメツ、**コロニー**ニテ育成セルモノニ比シ冠ハ異常ニ發育スルモ睪丸ハ却ツテ小ナルヲ實驗セリ、日光ヲ遮斷シテ育成セル若雄ヲ孵化後四週目ニ冠ヲ切斷スレバ前述ノ**バツテリ**育成ノモノニ比シ肉髯及睪丸ノ發達大ナル、然ルニ**白色レグホーン**若雌ノ孵化後四週目ニ於ケル斷冠ノ卵巢ノ發育ニ對シテ何等ノ影響ナシ



白色レゲホーンノ育成率ニ關シテハ草生地及直射陽光ノコロニー育成ニ依ル場合モ或ハ最初六週間ハバッテリーニテ直射陽光ヲ遮斷シ、爾後ハコロニーニテ育成セル場合モ或ハ又産卵開始期迄草生地ニ出デシメズ、直射日光ニ浴セシメズシテバッテリーニテ育成セル場合モ其ノ差異ハ極メテ僅少ナリ、然レドモ鶏ノ状態及ビ外部性徴ヲ比較スル時ハブロイラーヲ目的トセル場合ノ他ハ六週以上日光ヲ遮斷シテバッテリー育雛ヲ行フハ實用的或ハ經濟的ニ非ザルコト明ナリ、斷冠或ハ冠及肉髯ノ除去ハ何等危険ナキノミナラズ却テ性活力ヲ増進セシムルガ如シ、室内ノバッテリー育雛ニ際シ晴天日ニ二時間ノ直接陽光ニ浴セシムルハ雛ノ發育上有利ナリトス

第二八號 鶯ニ於テ突發セル性ノ轉換ニ就テ

佛 蘭 西 フランス大學生理學研究所長

F. Caridroit

突然ニ性ノ轉換ヲ示セル三羽ノ鶯ニ就テ報告ス、二羽ハバフ色雜種雌ニシテ他ハカーキキャンベル鶯雌ナリ、卵巢ノ部分ヲ組織學的ニ觀察セルニ生殖腺ハ消失セルヲ見羽毛ハ中間性ヲ示セリ、バフ色ハ白色化セルヲ以テバフ色因子ハ卵巢存在時ハ優性ナリシガ如シ、カーキキャンベル鶯ニ於テハ副翼羽ハ雄同様尖端ヲ有セリ、卵巢消失ノ原因ハ老衰及ビ疾病ノ外ハ雜種性或ハ飼料ニ依ルモノナルベシ

第二九號 鶏ニ於ケル産卵ト腦下垂體機能トノ關係

伊 太 利 ミラン國立大學生理學教室

C. Colombi

多産鶏及寡産鶏ノ腦下垂體前葉ヲ組織學的ニ比較研究セル結果、去勢動物ニ就テ諸家ノ觀察セルト同様寡産鶏腦下垂體ハ分泌過大型ニ變性セルヲ見タリ、依テ腦下垂體組織ノ特異的變化ハ生殖腺ヲ缺ケル場合或ハ除去セラレタル場合ニ於テノミナラズ其ノ機能ノ阻害サレシ場合ニ於テモ強大サル、モノナリト信ズ

更ニツオンデツク、アツシユハイム氏ノ強性腦下垂體ホルモンノ筋肉間注射ニヨリ供試鶏全般ニ亘リ顯著ナラザルモ産卵數ノ増加ヲ來サシメタリ

本影響ハ最初一回ノ注射ヲ以テ其ノ反應ヲ現ハシ而モ爾後一ヶ月間有效ナリ

第三〇號 紫外線ノ雛ノ成長並ニ健康ニ及ボス影響

伊 太 利 ミラン國立農科大學畜產學教授

A. Pirocchi

雛ニ紫外線ヲ照對シテ其ノ發育、飼料消費量及健康ニ及ボス影響ヲ試驗シ左ノ成績ヲ得タリ

(一) 體重ノ増加 試験期間中試験區ノ雛ハ試験開始期ヨリ終了時ノ體重六二八瓦ニ至ル迄漸次増加セルモ、對照區ノ雛ハ四〇二瓦以上ニ増加セザリキ、更ニ試験區ノ每週増體量ハ次第ニ大トナリ第一週目末ニ増體量四一瓦、第六週目末ノ一一三瓦ニ達セリ、對照區ニ於テモ第二週末迄ハ正常ノ増體量ヲ示セルモ試験區ニ比シ小ニシテ爾後ハ増體率漸減ス



(二) 飼料消費量ト増體量トノ關係 同一飼料消費量ニ對スル増體率ハ試驗區ニ於テ大ナリ、試驗期間中ノ平均消費飼料ノ澱粉價及増體量ヲ求ムルニ試驗區ニ於テハ澱粉價一・〇九、増體量五二七瓦、對照區ニ於テハ澱粉價〇・八八、増體量三〇一瓦ニシテ増體量ノ澱粉價ニ對スル百分率ヲ求ムルニ試驗區ニ於テハ四八・三% 對照區三四・一%ナリ、即チ試驗區ハ對照區ニ比シ飼料中ノ養分利用力強大ナルヲ知ル

(三) 健康狀態 試驗區ニ於テハ健康狀態ハ常ニ良好ナリシモ對照區ニ於テハ急性又ハ慢性多發性神經炎發生セリ

第三一號 鶏ニ於ケル「ブラザー、ファブリツシー囊」摘出試験

伊 太 利      ロビゴ養鶏試験場

A. Taibel

同種同齡ノ雌雄各一二羽ノ雛ニ於テ「ブルザー、ファブリツシー囊」ノ發達最モ顯著ナル孵化後二〇日乃至六〇日間ニ種々ノ日齡ニ同囊摘出ヲ試ミ對照雛ト比較シ成長速度、成長後ノ生體重、羽毛冠及肉髯ノ發達及着色交尾慾ノ發現並産卵ノ開始等ハ何等本質的差異ノ存セザルヲ確認セリ  
雛ハ能ク本手術ニ耐ヘ且ツ摘出後何等ノ變調ヲ來スコトナキヲ以テ「ブルザー、ファブリツシー囊」ハ少クトモ家鶏ニ於テハ直接生命ニ關係ナキ第二次的意義ヲ持ツモノニシテ其ノ機能ノ喪失ハ代償器官トシテ作用スベキ他ノ淋巴器官ニヨリ償ハル、モノナリト認メラル

第三二號 孵卵期間ニ於ケル鶏卵各部ノ石灰含量ノ變化ニ關スル研究

伊 太 利      ボロニヤ大學動物學教室、理化學教室

A. Cazaniga

胚雛ノ骨格形成ニ要スル石灰分ハ卵殼及卵内容ヨリ給セラルモノナリト傳ヘラル、モ未ダ一般ニ認メラレタル說ニ非ズ且本說ハ卵殼及卵内容ノ石灰含量ニ關シ綜合的調査ヲナサズシテ別個ニ分析シタル結果ニ基ケルモノナルヲ以テ本問題ニ關シテ完全ナル研究ヲ必要トス  
入卵前ニ於ケル卵殼ノ石灰含量ハ個體ニヨリ差異アルモ同一鶏ノ産卵ニ於テハ略一定ニシテ平均二九%内外トサル、本研究ニ於テハ孵卵中ノ諸期ニ卵殼及内容ノ石灰含量ヲ測定シ夫等ノ相互關係ヲ求メタルニ卵内容ノ石灰分ハ第一九日迄約四〇〇%ノ増加ヲ見、卵殼ノ石灰分ハ減少ヲ示シ其ノ程度ハ第一三日以後ハ急激トナル、之即チ第一三日以後ハ卵内容中ノ石灰分ヲ吸收シ盡シタル胚雛ハ更ニ卵殼中ヨリ石灰分ヲ求ムルニヨル、故ニ骨格形成ニ所要ノ石灰分ノ大部分ハ之ヲ卵殼ヨリ仰グモノト認メラル

猶卵殼中ニ於ケル石灰分ノ絶對値ハ前述ノ如キ過程ヲ以テ變化スルモ其ノ百分率ハ孵卵ノ全期間一定ニ保タル、點ヨリ見テ卵殼中ヨリ胚雛ノ吸收スル石灰ハ原素トシテ吸收セズ、卵殼中ニ存在セル化合物ノマ、吸收サル、モノト認メラル

第三三號 孵卵中ニ低溫ニヨリ惹起サレタル發育中斷ニ關スル研究豫報



波 蘭 國立ブラウイ農業經濟研究所實驗形態學部主任 L. Kaufman

- (一) 鶏卵ヲ孵卵器内ニテ最初九日間攝氏三九度ニ加温シ其ノ間攝氏一二—一五度ニ二四時間放冷シ然ル後再ビ孵卵器ニ復歸セシムルモ胚ハ發育ヲ續行シ正常ナル雛孵化ス
- (二) 第九日以後ニ於テ之ヲ行フ時ハ胚ハ死滅ス
- (三) (一)ノ場合二四時間ノ孵化ノ遅延ヲ來ス
- (四) 第一〇日以前ニ於テハ胚雛ノ發育ハ冷血動物ノ夫ニ類似シ其ノ活力度ハ周圍ノ減温ニ對シテ適應シ或ハ一時中斷スルモ其ノ生命ニ對シ何等ノ障害ヲ起スコトナシ

第三四號 陽光照射ノ孵化率ニ及ボス影響

加 奈 陀 オンタリオ農科大學 J. B. Smith

- 一九三〇年グラハム氏ニヨリ發表セラレタル孵化ニ影響ヲ及ボス要素ノ研究ノ續報ニシテソノ主ナルモノ左ノ如シ
- (一) 陽光ノ量ト孵卵率トノ間ニハ強キ相關關係アリ
- (二) 孵化率ヲ良好ナラシムル陽光照射ノ效果ハ給與飼料中ノ動物性蛋白質ノ種類ニヨリ相異ス
- (三) 魚粉、粉乳ヲ併用スルモ產卵數及孵化率ニ對シ何等奏效セズ
- (四) 胚雛死滅曲線ハ照射陽光ノ差異ニヨリ變化ス

- (五) 胚雛死滅曲線ノ頂點ヲ減セシムルコトニヨリ孵化率ヲ増大セシメ得
- (六) 冬季ニ於ケル陽光ノ不足ハ**ビタミンD**ヲ豊富ニ含有スル飼料ノ給與ニヨリテ緩和サル
- (七) 孵化率ヲ良好ナラシムルニ要スル**ビタミンD**ノ所要量ハ成長ニ要スル量ヨリモ大ナリ
- (八) 貧血性胚雛ニ就テ發現ノ時期ヲ記載セリ
- (九) 種禽ニ作用スル他ノ要素ノ存在アリテ胚雛ノ活力ヲ支配ス

第三五號 鶏卵ノ變化ニ關スル研究

丁 抹 コペンハーゲン獸醫農科大學顧問 P. Ullrik & D. Davidsen

- (一) 普通貯藏卵ノ重量減少ハ卵殼ノ氣孔ノ數及大サ並ニ構造ニ因ルコト大ナルモ卵殼ノ相對重量ニヨル影響ナキガ如シ
- (二) 貯藏卵ノ減量ハ貯藏室ノ溫度及濕度ノ影響ヲ受クルコト大ナリ
- (三) 卵殼色ガ貯藏卵ノ減量ニ影響スルガ如キ證據ヲ得ズ、有色殼卵ハ白殼卵ニ比シ減量少ナシトスル說ハ認メ難シ
- (四) 新鮮卵ノアルカリ度ハ八・二ノPH價ヲ有ス、水素イオン濃度ハ產卵當日急激ニ増加シ爾後ハ除々ニ増加シテPHハ九・八—九・九ニ至ル、試験末期ニ及ビテハPH減少ノ傾向ヲ示ス、之ハ卵黃及卵白ノアルカリ度ガ相平均スルニ因ルモノナルベシ



- (五) 滴定法ニヨリ卵白ノアルカリ度ヲ檢定スルニ略同様ノ傾向ヲ示スモ本法ハ極メテ精確ナルヲ以テ其ノ成績ノ變異ハ相當明ラカナリ
  - (六) 貯藏日數ノ測定ニ當テフオルマリン滴定法ヲ應用セバ試驗ノ初期ニ於テハ變異甚シキタメ近似日數ヲ知り得ルニ止マルモ後期ニ於テハ貯藏日數判定ノ指針トナルベシ
- 第三六號 鶏ニ於ケル排卵

日 本 畜産試験場

芝 田 清 吾

鶏ニ於ケル排卵時刻ニ就テハパール及カーチス氏(一九一二)ノ卵白ノ形成ニ關スル實驗材料ヨリ連産中ノ鶏ノ排卵ハ產卵時ト略同時刻ニ起ルベキヲ推定シ得ル外ハ未ダ何等ノ研究ナシ

著者ハ(一)一日休産シ其ノ翌日ハ產卵スベキ状態ニ在ル鶏三〇羽(二)午前中ニ產卵シ其ノ翌日モ亦產卵スベキ状態ニ在ル鶏三〇羽(三)午後ニ產卵セル鶏一〇羽ヲ種々ナル時刻ニ剖檢シ、形成中ノ卵ニ就テハ其ノ卵黃、卵白、卵殼ヲ測定シ次ノ結果ヲ得タリ

- (一) 產卵ナキ日ニ排卵スル場合ハソノ排卵ハ早朝(略日出時刻)ニ行ハル
- (二) 午前中ニ產卵シ且其日ニ排卵スル場合ニハ產卵時刻ト排卵時刻トハ略一致ス
- (三) 午後ニ產卵セル鶏ハ多ク其日ニ排卵ナシ

第三七號 家禽卵重量ノ變異性

愛蘭自由國 ダブリン大學

D. Philpott, B. Agr. Sc., M. Sc.

白色レグーホン初年度ノ產卵ニ就テ全卵量及各部ノ重量ヲ調査シ次ノ結論ヲ得タリ

- (一) 產卵開始後翌年春季ニ至ル間ニ於ケル產卵重量ノ増加ハ主トシテ卵黃重量ノ増加ニ起因シ同時ニ卵白モ僅ニ増加スルヲ見ル、夏季ニ於ケル卵重量ノ微小ナル減少ハ主トシテ卵白重量ノ減少ニ起因シ同時ニ卵殼モ稍々減量ス、而シテ初年度ノ末期ニ及ビテ再ビ重量ノ増加スルハ主トシテ卵白ノ分泌旺盛トナルニ因ル
- (二) 一ケ年產卵平均重量ノ異ナル鶏ノ產卵重量ノ差ハ主トシテ卵白重量ノ相異ニ因ルモ全卵重量並各部ノ重量ニ關シテハ鶏ノ個點ニヨリ差異アルヲ認ム

第三八號 養鶏飼料トシテノ牡蠣殻及石灰岩粒

伊 太 利 ミラン國立農科大學畜産學教室 G. Giusti

本研究ノ目的ハ養鶏飼料トシテ牡蠣殻ハ生理並經濟的ニ石灰岩粒ニ及バザルヲ周知セシメントスルニ在リ、試験期間ヲ前後二期ニ分チ甲群ニハ前期ニ粉碎牡蠣殻ヲ後期ニ石灰岩粒ヲ、乙群ニハ前期ニ石灰岩粒後期ニ粉碎牡蠣殻ヲ夫々粉餌ノ八%ヲ給與シ其他ノ飼料ハ兩群トモ質、量全ク相等シクセリ、其ノ結果

- (一) 生石灰岩粒ヲ給與セル期間ニ於ケル増體量ハ牡蠣殻末ヲ給與セル時期ニ於ケル夫ヨリモ大ナリ
- (二) 一羽一日ニ消化セル有機化合物體石灰〇・一八五瓦、無機化合物體石灰一・九〇瓦ニ



シテ兩群共ニ給與セル炭酸石灰 四・八六瓦ニ比シ甚シク少量ナリ (三) 卵巢及輸卵管ノ活動ハ兩群共ニ正當ナリ (四) 卵重量ト卵殼重量ノ比率ハ兩群共ニ略近似シ且一定ニシテ夫々一〇・〇六%、九・八七%ニ保タル (五) 卵殼一〇〇瓦ヲ形成スルニハ牡蠣殼一九四・六六瓦石灰岩粉一二一・四三瓦ヲ要ス以上ノ成績ヨリ一ケ年平均一六〇箇ヲ產卵セシムルニハ粉餌ノ八%ニ相當スル無機物質ハ過量ニシテ牡蠣殼ノ市價ハ石灰岩粒ニ比シ約倍額ニシテ且生理的效果ノ差異無キヲ以テ、石灰岩粒ヲ使用スルヲ經濟的ナリトス

第三九號 各種無機物質ノ給與試驗

伊 太 利    **ボロニヤ** 國立大學動物學教室

A. Vecchi

白色**レグホーン**ニ鐵及**マンガン**、鹽類ヲ給與シ鶏ノ成長及產卵ニ及ボス影響ヲ試驗セリ、第一試驗ニ於テハ四―七ヶ月半ノ若鶏ヲ用ヒ**サツカリン**、炭酸鐵ヲ飼料ノ〇・五%、**磷酸鐵**〇・三%、**炭酸マンガン**〇・五%、**サツカリン**炭酸鐵〇・五%、**炭酸マンガン**〇・五%、**磷酸鐵**〇・三%及**炭酸マンガン**〇・五%ヲ箇別ニ給與シ、第二試驗ニ於テハ八―一〇ヶ年半ノモノニ**サツカリン**炭酸鐵二%、**磷酸鐵**二%、**炭酸マンガン**二%、**酸化鐵**一%ヲ箇別ニ給與セリ、而シテ其ノ結果ヲ見ルニ對照區トノ間ニ輕微ノ差異アレドモ生體重及產卵ニ就テハ何等本質的影響ヲ認め難ク却テ**炭酸マンガン**及**磷酸鐵**ノ添加ハ目的ニ反セル影響アルカノ如シ

卵ノ灰分ヲスベクトルニテ分析シ吸收狀態ヲ檢スルニ鐵及**マンガン**ノ含量多キヲ知レリ、而シテ鐵分ノ多量ノ含有ハ卵黃重量ノ増加ヲ來スヲ以テ飼料ニヨリ鶏卵ノ礦物質含有量ニ多少ノ變化ヲ來サシメ得ベシ

第四〇號 鶏ニ於ケル**ヴィタミンG**ノ必要

北米合衆國

**コーネル** 大學養鶏學部營養研究室

L. C. Norris, G. F. Heuser, A. T. Ringrose, H. S. Wilgus, Jr., and V. Heiman

水素**イオン**濃度ヲ變ゼズシテ一五封度ノ壓力下ニ六時間攝氏一二一度ニ加熱サレタル乾燥酵母中ニ含マルル抗熱物質ハ雛ノ成長、生命ノ維持、種卵ノ生産及**ペラグラ**類似症ト脚麻痺症ノ防止等ニ極メテ多量ニ要求サル本物質ハ凡ユル觀察ヨリ**ヴィタミンG**ト認メラル  
乾燥卵白ハ雛ノ**ペラグラ**類似症ノ防止性精製**カゼイン**ニ劣ルモ脚麻痺症ニ對スル效果ハ精製**カゼイン**ニ勝レリ

乾燥酵母ノ發育促進上ノ效果ト抗麻痺症上ノ效果トハ屢々異ナルコトアルヲ以テ雛ノ**ペラグラ**類似症ヲ阻止スベキ要素ト異ナレル二種ノ**ヴィタミン**樣要素ノ存在ヲ信ゼシム、即チ**ヴィタミンG**ハ少クトモ二種或ハ三種ノ要素ノ複合體ニシテ各要素何レモ鶏ニ必要ナリト結論サル

第四一號 若雌ノ健康並產卵ニ對スル**ヴィタミンA**所要量

北米合衆國

**テキサス** 農工科大学

R. M. Sherwood & G. S. Fraps.



一定量ノ**ビタミンA**ヲ鶏ニ給與シ健康上産卵數並生産卵ノ**ビタミンA**含有量ニ及ボス影響ヲ研究シ同時ニ健康ノ維持及**ビタミンA**ヲ豊富ニ含有スル卵ノ生産ニ要スル**ビタミンA**給與量ヲ定メタリ

其ノ結果ヲ見ルニ一ヶ月二〇箇ノ**ビタミンA**含有量ノ豊富ナル卵ヲ生産スル鶏ハ一日一二六〇單位ノ**ビタミンA**ヲ之ガ爲ニ要シ更ニ一〇五單位ヲ生體維持ニ必要トス、即チ一日所要量ハ一、三六五單位トナル

依ツテ本國ニ於ケル養鶏慣用飼料ハ肝油或ハ多量ノ綠草ヲ添加セザレバ其ノ**ビタミンA**含有量ニ乏シキ缺點アリ

第四二號 育雛飼料トシテノ肝油並人工**ビタミンD**

和 蘭 **パークバーゲン**養鶏試驗場

P. Ubbels

春夏ノ候孵化後數日ニシテ稍粉餌中ノ肝油添加率ヲ高ムルヲ要ストナサルモ本研究ノ結果ハ必ズシモ然ラズシテ石灰、燐ノ比率ヲ一・五對一乃至二對一ノ範圍ニ變化セシムレバ其ノ必要ナキヲ知レリ

又佝僂病ノ豫防並治療ノタメ人造**エルゴステリン**販賣サル、モ之ガ肝油ノ代用可否及代用シ得ルトセバ其ノ範圍等ヲ知ランガタメ反復實驗セルモ悉ク豫期ニ反セル結果ヲ招來セリ、故ニ今猶試驗繼

續中ナレバ今後鮮明ナル結果ヲ得ルニ至ル迄**エルゴステリン**使用ハ十分ノ注意ヲ以テ行フヲ要スベシ



第四三號 産卵鶏ノ飼料算出ノ理論的並實際的根底

**フィンランド** **ヘルシングホルス**

G. von Wendt

鶏一群ノ産卵數量ヲ同産卵數ノ鶏一〇〇羽ニ換算シ産卵ヲ**庇%**ニヨリ表示ス

鶏卵一箇ハ熱量平均一、五〇〇**カロリー**ニシテ内四九〇**カロリー**内外ハ**蛋白質カロリー**ニシテ、實驗ノ結果卵生産ニハ可消化**蛋白質**ノ約六四%ガ利用サル、故飼料ノ七六〇**蛋白質カロリー**ニ相當ス、尙**蛋白質**外ノ可消化**カロリー**八五―九〇ヲ利用スルヲ以テ、卵一**庇**ノ生産ニ對シテハ一、七六〇内外ノ可消化**カロリー**ヲ必要トス、産卵鶏ノ基礎的代謝ハ體重ニ關係アリ、體重二**庇**ノモノニハ六〇**カロリー**ヲ要シ筋力運動ニ對シ六〇%ノ加算ヲ要スルモ重大種ニ在リテハ四〇%ニテ可ナリ、産卵三**庇%**ヲ示セルモノニハ生産所要ノ**カロリー**五二・八ヲ要ス

以上ヲ飼料量トシテ實際的ニ見ルニ平均體重二**庇**ナルモノ一〇〇羽ニ對シテハ七五〇瓦ノ**蛋白質**ヲ要シ輕量種十一乃至十四羽ノ一日間所要可消化**蛋白質**量ハ八〇瓦ナリ  
之等基礎數字ニヨリ如何ナル鶏群或ハ産卵ニ對シテモ所要飼料量及消化**蛋白質**ノ平均含量ノ算出ハ容易ナリトス



第四四號 養鶏飼料ニ慣用サル、蛋白質飼料ノ重要ナル營養特質

北米合衆國

コーネル大學養鶏學部營養研究室

H. S. Wilgus, Jr., R. S. Ringrose  
and L. C. Norris

蛋白質給源トシテ慣用サル、肉粉、魚粉、大豆粕等ノ營養上ノ性質ヲ研究セルニ蛋白質ト共ニ**ビタミンG**ノ含量豊富ナル點ニ特種ナル價值アルヲ知ル、之等ノ蛋白質ノ性質及**ビタミンG**含有量ハ製法ニヨリ差異ヲ生ズ、而シテ蛋白質ノ性質ニ於ケルヨリモ**ビタミンG**含有量ニ於テ變化大ニシテ實驗ノ結果**ビタミンG**ノ最大含有量ヲ保タシムルニハ比較的低温ニシテ短時間ノ調理、乾燥法ヲ行フヲ要ス、火熱乾燥法ハ高熱ノ爲蛋白質ヲ破壊スルモ其他ノ方法ハ本質的ニハ蛋白質ノ性質ニ何等ノ影響ヲ及ボスコトナシ

第四五號 植物性蛋白質ガ鶏ノ交尾及受精ニ及ボス影響

日本

畜産試験場

波多野正

飼料ノ變化ガ交尾回数ニ及ボス影響、雄ニ給與セル飼料ノ相異ガ之ニ配合セル雌ノ生産セル卵ノ受精期間、受精卵數、雌ノ雌雄比等ニ如何ナル影響アルヤヲ知ラント欲シテ實驗ヲ行ヒタリ、飼料中ニ動物性蛋白質ヲ給與セザルコト四代ニ及ビタル鶏ガ交尾及受精ニ如何ナル影響アルヤヲ檢シタルニ交尾回数ハ一日平均九回ニシテ、動物性蛋白質ヲ給與シ其ノ含有成分ヲ略等シクシタル飼料ヲ以テ飼養シタル鶏ノ約半數ナリ

唯一回ノ交尾ニヨル受精期間ハ植物性蛋白質區ガ平均一・五日短クソレニ伴ヒ受精卵數〇・九箇少ナシ又雌ノ雌雄比ニ於テハ動物性蛋白質區トノ間ニ差異ヲ認めズ

實際的ノ交配試験ニ於テハ其ノ受精率兩區ノ間ニ差異ヲ見出シ難シ、從ツテ食卵ノ生産ニハ植物性蛋白質ノミノ給與ニテ可ニシテ種卵生産ノ場合モ配雌數少ナキ時ハ差支ヘ無キモ多キ場合ハ雌雄何レニモ動物性蛋白質ヲ給與スルカ少ナクトモ雄ニ對シテハ動物性蛋白質ヲ給スルヲ可トス

第四六號 雌ノ發育及成長後ノ状態ニ及ボス蛋白質基準量ノ影響

北米合衆國

コーネル大學養鶏學部營養研究室

G. F. Heuser & L. C. Norris

雌ノ發育體重ハ蛋白質基準量ニ影響サル、事多ク特ニ孵化後三ヶ月間ニ於テ著ルシ、生殖器官ノ成熟ハ身體ノ成熟ヨリモ早キヲ以テ産卵開始後ト雖モ體重ノ増加ヲ來ス、概シテ早期ニ産卵ヲ開始セル若鶏ハ初産當時ニ於ケル平均體重ハ小ナルモ身體成熟後ニ於テハ差異ナシ、初産日齡ハ飼料ノ蛋白質基準量ニ影響サル、コト尠ク寧ロ蕃殖法ノ如何ニヨルコト大ナリ、産卵率ハ初産開始ノ早晚ニヨリ初期ニ於テノミ差異ヲ生ズルニ過ギズ、又初産卵重量ハ初産日齡ニ比例シテ大トナリ一〇週後ニ於ケル平均卵重量ノ増加ハ體重ノ増加ト略比例ス、一般的傾向トシテ初産體重ノ大ナルモノハ重量大ナル卵ヲ産出スルガ如キモ此ノ關係ハ密接ナラズ、初産日齡ハ卵重量ニ對シ體重ヨリモ大ナル影響ヲ及ボスモノナリ、蛋白質ノ豊富ナル飼料ノ過給ハ有害ナラズ蛋白質缺乏飼料ノ給與ヨリ優レリ



第四七號 産卵鶏飼料中ノ粗纖維及蛋白

獨逸 キール、ステインベック養鶏試験場

R. Fangauf

炭水化物飼料ノ市價ハ其ノ粗纖維含有量ニヨツテ左右セラル、而シテ粗纖維ハ榮養上無用ノモノトサレ從ツテ粗纖維多キモノハ品質不良ト見做サル、然ルニ本邦各地ニ於ケル産卵競技會ノ成績ヲ見ルニ粗纖維ハ飼料ノ利用上ニモ産卵ニ對シテモ直接影響ヲ及ボサルヲ知レリ、即チ他ノ動植物蛋白飼料ト適當ニ配合シテ給與セバ産卵ニ何等ノ影響ナシ

第四八號 育雛ニ要スル蛋白質ノ適量

北米合衆國 ブルマン農事試験場化學養鶏部

J. L. St. John, J. S. Carver,  
O. Johnson, & D. Brazie

胸棘ノ雛ノ成長並鶏ノ産卵ニ及ボス效果ヲ試験セリ、飼料ノ蛋白質量一七—二一%ノモノハ最初一〇週間ニ於ケル發育ハ蛋白質量一三%ノモノニ比シテ急速ナルモ爾後二四週ニ至ル迄ハ其ノ效果比較的小トナリ、其後ハ何等ノ效果ヲ現サズ一般状態、發育、羽毛等ハ差異ヲ認メ難ク却テ蛋白質ノ多給ハ利用性減少スル傾向アリ

本試験ノ如ク殆ド蛋白質量ニ差異ナク孵化後一〇週迄蛋白質量一七—二一%ニテ飼養シタルモノハ一三%ヲ以テ飼養シタルモノニ比シ産卵開始ハ二—四週間早キモ産卵總數ノ増加甚シカラズ産卵重量ニ在リテハ何等ノ影響無シ

胸棘ヲ混ジ蛋白質量一七—二一%トセル飼料ハ二四週迄發育ヲ促進スルモ爾後ハ成長並産卵ニ對シテ何等ノ效果ナク又初期ニ於ケル急激ナル發育ハ産卵數ノ増加ヲ來サシムルコトナシ、即チ蛋白質量一三%ノ飼料ハ發育後ノ體重及産卵數ニ於テ蛋白高率ノモノト同様ニシテ所要ノ適量ナリト認めラル

尙他ノ蛋白質飼料ニツキテモ同様ノ研究結果ヲ得タリ

第四九號 粒餌ノ鶏榮養上ノ意義

加奈陀 オンタリオ農科大學

H. D. Branion, B. A., M. A.

全粉餌育ニ際シ粉餌ニ穀粒ヲ單味混入セシムル時、雛ノ成長及發育並産卵數及孵化率ハ良好トナル之ニ對シテハ十分ノ説明ヲ加フルヲ得ザルモ鶏榮養上何等カノ未知ノ要素存在ヲ思ハシム

第五〇號 鶏卵ノ生物學的價値

伊太利

Tallarico

卵ノ食品價値ハ單ニ化學的組織ノミナラズ生物學的條件ニヨツテモ決定サル、受精卵ヲ成長中ノ吐綫鶏ニ給與スル時造體效果ハ無精卵ノ場合ニ比シテ勝リ、同様ニ春季卵ハ秋季卵ニ比シ注射セル場合ノ有毒作用激シク且食餌トシテ給與セル場合ノ榮養價値大ナルヲ以テ生物學的活力性ハ遙ニ大ナルヲ知ル



第五一號 鷄卵特ニ卵白ノ形成ニ就テ

瑞典 國立獸醫農科大學教授

C. H. Hansen

ズーダンIIIニテ着色セル飼料ヲ給與シ、卵黃ノ形成サルル模様及時間ヲ明ニセリ、而シテ卵殼膜ノ形成サルル時期ハ既ニ形成サレタル卵白ハ全ク均質的ニシテカラザモ無キジエリー様體ニシテ化學分析ニヨルモ水分及鹽分含有量小ナリ、卵殼膜形成後水分及鹽分ノ浸透アリテ卵ハ正當ノ大サトナリカラザノ形成ヲ見ルモ之ハ恐ラク卵黃ノ廻轉ニヨリ其ノ兩端ニ固着セル濃厚卵白ノ捻レニ因ルモノナルベシ

第五二號 産卵ノ變異ニ關スル數量的研究

和 蘭 ビークパーゲン國立養鷄試驗場長

I. G. Tucker

産卵檢定鷄評價ノ一法トシテ出品者ヨリ種卵ヲ求メ七羽ノ雛ヲ孵化育成シ孵化後一ケ年半ノ産卵成績ヲ調査シ、檢定出品鷄ノ所屬セル養鷄場飼養鷄ノ蕃殖價值ヲ知ラントセシモ實際上失敗ニ歸シタリ、種鷄購入者ヲシテ養鷄場ノ優劣ヲ知ラシムル唯一ノ方法ハ専門技術員ガ養鷄場ヲ巡廻視察スルノ外ナルベシ

第五三號 鷄諸品種間ニ於ケル基礎代謝ノ差異

ルーマニヤ フカレスト國立畜産試驗場

G. Niehita 外二氏

バンタム、白色レゲホーン、ロードアイランドレツド、裸首トランシルバニアン、黒色ワイアアンドツト及プリマスロツクノ六品種ニ就テ二四時間ニ發生セル熱量ヲ體表面積一平方米ニツキキロケラムカロリーヲ以テ表ハセリ、供試鷄四一羽、之ヲ品種、年齢及體重ニヨリ一〇群ニ分チ二四三回ノ測定ヲ行ヘリ、測定ハ最小限度ノ代謝ヲナシ得ル條件ノモトニ行ヒ其ノ中和溫度二〇—二六度、最適溫度二二度ヲ得タリ

單位體重ニ對スル基礎代謝ニハ量ノ法則存在シバンタムニ於テハプリマスロツクニ比シ一匹ニツキ八七%迄増加ス、又單位體表面積ノ基礎代謝數値ハ六品種トモ一平方米ニツキ九三八カロリーヲ示シ表面積ノ法則アリ

實用的見地ヨリ基礎代謝ノ決定ハ成長期及産卵開始期ニ於ケル合理的飼料標準ヲ構成ス

第五四號 鷄ニ於ケル脂肪代謝ノ觀察ト其ノ實用價值

英 國 ケンブリツチ大學養鷄榮養研究室

E. T. Halnan, M. A., & E. M. Cruickshank, B. Sc., Ph. D.

白色レゲホーン及ライトサセツクス若鷄ニ於テハ雌雄ニヨリ脂肪蓄積量ヲ異ニシ特ニ成熟ノ候ニハ其ノ差異顯著ナリ、即チ若雌ノ脂肪蓄積機構ト産卵機構トノ間ニハ密接ナル關係アルガ如シ飼料ノ脂肪率ト體脂肪ノ蓄積トノ間ニハ密接ナル關係存在シ、粒餌ノミヲ以テ飼養スル時體脂肪ノ沃度價ハ八〇—八七内外ナルモ飽和脂肪ヲ給與スル時ハ其ノ値五〇ニ轉落ス、然ルニ麻實油ノ如キ



不飽和脂肪ニ富メルモノヲ飼料ニ添加スル時ハ體脂肪ノ沃度價ハ増大ス、飽和脂肪ノ添加ハ卵黃脂肪ノ性質ニ大ナル影響ヲ及ボサザルガ如キモ不飽和酸ノ給與ニヨリ飽和酸ノ減率及リノレイン酸ノ増加ヲ誘導ス

第五五號 產卵鶏血液中ノコレステロール含有量

日本 畜産試驗場

海鹽義男

コレステロールノ生物化學的研究ハ諸家ニヨル多數ノ研究報告アリト難モ主トシテ代謝研究或ハ病理的現象トノ關係等ニシテ吾人ハコレステロール其物ノ能動的生理的作用等ニ關シテハ未ダ精確ナル知識ヲ有セズ且ツ本試驗ハ未ダ實驗事例尠キヲ以テ假說的説明ヲ略シ單ニ結果ノミヲ擧グレバ左ノ如シ

- (一) 白色レグホーン產卵鶏ノ血清及血漿中ノコレステロール含有狀態ヲ測定セリ
- (二) 卵巢中ノ卵ノ發育盛ナルニ從ヒ血清及血漿中ノ遊離コレステロール%ガエステルコレステロール%ニ比シ大ナル傾向ヲ示ス
- (三) 過去ノ長期間ニ於ケル產卵數ト現在ノコレステロールトノ關係ハ認め難シ
- (四) 年齡トコレステロールトノ關係ハ本試驗鶏ノ範圍ニテハ其ノ存在ヲ認め難シ
- (五) 休産期ニ在ルモノノ血液コレステロールノ含有狀態ハ雄鶏ノソレニ似タル狀態トナル

第五六號 去勢ニ因ル血球ノ變化

伊太利 メツシナ大學畜産學教授

A. Magliano

去勢ノ雄鶏ニ及ボス影響トシテ既往ニ於テ研究サレタルハ主トシテ身體的ノ變化及第二次性徴ニ關スルモノナリ、本試驗ニ於テハ翠丸摘出ニヨリテ惹起サルル血液組成ノ變化ニ就テ研究セリ、即チ去勢ニヨリ鹽基嗜好性多形有核白血球及擬エオシン嗜好性多形有核細胞ノ増加ヲ來スモ淋巴球及エオシン嗜好性多形有核細胞ノ減少ヲ來ス

第五七號 初産日齡ト卵重量並産卵トノ關係

伊太利 ボロニヤ養鶏試驗場

M. Righi

白色及銀色レグホーンニ於ケル孵化期ト初産日齡、初産日齡ト初年度產卵數及卵重量並次年度產卵數及卵重量トノ關係ヲ調査シ次ノ結果ヲ得タリ、孵化期ハ初産ノ早晚ニ密接ナル關係ヲ有シ二月ニ孵化セルモノハ六月ニ孵化セルモノニ比シ初産日齡短カシ、成熟ノ早キモノハ晚キモノニ比シ産卵箇數多キモ平均卵重量小ナリ、然ルニ一ケ年產卵總重量ニ於テハ早初産ノモノ大ニシテ晚初産ノモノハ大卵ヲ生産スルモ箇數少ナキ爲前者ニ及バズ

初年度及次年度ノ產卵成績ヲ比較スルニ、次年度ニ於テハ平均產卵數ノ減少ヲ見、初年度產卵多キモノ程次年度ニ於ケル減少大ナリ、而シテ次年度ノ產卵平均重量ハ全產卵期ヲ通ジテ優レ總卵重量



ニ於テハ常ニ初年度ノ夫ヨリ低キヲ見ル

第五八號 卵黄色ノ標準制定及飼料添加物ニヨル卵黄色ノ變化

獨逸 ベルリン

I. W. Kupsch

(一) 飼料試験報告ニ於テ卵黄色ハ「完全」、「淡白」或ハ「佳良」等ノ如ク表現サルルモ之ヲ以テシテハ精密ナル比較ヲ行ヒ難シ、此ノ不便ハオストワルド氏比色計ヨリ考案セル一〇階級ニ分テル比色計ヲ使用スルコトニヨリテ除カレ萬國統一セル研究報告ヲナシ得ル可能性アリ

(二) 綠餌、エンシレーチ、黄色玉蜀黍、胡蘿蔔等ハ卵黄色ヲ良好ナラシムルハ一般ニ認メラレタル事實ナルモ其他養鶏家ガ其ノ目的ノ爲ニ屢々使用スル添加物ハ試験ノ結果殆ド效果ナキヲ知ル、又色素ノ添加或ハ綠色キヤベツ及赤色蕪菁等ノ粉末乾燥葉モ卵黄及體脂肪ノ着色ニハ著效ナキヲ知レリ

(三) 赤胡椒ヲ粉餌ニ一—二%ヲ添加スル時顯效アリ、ソノ煎汁ハ試験未完了ナレド效果著シカラザル如シ、ビメントノ添加モ效果アルモ赤胡椒ニ及バズ

第五九號 小麥副産物ノ組成ノ變異ニ就テ

英國 製粉業相互組合

T. J. Shaw M. C., N. D. A.

小麥副産物ノ組成及飼料價值ハ(一)小麥ノ種類(二)小麥栽培地ノ風土(三)製粉工程ノ相異(四)上質小麥ノ抽出歩合等ニヨツテ決定サル、之等ノ諸點ニ就テ考究セル結果次ノ如シ

出歩合等ニヨツテ決定サル、之等ノ諸點ニ就テ考究セル結果次ノ如シ

- (一) 小麥副産物ノ格付法ニハ各國ニヨリ著シキ相異アリ
- (二) 各國ノ格付ヲ比較スベキ何等ノ基準ナシ
- (三) 分析方法ノ相異、特ニ纖維ニ關シテハ其ノ比較困難ナリ
- (四) 小麥副産物ノ組成及飼料價值ハ小麥ノ品種、小麥ノ栽培地ノ氣候、製粉方法及上質小麥ノ抽出歩合ニヨリ相異ス

- (五) 斯ノ如ク組成及飼料價值ニ影響ヲ及ボス各要素ハ國ニヨリテ甚シキ差異アリ
- (六) 故ニ精細ナル分析竝飼料試験ヲ施行スルモ其ノ結果ノ精度及重要性ハ其ノ品物ノ製造サレ試験サレシ土地ニ於テノミ有效ナリ

第六〇號 一九三一—一九三二年ニ施行セル大麥、玉蜀黍比較試験

加奈 陀 マニトバ農科大學養鶏部

M. C. Herer 外二氏

大麥ヲ以テ玉蜀黍ニ代用スルヲ得バ本邦養鶏業ヲ經濟的ニ卑益スルコト甚大ナルヲ以テ育雛及産卵鶏ノ飼料トシテノ兩者ノ優劣比較試験ヲ行ヒタル結果育雛上ノ飼料價值ハ次ノ諸點ヲ除キタル外ハ兩者ノ間ニ何等ノ差異ヲモ認メザリキ

(一) 生産費ニ就テハ大麥ハ玉蜀黍ヨリ遙ニ低廉ナリ



(二) フロイラー飼育ニ當ツテハ大麥ハ玉蜀黍ニ及バズ

(三) 飼料一瓦ニ對スル體重增加率ハ大麥給與區稍勝レリ

(四) 玉蜀黍給與區ニ於テハ大麥給與區ニ比シ皮膚及脚ノ黃色度強シ

猶大麥ノ脱穀ハ何等飼料價値ヲ増進セシメズ、却テ何等カノ發育促進要素ヲ除去スルガ如シ

次ニ産卵鶏ニ對スル兩者ノ飼料價値ヲ比較スルニ左記ノ如キ差異アリ

(一) 大麥給與區ハ玉蜀黍給與區ニ比シ産卵率高ク生産費低額ナリ

(二) 蛋白ノ效果、即チ攝取蛋白ト鶏卵トシテノ産出蛋白トノ關係ヲ比較スルニ大麥ハ玉蜀黍ニ勝レ

リ

(三) O、A、C、ニ一番大麥ヲ給與セル區ハ其ノ産卵ノ孵化率ニ於テ最モ優レリ

(四) 大麥給與區ハ一ヶ年平均産卵率玉蜀黍給與區ニ勝ル

(五) 玉蜀黍給與區ハ大麥給與區ニ比シ皮膚及脚ノ黃色度強ク産卵ニヨル褪色程度低シ

猶大麥ハ脱穀ニヨリ鶏ノ生理状態ニ有效ナル何等カノ要素ヲ離脱サルルモノノ如シ

第六一號 魚粉及其ノ養鶏飼料トシテノ利用

伊 太 利 水産化學中央試験場助手

C. M. Maldura

著者ハ世界各国ニ於ケル魚糧副産物工業ノ發展、特ニ魚粉製造業ニ關スル説明ヲナシ、其ノ化學的

組成及飼料價値ヲ定メタル後最モ有效ナル製造方法ヲ論ジ且魚粉ハ養鶏飼料トシテ有效ナリトシ實

際的給與法ニツキテ述ベタリ

第六二號 肝粉ノ養鶏飼料トシテノ價値

北米合衆國 E、Lハツチ商會研究室

A. D. Holmes

主トシテ豚ノ肝臟ヨリ製造セル肝粉ヲ標準育雛飼料ニ添加シ六群ノロードアイランドレット初生雛

ニ給與シタル結果孵化後一二週目ニ於ケル平均體重ハ試験區ニ於テ稍大ナルモ、實際的差異ハ顯著

ナラズ、體ノ大キサ及状態ノ均一ナル點及羽毛發生ノ速度及均一性ニ肝粉給與區勝レリト雖モ本試

験ノ範圍内ニ於テハ榮養價高キ育雛飼料ニ肝粉ヲ添加スルモ特ニ飼料ノ榮養價値ヲ向上セシムルコ

トナシ

第六三號 特種飼料中ノカルシウム對磷ノ比率ノ變化ガ吐綬鶏ノ成長ニ及ボス影響

北米合衆國 ネブラスカ大學

F. E. Muschel & C. W. Ackerson

玉蜀黍、小麥、燕麥、アルファルファー、肉粉及乳粉ノ混合飼料中ノカルシウムニ對スル磷ノ比

率ヲ變化セシメ其ノ發育中ノ吐綬鶏ニ及ボス影響ヲ研究セリ

最初炭酸石灰ヲ添加シテ石灰、磷ノ比率ヲ一・〇四—一、一・八〇—一、二・八六—一ニ變化セシメ

且適量ノ抗佝僂性ヴァイタミンヲ與へ、紫外線ヲ照射シタレドモ全群共ニ脛骨ノ灰分含有量ニ變化ヲ



生ゼザリキ

次ニ抗佻性**ビタミン**ノ給與及紫外線ノ照射ヲナサザル外ハ他ノ條件ハ悉ク前例ト同様ニセル場合ニハ前試験ト著シク異ナレル結果ヲ得タリ、本試験ニ於テハ石灰、燐ノ比率ニ・八六一ナル區ハ最モ生存日數長カリシモ正常トハ云ヒ難シ

第六四號 所謂鳩ノ**嗦囊乳**ノ化學的組成及形態學的構成

伊 太 利 カタニヤ國立大學比較動物解剖生理學研究所 F. Dulzeto and N. Li Volsi

鳩ノ所謂**嗦囊乳**ハ集塊セル細胞ヨリ構成セラレ多數ノ脂肪球及少數ノ**リポイド**體球ヲ含有ス、脂肪體ハ不變ニシテ**バター**ニ類似シ**リポイド**體ハ**レシチン**ニシテソノ基礎ハ**コーリン**ナリ、**嗦囊乳**ハ又**カゼイン**並多量ノ水分ヲ含有スルモ無機物質ハ極メテ少量ナリ

### 第三部 衛生及疾病

第六五號 家禽疾病—傳染病學的研究

スコットランド エチンバラ

D. C. Matheson & J.E. Wilson

過去十九年間ノ實驗ニ基キ大英國ニ於ケル家禽ノ傳染病並ソレニ因ル斃死率ノ季節的變動ヲ圖示シ且實際的意義ヲ論述セリ

第六六號 佛蘭西ニ於ケル主ナル家禽疾病

佛 蘭 西 アルフォル農事試驗場

G. Lesbouyries

佛國ニ於ケル家禽ノ重ナル疾病ノ發生ヲ表示シ之等疾病ノ豫防接種法特ニ細菌性**雞白痢**ニ關シテハ各種ノ保菌**雞**檢出方法、血液及血清ノ緩急凝集反應法ヲ報告セリ

**雞痘**ハ家鳩痘苗ノ接種ニヨリ完全ニ豫防サレ又**ウロホルミン**ノ筋肉内注射ニヨリ治療サレタリ

腸内寄生蟲(多クハ**コクシチウム**)ヲ有スル幼動物(鳥類及家兔)ニ**チモール**肝油ヲ添加セル飼料ヲ給與シ大ニ健康ヲ恢復セシメ、抵抗力ノ増大、斃死率ノ減少ヲ來サシメ、又屢々完全ニ治療サルルヲ見タリ

著者ハ又**雞**、**鳩**、**兔**ニ最モ普通ニ發生スル疾病ノ主ナル病害ヲ述ベ之等疾病ノ防遏ニ處スル手段方法ヲ示セリ

第六七號 丁抹ノ家禽疾病ニ對スル指導及防遏

デンマーク

O. Nielsen

本邦ノ氣候ハ概シテ家禽疾病ノ蔓延シ易キ状態ナレドモ主トシテ小羽數單位ノ副業的養**雞**ナルヲ以テ之ガ防遏ハ比較的容易ナリ、國立高等獸醫學校ニ於テハ家禽ノ檢屍ノ臨床講義ヲ行フ、細菌性**雞白痢**症ハ種禽輸入及初生雛賣買規程ニ依リ潛入ヲ防ギ且ツ凝集試驗法ノ施行ニヨリソノ數ヲ激減シ



タリ、結核病ハ政府ノツベルクリン皮下検査ニヨリテ防遏中ナリ、又稀ニ候鳥ニヨリ搬入セララルル  
數種ノ疾病現ハルルコトアリ、政府ハ肝要ナル防遏策トシテ一般種禽業中心地ニ嚴密ナル検査ヲ施  
行シ、體型、産卵ノミナラズ疾病ニ對スル抵抗力強キ種鶏ノ蕃殖ヲ計畫シ養鶏智識ノ普及ニヨリ當  
業者ヲシテ家禽ノ衛生及疾病ノ豫防ニ關心セシメツツアリ

第六八號 **サルチニア**ニ於ケル家禽傳染病及寄生蟲病

伊 太 利 **サルチニア**家禽傳染病研究所長

G. Pegreff

**サルチニア**ニ於ケル家禽ノ疾病ニ關スル過去十ケ年ノ調査研究ノ結果ヲ示セバ

- (一) 家禽窒扶斯及家禽コレラハ一九二五—二六年ニ猖獗セルモ其ノ後ハ發生ヲ見ザルヲ以テ多價痘  
苗及貯藏痘苗ニヨリ豫防法ハ卓效アリ而モ簡便ナル事立證セラレタリ
- (二) 家禽ヘスト、細菌性雛白痢及スペロヘータ流行ノ中心地ト目スベキ地方ハ未ダ發見サレズ
- (三) 實扶的里性上皮細胞腫ハ普通口腔及粘膜ニ發生シ上皮細胞腫ハ極メテ稀ナレド、フエノール及  
ホルマリニンニヨツテ處理セルワクチンノ使用ニヨリ完全ニ豫防シ得、ウロトロピンノ注射ニ比シ  
效果多シ
- (四) 家禽麻痺症ハ傳染性腦脊髓炎、コクシチウム、絛蟲、蛔蟲等ニ原因シ腸障礙ヲ併發ス、此等ハ  
各々病徵ノ肉眼的診斷ト生物學的病理學的剖檢ニ依リ容易ニ識別シ得

- (五) 絛蟲ノ驅除法トシテ油、テレピン油ノ混合劑五—四—三CCノ服用ハ效無シ
- (六) **コクシチウム**ノ治療ニ醋酸酸敗乳ヲ給與シ屢々著效アリタルモ此ノ結果ニ就キテハ特ニ考慮サ  
レタル衛生的施設ヲ無視スルヲ得ズ
- (七) 鶏結核ハ其ノ病理及分離菌培養上並生産學的特徵ニヨリ人類ニヨリテ媒介サルルニアラザルヤ  
ヲ疑ハシムル少數例アリ

第六九號 和蘭政府ノ家禽防疫ニ就テ

和 蘭 **ロツテルダム**國立血清研究所

B. J. C. te Hennepe

政府ノ防疫方策ハ直接方策並間接方策ノ二トシ、直接的ニハ獸醫學的事業及**ロツテルダム**國立血清  
研究所ノ事業アリ、間接的ニハ獸醫師ノ養成及當業者ノ家禽防疫組合組織アリ

- (一) 直接方策
  - (A) 獸醫學的事業
    - 家禽ノ輸入及輸出ノ調節ノ計劃並ソノ實行
  - (B) 國立血清研究所ニ家禽ノ疾病ヲ取扱フ特科ヲ設ケ之ヲ左ノ五分科ニ分ツ
    - (1) 家禽ノ死因診斷及白痢病血液検査ノ無料應需
    - (2) 疾病並治療法ノ研究



- (3) 血清並ワクチン製造及諸疾病ノ診斷法ノ研究
- (4) 諸資料ノ統計的研究
- (5) 口頭又ハ文書ニ依ル獸醫師及當業者ノ指導、質疑應答

(二) 間接方策

- (A) ユトレヒト大學獸醫學部ノ獸醫師ノ養成
- (B) 家禽防疫組合ノ支持

又和蘭ニ於ケル白痢病ノ防遏ハ「和蘭養鶏組合」(A. N. P. V.)ニ委囑シ之ニ對シ補助金ヲ交附シ防疫官ヲ駐在セシム

第七〇號 瑞西ニ於ケル家禽防疫法制並其組織

瑞 西 ベル ン

G. Flickiger

- (一) 瑞西ニ於テハ家禽コレラ、家禽ベスト及細菌性雞白痢ノ發生ハ當局ニ届出ツルヲ要シ何レモ法定家畜傳染病ニ數ヘラル
  - (二) 之等疾病ノ防遏策ハ現在ニ至ルマデニ理想ニ近キ結果ヲ示シ、數年來家禽コレラ、家禽ベストノ廣ク流行シタル事ナク、細菌性雞白痢ノ發生モ激減セリ
- 其他ノ傳染病ハ或ル特殊ノ場合ノ外ハ發生セズ、特ニ雞結核ニ於テ然リ

(三) 家畜防疫當局、獸醫師及當業者間ノ協調團結ハ家禽疾病鎮壓ノ第一條件ナリ

(四) 著者ハ各國ニ於テモ傳染病防遏ノタメ成鳥ノ賣買ニ對シテ一般法定防遏法施行ノ要ナキヤヲ考究セラレントヲ切望ス、而シテ此ノ施行ハ能フル限リ簡明ナルヲ必要トスベシ

第七一號 養鶏業ノ發達ノ養鶏衛生ニ及ボス影響

ベルギー ゲント検査官

L. Geurden

ゲント畜産顧問

J. Martin

養鶏ノ産業的發達ニ伴ヒ、連續的ニ發生セル主ナル疾病ニ就テ論述シ斯如養鶏業ノ集約經營法ヲ緩和スベキヤ否ヤハ全ク經濟状態ノ如何ニ依ルモノニシテ、之ヲ緩和セバ此種疾病ノ重要性ハ甚シク減少サルベキモ、却テ助長サルルトセバ集約養鶏ガ經濟的ニ立脚セル以上之ニ伴フ疾病ノ防遏法發見ニ充分ナル調査研究ヲ必要トスベシ

第七二號 專業養鶏場ニ於ケル鶏ノ衛生並・疾病ニ對スル抵抗力

佛 蘭 西 養鶏學教授

E. Huaut

鶏ノ活力ハ其ノ蕃殖ニ遺傳學的考慮ヲ拂フコトニヨリテ増進セラレ專業養鶏ニ伴フ疾病ノ危險性ハ適當ナル衛生的施設ニヨリテ豫防セラル

一代雜種ハ産卵能力高ク疾病ニ對スル抵抗力大ナリ、賢明ナル種禽業者ハ間斷ナク淘汰ヲ行ヒ育雛



舎ト成舎舎トヲ可及的隔離シ種禽場ノ輪轉ヲ行ヒ優良種鶏ノ産卵ヲ抑制シ以テ鶏ニ活氣ヲ與ヘ自然ニ順應セシム、種禽ノ産卵ヲ強制セバ仔鶏ノ活力ノ減退ヲ來サシム

第七三號 家禽ノ前部呼吸器ノ疾患ニ關スル最近ニ於ケル研究成績

獨逸 ミュンヘン大學家畜病理學教室主任

O. Seifried

家禽ノ前部呼吸器ノ疾病ニ關スル最近ノ研究ノ結果ニ依レバ**ビタミンA**缺乏症、傳染性氣管喉頭加答兒、鶏痘、**鶏チフテリア**及眞性加答兒ノ少ナクトモ四種ノ異ナレル疾病ノ特性ヲ現ハス極メテ初期ニ於テハ之等四種ノ疾病ハ一定ノ組織學的竝其ノ他ノ特性ニ依テ識別シ得、ソノ防遏上重要ナル事項トス

現今ルーフト稱セララルル疾病ノ間ニハ顯微鏡的竝ニ肉眼的ニ相異アルモノノ如シ、依テ現在漠然ト使用サルル本病名ニ替フルニ新病名ヲ以テスルノ要アリト認メラル

第七四號 家禽ロイコーシス

北米合衆國 ペンシルバニア大學獸醫學校

F. L. Stubbs

家禽ロイコーシスヲ分チテ赤血球ロイコーシス、骨髓性ロイコーシス、淋巴ロイコーシストス赤血球ロイコーシスハ強烈ナル貧血ヲ特徴トシ血液中ニ多數ノ鹽基嗜好性細胞及赤血球幼細胞ノ如キモノ現ハル、之等ノ細胞ハ骨髓、肝臟、脾臟、時ニハ其他ノ器管ノ毛細管中ニモ見ラル

骨髓ロイコーシスハ骨髓細胞ノ巨大細胞性竝髓質囊腫性ノ腫瘍様増生ニシテ末期ニ至リテハ血液中ニ流入シ、肝臟ニ骨髓細胞ノ限局部ヲ形成ス、白血球ハ著シク増加シ、屢々赤血球ノ數ヲ凌駕セル場合アリ

淋巴ロイコーシスハ血液ノ變化少キカ或ハ全ク無キモ肝臟及脾臟ニ著シキ細胞浸潤ヲ起スヲ特徴トス

赤血球ロイコーシスト骨髓ロイコーシストハ共ニ感染セシメ得ルモ淋巴ロイコーシスハ未ダ其ノ例ヲ見ズ、赤血球ロイコーシスト骨髓ロイコーシストノ間ニハ密接ナル關係存在スルモノノ如シ  
横斑プリマスロック、ロードアイランドレッド、白色レグホーン、雜種、バンタム及裸頸鶏ニハ感染セシメ得ルモ雉、吐綬鶏、珠鶏、鳩、鶯及鶯ニハ感染セズ

第七五號

家鳩ニ於ケル鳥類寄生性圓蟲病

北米合衆國 農務省畜産局

E. B. Cram & E. Cuivillier

*Ornithostromylus quadriradiatus* (Stevenson, 1904) Travassos, 1914ハ細キ紐狀ノ圓蟲ニシテ合衆國ノ外キューバ及南アフリカニ於テ鳩族ノ小腸ニ寄生シ家鳩ニ重症ノ疾病ヲ起サシムルヲ以テ知ラル、此ノ寄生蟲ハオーストラリア及歐洲ノ野鳩ニモ認メラレ、本邦ニ於テハ東北四州ニ於テ發生セリ、



蟲卵ハ糞ト共ニ排泄セラレ早キハ二十時間、晚キハ九日ニシテ孵化シ、幼蟲ハ孵化後三日ニシテ鳩ニ寄生シ寄生五週間ニ及ブ

寄生幼蟲ハ低溫及乾燥ニ對スル抵抗力極メテ強キモ卵及ビ孵化直後ノ幼蟲ハ抵抗力稍々弱シ、幼蟲ハ寄生後六―七日ニテ發育ヲ完成シ、突然發病シ斃死率高シ、臨床上ノ主徴ハ傳染後第二―三日ニシテ現ハレ衰弱、歩行困難、食慾不振ヲ呈シ、飲水量多ク體重ノ漸減ヲ見、傳染後二―五日ニテ斃死ス、之ヲ檢屍スルニ嗝囊竝前胃ノ輕度ノ變化ト腸ニ於ケル甚ダシキ組織ノ破壞ヲ認ム

感染鳩ノ排糞ヲ乾燥スルハ最モ有效ナル豫防法ト思考サル、鶏、吐綬鶏、珠鶏、鶯ニハ寄生セズ

#### 第七六號 ロンバルデイニ於ケル傳染性家禽麻痺症

伊 太 利 ミラノ家禽傳染病研究場助手

G. Vianello

ロンバルデイノ專業養鶏場ニ於テ發生シ Marek ト稱セラレル傳染性麻痺症ニ就テ報告ス、罹病鶏ハ端部ニ輕度又ハ強度ノ麻痺ヲ起シ特ニ脚ノ下部ニ發スルコト多シ、神經節、腰部、薦骨、腋下神經叢ハ肥厚褐色化シ全神經系ニ亘リ特殊細胞ノ滲入ヲ見ル

本疾病ハウイタミン缺乏營養障礙、コクシチウム或ハ縲蟲ノ寄生ニ起因スルニ非ザルハ病理學的ニ明カナリ

其ノ防遏法トシテ當業者ノ豫防接種ヲ推奨セリ

#### 第七七號 家禽コレラノ異常限局

ポーランド ワルソー

Dr. S. Serkowski

最近家禽コレラノ終熄セル鶏舎ニ於テ肉髯ニ腫瘍發生シ、肉髯及脚ノ畸形トナレルモノ六羽ヲ見タリ、コノ肉髯腫瘍ノ膿ヨリ家禽コレラ菌ヲ分離シ、殊ニ鳩或ハ鼠ヲ仲介トシテ良ク分離スルヲ得タリ本型ノ如キ家禽コレラハオーストラリア及北米合衆國ニ於テ肉髯病ト稱シテ報告サレシ例アリ、腫脹ハ肉髯ノ底部ニ於テ著シク、蓄膿量多ク、之ヲ切開スルニ浮腫ハ化膿シ膿ハ流出シテ肉髯ハ甚ダシク縮少シ數日ニシテ腫脹ノ化膿性ハ消失シ、肉髯ハ柔軟トナリ、遂ニハ枯凍セル贅肉狀トナル、然レドモ感染組織中ニテ細菌ノ死滅セザル間ハ再發生ノ原因ト成ル傾向ヲ有スルヲ以テ本肉髯病ハ傳染病トシテ重要視スルヲ要ス

#### 第七八號 家鳩コレラ

ルーマニヤ フカレスト

M. Mihaliescu

鳩ハルーマニヤ全土ニ分布シ羽數少キモシバシバ侵サルル疾病ハチフテリー、バラチブス及絲狀菌病ニシテ他ノ家禽ニ於ケルガ如クコレラノ流行ヲ見ズ、バストール研究所及獸醫師ノ答申ヲ綜合スルニ鳩ノコレラ症ハ稀有ナルコトヲ知レリ、只著者ハ二羽ノ典型的コレラノ病徴ヲ呈セル鳩ヨリ「バステーレラ」ノ純粹培養ヲ分離シ得タリ、培養菌ノ接種試験ヲ行フニ「バステーレラ」注射ニヨ



レバ猛烈ナル發病ヲ見ルモ、自然感染ノ經路タル經口のニ給與セル場合ハ斃死スルニ至ラズ  
培養菌「バステーレラ」ヲ飼料ニ添加シ鶏及家鳩ノコレラ菌ニ對スル抵抗力ノ比較研究ヲ續行セン  
トス

第七九號 家禽ペスト豫防ノ種痘ニ就テ

日 本 獸疫調査所

近 藤 正 一  
中 村 哲 哉

罹病セル鶏及鳩ヨリ採集セル毒物ヲ理化學的ニ處理セル場合ノ抗毒性ノ變化ヲ研究セリ、余等ノ實  
驗ニ依レバエーテル又ハクロホルムニテ處理セル有毒脾臟ハ家禽ペストニ對スル鶏ノワクチン注  
射用トシテ實效アルコトヲ示セリ

第八〇號 鶏ペスト病毒ニ對スル抵抗力ノ差異ニ就テ

日 本 獸疫調査所

中 村 哲 哉

余ノ研究ニヨレバ家禽ペストハワクチンニヨリ防遏シ得ル可能性アリ、本研究ニ於テハ種々ノ病毒  
ヲ用ヒテ家鳩ヲ免疫シ、其ノ免疫血清ハ其ノ對應スル病毒ニ對シテ免疫性アルヲ明ニセリ  
尙鶏ペスト病毒ト之ニ對スル血清トノ融合割合ヲ試驗セルニ病毒ヲ中和スルニ要スル血清ハ正ニ病  
毒ノ量ニ比例スルモノノ如シ

系統ノ異レル病毒及免疫血清ノ交雜試驗ヲ行ヒタル結果、或一種ノ免疫血清ハ總テノ系統ノ病毒ヲ

中和シ得ザル事判明セルヲ以テ鶏ペスト病毒ハ單一型ナラザルヲ知ル

第八一號 日本ニ於ケル白痢菌ノ防遏ニ就テ

日 本 獸疫調査所

中 村 哲 哉

本報文ハ白痢病鶏檢出ノ血清ノ緩速兩凝集法ノ確實性ヲ比較セルモノニシテ、五十倍稀釋血清ニテ  
反應陽性ナルモノノ中ニハ保菌鶏相當ニ含マルルモ、百倍又ハソレ以上ノ稀釋血清ニテ陽性反應ヲ  
呈スルモノニハ保菌鶏ノ數著シク増加ス、之本法ノ實用上ニ不便ヲ感ズル所以ナリ、又新鮮血液ノ  
急速凝集反應ハ屢々疑ハシキ結果ヲ生ズルコトアルヲ以テ當業者ニハ推奨シ難シ、之ニ替フルニ余  
ハ血清ヲ使用シ試験管法及ビ急速法ノ確率ヲ比較決定セリ、本法ハ五十倍稀釋デノミ眞ノ陽性反應  
ヲ呈スル個體ヨリ採集セル血清〇・〇一CCト抗體〇・〇一CCヲ混合スルトキ、一分以内ニ細菌ノ絮狀  
沈澱ノ現ハルルガ如キ抗體ヲ滴定ニ使用スルモノニシテ、確實ニシテ其ノ操作ハ簡單ナリ

第八二號 合衆國ニ於ケル白痢病ノ急速血液凝集診斷法ノ進歩

北米合衆國 農務省畜產局

J. M. Schaffer & H. Bunyca

本法ハ從來ノ凝集反應法ヲ簡便ニセルモノニシテ一滴ノ血液ヲ抗體ト共ニ硝子板上ニ攪拌シテ診斷  
スルモノナリ、抗體ハ生理的食鹽水中ニ死滅セザル白痢菌ヲ濃厚ニ懸濁セシメタルモノニシテ何等  
ノ防腐劑ヲモ含マザルモノトス



一九三〇年病原菌ハ殺菌サレ且「クリスタルヴァイオレット」ヲ以テ濃厚ニ着色サレ相當期間貯藏ニ耐ユル新アンチゲン發見サレタリ、アンチゲンハ北米合衆國藥局法ニヨル「ホルムアルデハイド」一%ト「クリスタルヴァイオレット」〇・〇三%ヲ含メル生理的食鹽水ニ病原菌ヲ濃厚ニ懸濁セシメタルモノニシテ冷蔵ノ要ナク試験研究ノ結果着色アンチゲンノ確實ナルコト及其適用ニヨリ雜白痢病ヲ防遏シ得ルヲ知レリ

第八三號 合衆國ニ於ケル鶏痘豫防注射ノ發達

北米合衆國 カリフォルニア大學獸醫學教授

J. R. Beach

合衆國ニ於ケル鶏痘ノ豫防接種ハ一九一三年自然感染セル鶏ノ病變部ノ加熱懸濁液ヲ以テ行ヒタルヲ嚙矢トシ、爾來改良統一サレ、一九二〇年マデハ人工接種セル鶏ノ病變部ヨリ加熱ワクチン大量製造サレ汎ク使用セララルニ至レリ、一九二七年Johnsonハ痘痂ヲ乾燥粉碎シ懸濁性病毒ワクチン原液ヲ作り之ヲ拔羽後ノ羽囊ニ塗布試験セリ、其後氏ハ右懸濁液ニ浸セル刀ヲ以テ皮膚ヲ刺傷スル方法ヲ推奨セリ、又同年著者ハ痘痂ノ石炭酸グリセリン懸濁液ノ皮下注射法ヲ行ヒタルモ後刺傷法ニ更メタリ

病毒ワクチン原液ノ刺傷種痘法ハ目下本邦ニ於テ一般ニ慣行サレソノ適期ハ孵化後三〇—九〇日ナルコトモ實證サレタリ

鳩痘ノ病毒ワクチンハ屢々反對ノ結果ヲ生ズルコト實證サレ本邦ニ於テハ殆ンド實用サレズ

第八四號 免疫血清ニヨル家禽チブスノ豫防

北米合衆國 北カロリナ大學農事試驗場 R. S. Dearstyne, R. E. Greaves, H. C. Gauger

家禽チブスニ對シ一回ノ種痘ヲ行ヒタル鶏群ニ其再發ヲ見タルヲ以テ一回ノ種痘ニヨリ長期ノ免疫性ヲ得シムル方法ヲ研究セリ、單冠ロードアイランドレツドヲ三群ニ分チ第一群ニハ一回、第二及第三群ニハ一週ノ間隔ヲ置キテ夫々二回及三回ノ種痘ヲ行ヒ一週間毎ニ血液凝集反應ノ肉眼的検査ヲ行ヒタルニ大要次ノ如キ結果ヲ得タリ

(一) 家禽チブスニ對スル鶏ノ豫防接種ノ成否ハワクチントシテノ效果ノ立證セラレタル免疫元ヲ使用スルト否トニ依ルコト多ク多價ワクチンヲ使用スル場合ハ單價ワクチンヲ使用スル場合ニ比シ免疫性ヲ得シムル機會多シ

(二) 豫防接種ニ對スル反應ト感染性ハ鶏ノ雌雄ニヨリテ差異ナシ

(三) 豫防接種後三日間ハ反應明ナルモ多量ノ病原菌ノ浸入ニ對スル抗毒性ハ未ダ充分ナラズ、然ルト雖モ實際上ニハカカル多量ノ病原菌ノ一時ニ浸入スル事ナキヲ以テ此ノ早期免疫性ノ接觸、土地、或ハ器具等ニ依ル感染ヲ防止スルニ充分ナリ

(四) 一回ノ接種ニヨル凝集素形成ノ最盛期ハ第七日ヨリ第十四日ニシテ恐ラク第九又ハ第十日頃



ナルベシ

(五) 免疫學的ニ觀察スルニ一週ノ間隔ヲ以テ反復接種スルノ要ナク實際ニハ三ヶ月ノ間隔ヲ以テ接種セバ免疫性ヲ持續セシメ得

(六) 家禽チブス豫防接種ニ對スル鶏ノ反應ハ概シテ人及試驗動物ニ於ケル場合ト一致ス

第八五號 家鳩ニ於ケルバラチブスト其ノ防遏

ルーマニヤ チシナウ

C. Cernianu

家鳩ニ於テハバラチブスハ最モ恐ルベキ疾病ニシテ、著者ノ實驗ニヨレバ其ノ死亡率ハ年齡一五—二〇日ノモノニ於テハ六一%、二〇—二〇日ノモノニ在リテハ三六%、一ケ年ノモノ一五%、二ケ年以上ニ達セルモノニ於テハ七%ヲ示セリ

而シテ其ノ防遏法ハ稍々費用ト熟練ヲ要スルモ血清凝集反應試驗ヲ施行シ、保菌鳩ヲ除去スルヲ最モ有效ナリトス

第八六號 家禽ニ於ケル擬似結核

佛 蘭 西 パリー パストール研究所

C. Juche

(一) 齧齒類ニ於ケルト同様、家禽類ニ於テモ擬似結核ノ發生ヲ見ル

(二) 左記ノモノハ何レモ感染シ、其ノ感染力ハ記載ノ順ニ從ヒテ減少ス、吐綫鶏、カナリヤ、鳩、

鶯、珠鶏、雉、鶏

(三) 鳥ノ種類ニヨリ其ノ病徵ハ極メテ區々ナルモ、主ナル症狀ハ、放心假寐ヲナシ、食慾不振ヲ呈シ、又屢々跛行、下痢ヲ併發ス

(四) 肝臓、脾臓及腎臓ニ主トシテ變狀現ハレ、結節ヲ生ズル事多ク、又屢々、家禽コレラニ於ケルガ如クチース狀限局部ノ發生ヲ見ル

(五) 病原ハ *B. pseudotuberculosis avium* ニシテ齧齒類ヲ犯ス *B. pseudo-tuberculosis* ノ只一ノ變種ナルモノノ如ク、其ノ特質等ハ全ク類似ス

(六) アンチマラチン血清ニヨル凝集反應ハ齧齒類ニ於ケルト同様適用シ得

(七) 傳染ハ經口的ニ行ハルルモノノ如ク、病原菌ハ淋巴管ヨリ組織中ニ侵入ス

(八) 特種療法ハ未ダ發見サルルニ至ラズ

第八七號 家禽麻痺症防止ノ可能性アリヤ

獨 逸 下部シレジャ農務省細菌研究所

G. Lerche

家禽麻痺症防遏ハ左記ノ如キ方法ニ據ルヲ良シトス

(一) 健康ナル養鶏場ニ於テハ初生雛購入、共同育雛等ニ對シテ注意スルコト

(二) 麻痺症ノ發生セル養鶏場ニ於テハ、新購入鶏ノ淘汰、罹病鶏ノ屠殺ヲナシ、殘存鶏ヲ隔離シ、



十分ノ注意ノ下ニ育雛ヲナシ、産卵開始ニ及ンデ初メテ若雌ヲ鶏舎ニ移動ス  
**ズルフォン**酸水又ハ苛性曹達ニテ消毒ヲ行ヒ、幼雛ノ購入ヲ中止ス  
 (三) 政府及種禽業組合ハ本疾病ノ重大ニシテ蔓延性ナルヲ養鶏家ニ徹底セシメ、發病セル養鶏場ニハ其ノ幼雛ノ販賣ヲ禁止シ、主ナル種鶏場ニハ獸醫ニヨリ防遏法ヲ講ゼシメ、發病セル時ハ産卵競技會等ノ出品鶏ヲ會期終了後ニ屠殺セシム

第八八號 家禽ニ於ケル麻痺症ト其症狀ニ關スル研究

英 國 ケンブリツチ大學

H. P. Bayon

- (一) 眞性家禽麻痺症 (neuro-lymphomatosis) ハ至ル所ニ發生スルモ、其ノ率ハ必ズシモ大ナラズ、甚シキ死亡率ノ報告セラルルコトアルモ、之ハ屢々他ノ疾病ノ併發スルニ因ルモノトス
- (二) 連年本病ノ發生ニ就キテ觀察スルニ、本病ハ母鶏ヨリ卵ニヨリ先天的ニ仔雛ニ傳播サレ、從ツテ典型的ナル麻痺症ハ一部種禽場ニ於テ特發スルモノナルヲ確認セリ
- (三) 本病ノ治療法ハ末梢神經ト共ニ内臟諸器官及骨髓ニ至ルマデ之ヲ顯微鏡的ニ檢索シタル後決定サルルモノニシテ、單ニ外部ノ徵候ノミヲ以テスル時ハ、本病ト類似ノ病徵ハ他ノ疾病ノ場合ニ於テモ現ハルルヲ以テ其ノ方法ヲ誤マル恐レアリ
- (四) 寄生蟲消化管ノ異常等ニヨリテモ發生スル種々ノ麻痺症ノ相異ハ顯微鏡ニテ其ノ變狀ノ特質ヲ

發見シ得

- (五) 人工接種ニヨリ完全ナル neuro-lymphomatosis ヲ發生セシムルハ困難ナルモ單ナル淋巴腺腫ヲ發生セシメシ數例アリ
- (六) 即チ neuro-lymphomatosis ハ二元性病因ニヨルモノニシテ幼時ニ時ケル榮養上ノ缺陷ニ因リ最初神經變狀ヲ來シ、次デ其ノ部位ニ淋巴細胞ノ増殖ヲ來スモノナリト思考セラル
- (七) 本病ノ防遏ハ罹病鶏ヲ逐次淘汰スルノ外ナシ
- (八) 綠餌ニ豊富ナル養鶏場ニ於テハ突然ニ平癒ヲ見ルコトアリ、カカル鶏ハ慢性麻痺症ヲ呈シ、其ノ神經系ニハ慢性或ハ潛性ノ變狀ヲ見ル
- (九) 新鮮ナル綠葉ヲ強制給與シ、七二羽ノ罹病鶏中二八羽ヲ治療セシメタルモ、夫等ノ神經系ヲ鏡檢セルニ尙典型的變狀ヲ認メタリ

第八九號 家禽麻痺症

加 奈 陀 フリテツシュ・ロンビヤ大學

J. Biely, V. E. Palmer & E. A. Lloyd

精密ナル研究ノ結果、麻痺症ト消化管寄生蟲或特種ナル飼養管理法トノ間ニハ何等直接ノ關係ナキ事判明セリ、罹病鶏ニ對シ酵母、綠菜トマト果汁、沃度等ヲ給與セルモ何等奏效セザリキ  
 病變ノ部位及大サニハ極メテ變化多キモ、翼麻痺症ハ脚麻痺症ニ比シ其ノ罹病率少ナキニモ拘ラズ



上膊神經叢ニ於ケル變狀ハ腰推薦骨神經叢ニ於ケル變狀ヨリモ其ノ發生率多シ、罹病雌鶏ノ二〇%内外ハ卵巢ニ淋巴腺腫ヲ起シ、他ノ器官ニハ稀ナリ

罹病雄鶏ノ睪丸ニ於テモ亦淋巴腺腫ヲ認メラル

臨床及檢屍ノ結果、罹病鶏ハ(一)麻痺(二)淋巴腺腫(三)失明ノ三疾陷ノ單發又ハ併發ヲ見、本病ハ特ニ神經系ノミヲ犯ス疾病ナリトハ認メ難シ

本病ニ對スル抵抗力ハ遺傳的ニ可成リノ變異アルモノ一箇ノ優性因子ニヨルモノナルベシ

#### 第九〇號 英國ニ於ケル家禽ノ麻痺症

英 國 ウェルカム生理學研究所 J. Dalling, M. R. C. V. S. & G. H. Warrak, B. Sc.

英國ニ於ケル家禽麻痺症ハ一九二九年以來數多報告セラレタリ、真正 *neuro-lymphomatosis* ハ年齡三―八ヶ月ノモノニシテ且ツ或ル限ラレタル系統ノモノノミヲ犯ス特性ヲ有ス、其ノ最モ特異ナル病徵ハ跛行、翼ノ下垂、斜頸、弛緩セル狀態、虹彩炎、憔悴等ニシテ脊髓神經ノ後部及關節竝末梢神經ノ肥大セルモノ多シ、其ノ病原ノ真相ハ未ダ明ナラザルモ、其ノ傳播ハ罹病鶏ノ後裔ノミニ限ラレ、種々ノ條件ニヨリテ誘發セララルモノノ如シ

罹病鶏ニ綠菜ヲ給與シテ好結果ヲ得タル報告アリ、養鶏家ハ發病セル一群ヲ蕃殖ニ供セザルヲ良シトス

#### 第九一號 異常排卵ニ起因スル下半身麻痺

伊 太 利 メツシナ國立獸醫研究所長

A. Mensa

雌ノ麻痺症中運動不隨及下半身麻痺ノ原因ハ異狀排卵ニシテ突然下半身ノ運動竝感覺ヲ失シ、産卵ノ減少或ハ中絶ヲ起スヲ特徴トス

ソノ程度ハ種々ニシテ、運動不隨トナルモノ多キモ、下半身麻痺ハ比較的其例少ナク、種々ノ程度ノ部分的失陷及全身の失陷ノ伴隨スルコトアリ、之ヲ剖檢スルニ腰椎、薦骨神經、卵巢及輸卵管ニ變狀ヲ認ムルモ脊髓ニハ何等ノ變狀ヲ呈セズ

#### 第九二號 傳染性咽頭氣管枝炎 (Infectious Laryngotracheitis)

北米合衆國 ニュージャーシー農事試驗場

F. R. Beaudette

傳染性氣管枝炎ハ瀰過性病毒ニヨル特種ナル傳染病ニシテ、呼吸困難ヲ特徴トシ、屢々呼吸ニ騒音ヲ聞ク、冠ハ通常萎黃シ、下痢ヲ伴ハザルモ輕度ノ發熱ヲ見ル、潛伏期ハ二―三日ニシテ、死亡率ハ七〇%ニ達シ平均二〇%ヲ示ス、之ヲ剖檢スルニ氣管及咽頭ニ出血、血染粘膜竝粘膜ヲ見、又屢々氣管ニ栓塞ヲ生ジ、眼窩及鼻孔ノ漿液滲出ヲ一般症狀トス

豫防法ハ虹門粘膜ニブラツシニテワクチンヲ塗布セバ一週間内外輕度ノ炎症ヲ起スモ、免疫性ハ種痘後九日ニシテ發生シ、生涯持續スルモノノ如シ、種痘ノ適期ハ孵化後六週―數ヶ月トス



## 第九三號 家禽ニ於ケル傳染性腸炎

獨逸 ギーセン大學

W. Zwick

家禽ニ於ケル傳染性腸炎ハバラチブス腸炎菌ニ屬スル數多ノ細菌ニヨツテ起リ、養鶏經濟上並衛生上極メテ重大視サル、其ノ傳染ハ發病鶏或ハ保菌鶏ノ排泄物ヲ飼料ト共ニ攝取スルニ因ル場合最モ多ク、種卵、交尾等ニヨリテモ傳染ス、又寒冷、飼養上ノ缺陷、輸送其他モノノ發生ニ重大ナル關係アリ、保菌鶏ノ排泄物が其ノ傳播ノ媒介トナルヲ以テ、防遏ノ第一段トシテ特ニ消毒其他ノ衛生施設ヲ詳述シ、ワクチンニヨル豫防及治療ハ共ニ未ダ確實ナル成績ヲ得ル能ハズト述ブ

## 第九四號 鶏コクシチウムニ關スル研究

日本 畜産試驗場

能美季一

余ノ觀察ニヨレバ鶏コクシチウム病ハ春夏ノ候ニ多ク、幼雛ハ罹リ易シ、孵化後三ヶ月迄ノ雛ニ最モ斃死率高シ、三、四ヶ月以上ノ雛ハ感染發病シ難ク、成鶏ニシテコクシチウム病ヲ發スルモノハ主トシテ幼雛期ニ於テ感染セルモノガ成鶏ニ及ンデ發病セルモノト認メラル

養鶏場ニ於テ本病豫防ノ困難ナル原因ハ、コクシチウム攜帶鶏ノ存在トオオシストノ抵抗力大ナルニ在リ、即チコクシチウム攜帶鶏ハ外觀全ク健康ニシテ多數ノオオシストヲ排泄スルモノニシテ而モ其ノ排泄タルヤ斷續不定ニシテ時ニ消長アルタメ攜帶鶏ノ發見困難ナリ

又オオシストハ地中ニ在リテ長期生存シ得ルノミナラズ普通ノ消毒藥ヲ以テシテモ容易ニ死滅スルニ至ラズ、然レドモ熱ニ對シテハ抵抗力弱キヲ以テ本病ノ豫防ニハ可及的コクシチウム攜帶鶏ノ發見淘汰ニ努ムルト共ニ健康鶏ノ完全ナル隔離ヲ行ヒ、育雛場ハ高熱消毒液ヲ以テ消毒の處置ヲ施スニ在リ

## 第九五號 雛ノ榮養上ノ缺陷ヨリ起ル腦軟化症

北米合衆國 コロンビヤ大學

A. M. Pappenheimer, M. D., &amp; M. Goettsch, Ph. D.

カゼイン、コーンスターチ、豚脂、肝油、酵母、混合鹽類、脱脂乳粉及製紙バルブ混合飼料ヲ以テ育雛スル時、榮養的腦軟化症トモ稱スベキ腦ノ發育障礙ヲ惹起ス、肉眼的並顯微鏡的ニ觀察スルニ最モ普通ニ現ハルハ小腦部ノ變狀ニシテ、大脳及延髓ニ於ケル變狀ハ比較的少ナシ、即チ水腫、出血、毛細管血栓、壞疽ヲ見、殘存鶏ニ於テハ病變部ハ膠樣變質ヲ成スモ脊髓及末梢神經ニハ異狀ヲ認メズ

本失陥ハ發育中ノ幼雛ニ限リ現ハルルモノニシテ、**ビタミン**ノ缺乏ハ其ノ唯一ノ原因ニ非ザルモ基礎飼料ニ小麦、綠菜、苜蓿、黃色玉蜀黍、綠草ヲ添加セバ或ル程度ニ抑壓スルヲ得、血液、血球等ニハ何等ノ變化ナク、本病ノ原因ハ未ダ確定スルヲ得ズ

## 第九六號 バタリー育雛ニ於ケル脚蹠關節病ノ實驗的發生並豫防



北米合衆國 ベンシルバニヤ大學

J. E. Hunter, H. C. Kandel, & R. A. Dutcher

發育中ノ幼雛ノ榮養上ノ缺陷ニヨツテ起ル脚蹠關節病ハ飼料中ノ無機物質ノ含量ノ變化ニ因リ誘發シ又豫防シ得

即チカルシウム及ビ燐ノ比率ノ變化ニヨリ誘發セラルルモノニシテ、飼料配合率ヨリモ燐、カルシウムノ比率如何ガ重大ナル關係アリ、燕麥ノ穀ニハ本病發生ヲ豫防シ得ル特質アルモ之ハ穀中ノ纖維或ハ灰分等ヨリ説明スル能ハズ

第九七號 吐綬鶏及鶏ニ於ケル鷓口瘡

北米合衆國 カリフォルニア農事試驗場

W. R. Hinshaw

本報文ハ鷓口瘡ニ關スル既往ノ文獻竝一九三一年十一月カリフォルニア州北中部地方ニ於テ吐綬鶏及鶏ニ發生セル本病ニ關スル研究報告ナリ

Monilia Person 屬ニ屬スル酵母狀菌ハ最モ普通ニ見出サレ其ノ多クハ Stovell 及 Bubolz ノ分類ニ從ヘバ第二型 *M. albicans* ナルヲ豫報セリ、余ノ研究ニヨレバ鷓ニ於ケルヨリモ吐綬鶏ニ於テ急激ナル發生ヲ見ル傾向多ク、特ニ二―五ヶ月ノモノニ於テ甚シク、コクシチウム症或ハヴァイタミンA 缺乏症ニ於ケルガ如キ衰弱狀態ニ陥ルヲ常トス、最モ普通ニ犯サルルハ嚔囊ニシテ、菌絲ハ口腔、鼻腔、食道、嚔囊前胃及砂囊ニ見出サルルモ腸内ニハ發見セラレズ、嚔囊中ノ變狀部ハ輕症ノ場合

ハ加答兒狀態ニシテ、急性ノ場合ニハ厚ク粘液ヲ滲出シ義膜形成ノ傾向ヲ示シ、慢性ノ場合ニハ粘膜ノ肥厚著シク黃白色乃至紅赤色潰瘍現ハル

罹病鶏ノ隔離ト共ニ鷓舎ノ消毒ヲ行ヒ、同時ニ給餌器、給水器ノ消毒ヲナシ、硫酸銅ノ二千分ノ一溶液ヲ適宜飲水ニ代用セバ好結果ヲ得

第九八號 家禽ニ於ケル盲腸内寄生蟲

佛 蘭 西 アルフォール獸醫學校教授

A. Henry

家禽ノ盲腸ニ寄生シ直腸炎ノ誘因ヲナス寄生蟲ハ Monostomid Trematodes 及ビ Nematodes ニ屬ス Monostomid 盲腸炎ハ *Notocotylus*, *Catatopis*, *Paramonostomum* 等數種ニ因ツテ起リ主トシテ鷓及鶩ニ多シ

Heterakid 盲腸炎ハ *Heterakis*, *Sublura* 等ノ Nematodes ニ因ツテ起ル

(一) *Heterakis gallinae* 家禽ニ於テ最モ一般的ニ見ラルルモノニシテ初期ニハ粘膜ヲ輕度ニ犯スニ過ギザルモ吐綬鶏ニ於テハ *Typhlo-hepatitis* ノ誘因トナル、一ヶ月間煙草ヲ二% 添加セル飼料ヲ給與スルヲ良トス

(二) *H. Gallinae* 高溫地方ニ於テハ屢々 *Heterakis brevispiculum* ト替ハルコトアリ  
病理作用ハ全ク同様ナルモ、其ノ幼蟲ハ盲腸壁ニ一層深ク浸入シ結節狀小隆起ヲ形成ス



- (三) *H. isoloneche* 鳩ニ特有ノモノニシテ病原性極メテ強ク鳩ノ乳嘴性盲腸炎ヲ惹起ス
- (四) *H. dispar* 鶯及鶯ニ特有ニシテ *Heterakid* 盲腸炎ノ原因ヲナス
- (五) *Subulura* 屬ノ *Subulura differens* 代表的ノモノトシ、亞熱帶及熱帶地方ニ於テハ *H. Gallinae* 多シ

第九九號 鷄蛔蟲 (*Heterakis Gallinae*) ノ運動ニ關スル觀察

加 奈 陀 トロント大學生物學教室 A. D. Baker

鷄ノ盲腸寄生性蛔蟲 (*Heterakis Gallinae*) ノ運動ニ就テ觀察シ、身體ノ位置、腹背及旋回運動、竝體長、體幅ノ發育ヲ觀察スルト共ニ他ノ學者ノ本寄生蟲ニ關スル發見ヲモ著者獨特ノ見地ヨリ比較論述セリ

第一〇〇號 貧節條蟲 (*Davainea proglotina*) ト其疾病、一般寄生蟲ノ病原性竝未知ノ一病因

英 國 農漁省獸醫學研究所 E. I. Taylor, B. V. Sc., M. R. C. V. S.

*Davainea Proglotina* 囊蟲ノ寄生セル蝸牛ヲ種々ノ分量ニ孵化後十週ノ雛ニ給與シ、一回給與後八週ニシテ屠殺剖檢セルニ、三、〇〇〇—四、〇〇〇匹ノ原蟲ヲ攜帶セリ、而シテ第十八週ニ剖檢セル一羽ハ尙一、九〇〇匹ヲ攜帶セルモ、第二二週ニ剖檢セル二羽ハ僅カニ夫々五〇匹、一五〇匹ヲ攜帶セルニ過ギズシテ、既ニ殆ド終末ニ近ヅケルヲ示セリ

生體重ハ每週之ヲ秤量シタルモ、體重ト寄生蟲ノ増産トノ間ニハ何等ノ關係ヲモ見出し得ザリキ、從ツテ三、〇〇〇—四、〇〇〇匹ノ *Davainea Proglotina* ノ寄生ハ顯著ナル健康障礙ヲ起サシメ得ザル事及或種ノ寄生蟲ノ如ク其ノ排除ハ急激ニ行ハレズシテ數週乃至數ヶ月ニ亘リ除々ニ排泄セラルルモノナリト結論シ得タリ

#### 第四部 指導及機關

第一〇一號 和蘭ニ於ケル養鷄ノ發達ト其ノ重要性

和 蘭 農業教育檢察官 D. S. Huizinga

本邦鷄卵ノ輸出ハ一九〇二年ニ始メテ輸入ヲ凌駕シテ以來、急激ナル増加ヲ見、今ヤ養鷄生産物ハ農産物ノ輸出貿易中極メテ重要ナル部位ヲ占ムルニ至レリ、即チ一九三二年ニ於テハ鷄卵生産高ハ二〇億箇内外ニシテ其ノ半數ハ輸出セララル

此ノ異常ナル發達ハ鷄飼養羽數ノ激增、飼養管理法ノ向上竝鷄卵處理法ノ合理化等ニ因ルモノニシテ當業者間ノ諸組織ト政府ノ諸施設トノ協調ノ結果ナリトス、然ルニ最近ノ不況ハ鷄卵ノ輸出ニ甚ダシキ困難ヲ生ゼシメ當業者ノ損失ヲ招キ養鷄業ノ萎靡不振ヲ來スベキ窮狀ナルヲ以テ何等カノ應急對策ヲ講ズルノ要アリ



第一〇二號 最近五ケ年間ニ於ケルブルガリヤノ養鶏ノ發達

ブルガリヤ ソフィヤ養鶏試驗場長

G. S. Chlebaroff

廿數年以前ニハ殆ド顧ミラレザリシ本邦ノ養鶏ハ一九二七年中央養鶏試驗場ノ設置以降急激ナル發達ヲ示シ、今ヤ國立孵化場及種禽場モ設置セラレ優良種禽、種卵ノ配付ヲ行フト共ニ全國ヲ四區ニ分チ、各區ニ夫々適切ナル品種ヲ飼養セシムルニ至レリ、政府ハ品評會ノ助成、鶏卵ノ輸出ヲ獎勵シ、輸出鶏卵ハ五〇瓦以上ノモノニ限り、其ノ品質及荷造法等ノ検査ヲ施行シ、輸出税ヲ徹廢セリ家禽疾病ノ防遏方策トシテ國立獸疫研究所ヲ設立シワクチン血清等ノ配付ヲナシ、強制屠殺セル鶏ニ對シ代償金ヲ交付シ又防遏功勞者ニ對シ賞金ヲ授與ス尙養鶏組合聯合會ニ在リテハ當業者出資ノ共同資金ニヨリ、宣傳冊子廣告類ノ頒布、講習會ノ開催等ヲナス

如斯官民協力ニ因リ斯業ハ著シキ發達ヲ見、一九三一年ニ於テハ五年前ニ比シ鶏卵ニ於テハ約倍量、肉鶏ニ在リテハ約五倍量ヲ輸出スルニ至レリ、現今ノ如キ不況ニ際シテモ本邦養鶏業ハ尙安定ヲ保チツツアリ

第一〇三號 アルゼリヤノ養鶏

アルゼリヤ 家畜學校養鶏學教授

J. Bernard

本邦ニ於ケル鶏卵肉ノ貿易ハ一九三〇年迄ハ輸出ハ急増セルモ一九三〇年以降ハ著シク減少セリコノ不況ノ原因ハ盜難防止法ノ不備、交通機關ノ不便、當業者ノ家禽疾病ニ對スル無關心、經營智識ノ缺如等ナルモ、風土ハ極メテ養鶏ニ適シ且天然資源ニ富メルヲ以テ、學校、養鶏組合並刊行物ノ獎勵宣傳ニ俟チテ今後養鶏ハ國民ノ重要ナル産業トシテ發達スルニ至ルベシ

第一〇四號 紐育州ニ於ケル養鶏指導計畫

北米合衆國 コーネル大學

H. E. Botsford

紐育州ニ於ケル養鶏指導事業ハ次ノ如キ組織ヲ以テ遂行セラル

Dean of College	大學長
Director of Extension	指導部長
Poultry Department Head	養鶏學部長
Central Farm Bureau Office	中央農事部
Poultry Extension Division	養鶏指導課
College Scheduling Office	大學計畫部
County Farm Bureau	郡農事部
County Poultry Committee	郡養鶏委員



Poultrymen of the State

州養鶏業者

養鶏指導員ハ郡農務官及郡養鶏家代表タル郡養鶏委員ト會シ毎年ノ計畫ヲ樹テ農務官ハ事業ノ協定ニ着手シ、集會、宣傳其他ニ對スル指導員ノ後援ヲ大學計畫部ニ申請ス  
大學計畫部ニ於テハ各部ヨリノ申請ヲ一括シ、指導員派遣ノ日程ヲ作成ス、各指導員ハ約十八郡ヲ擔當シ計畫遂行後ハ相互交替ス

第一〇五號 オハイオ州ニ於ケル鶏種改良計畫

北米合衆國

オハイオ鶏種改良協會事業部長

G. S. Vickers

最初政府ノ計畫セル種鶏蕃殖策ハ州立農科大學養鶏指導部ノ正規、指導計畫ノ一ツトシテ樹立セラレタルモ実績ヲ見ルニ至ラズ、加フルニ大解卵業者ノ出現ニヨリ一般鶏質ハ此ノ影響ヲ受クルコト甚大ナルヲ以テ篤實ナル養鶏家ト大學家禽學部トノ協力ニヨリ強力ナル種鶏改良協會組織セラレタリ本計畫ハ次ノ三階梯ニ分タル

- (一) 嚴密ナル監督ニヨリ産卵調査並血統蕃殖ト記録ノ公認
- (二) 檢定鶏及孵化場所有鶏ノ個體ノ特徴ニヨリ嚴選ト(ニ)ニヨル二〇〇卵以上ノ仔雄トノ交配
- (三) (二)ニヨル種鶏ノミヲ所有セル公認孵化場、模範孵化場並協會監督孵化場ノ指定

斯クテ監督部ハ總テノ規程ノ勵行ヲ監督シ、廣告類ハ印刷前ニ檢閱ス、本計畫ハ至ル所實行サレ、

基金ハ會員ノ據出ニヨリ増額セリ

第一〇六號 日本ニ於ケル最近ノ鶏産卵能力ノ増進

日 本 農林省畜産局

一九二七年以來本邦政府ハ國內鶏卵増産計畫ヲ實施シ全國五地方ニ國立種鶏場ヲ設置シ單冠白色レグホーン種、横斑プリマスロツク種、白色ワイヤンドツト種、單冠ロードアイランドレッド種、黑色オレピントン種及名古屋種ノ六品種ヲ獎勵鶏種トシテ飼育シ縣施設ノ種畜場、種鶏場其ノ他種々ノ養鶏關係團體ニ對シ種卵及種雛ノ配付ヲ行ヒツツアリ  
コノ結果最近鶏飼養羽數及鶏卵ノ生産ハ急激ニ増加シ、殊ニ産卵能力ノ増進著シキモノアリ、又國立種鶏場及地方施設ニ於テハ總テトラツプネストニ依リテ産卵能力ヲ調査シ著シキ好果ヲ得ツツアリ

現在全國一羽當一年間ノ産卵數ハ一二二・八箇ニシテ過去六年間ニ二二%ノ増加ヲ示シ、同時ニ本邦鶏卵市場制度モ亦急速ナル發展ヲ遂ゲタリ

第一〇七號 獨逸ニ於ケル現行養鶏獎勵施設ノ形態ト目的

獨 逸 全國養鶏組合長

Th. Schultz

本邦ニ於ケル養鶏業ハ一般ノ經濟恐慌特ニ農産物市場ノ不況ニ禍セラレシヲ以テ政府ハ養鶏ノ普及



發展ノ爲、種々ノ獎勵策ヲ樹立シ特ニ生産物ノ品質向上、生産費ノ低下及市價ノ安定ヲ企圖シ、鶏卵ノ格付及取引ニ關スル法規ヲ制定シ、優良品ノ生産者組合並政府保護ノ販賣組合ヲ助成シツツアリ

尙當業者ハ養鶏組合ヲ組織シ、生産組織ノ合理化、生産物ノ品質向上ヲ計リ一般農業政策トノ合致ニ努メツツアリ

第一〇八號 獨逸ニ於ケル鶏系統蕃殖獎勵團體

獨逸

O. Häpping

純粹種禽協會ハ (一) 新品種ノ作成 (二) 國內品種ノ統一 (三) 品種特徴ノ保持 (四) 養鶏生産物ノ基礎ヲ強固ナラシムル爲ノ純粹蕃殖獎勵ヲ事業トセルモ、之ヲ概説スルニ

(一) 現在獨逸ニ於テハ新品種作出ノ必要ナキモ、新品種ハ獨逸家禽協會ノ規程ト一致セザルモノハ承認サレズ

(二) 新系統或ハ變種ハ協會ノ承認ヲ要シ、協會ハ之ヲ會員並共進會ニ通告ス

(三) 實用鶏ニ就テハ特別ナル組合ヲ設ケラレ又協會ハ鶏ノ外貌其他ノ條件ヲ生産能力ノ生理學的基礎ト一致セシムル様特ニ留意シ

共進會ニ於テモ能力證明書ヲ有スル鶏ニ對シテハ特別區ヲ設ク、之ニ關與セル團體ハ次ノ如シ

- (1) General Poultry Breeders' Association
- (2) Provincial & National Breeders' Association
- (3) Special Association
- (4) The Special Society
- (5) Association of Competition Judges
- (6) German Poultry Breeders' Union

第一〇九號 白耳義ニ於ケル養鶏團體

白耳義

V. Pulinckx

最近ニ至ルマデ産業トシテハ顧ミラレザリシ本邦養鶏ハ大戰後急激ナル發達ヲナシ、國內消費及輸出激增スルニ至リ養鶏組合全國聯合會ハ種々ノ鶏卵増産獎勵ヲナス

食鶏ノ生産モ亦極メテ重要性ヲ有シ、肉質佳良ナル本邦ノ肥育鶏ハ、"Poulet de Bruxelles"ノ名聲アリ、生産業ハ進歩シ、肥育業者ハ Malines ノ市場ニテ Brabant 北部地方産ノ三、四ヶ月ノ若鶏ヲ買入レ、之ヲ特殊ナル方法ヲ以テ三週間肥育ノ上販賣ス

食鶏ノ種類ハ地方種 Coucon ト亞細亞種トノ雜種ニシテ肉質佳良、體型モ亦大ナリ

第一一〇號 養鶏業ニ於ケル婦人ノ活動ト聯合婦人會ノ養鶏宣傳



伊 太 利

A. Cernezzi Moretti

伊太利ニ於ケル鶏卵肉ハ曾テハ一般農家ノ生産ノミヲ以テ國內ノ需要ヲ充スト共ニ相當ノ輸出ヲ示シ、非科學的ナル飼養管理ヲ以テシテモ猶有利ニ經營セラルル状態ナリキ、然ルニ諸外國ニ於ケル産業養鶏ノ發達ニ伴フ卵價ノ下落其他ノ原因ニヨリ遂ニ輸入超過ヲ見ルニ至レリ

斯ル状態ニ於テモ國內養鶏ノ衰微著シカラザリシハ農婦ガ養鶏ニ對シ犠牲的勞働ヲ惜マズ猶養鶏ヲ斷念セザリシ結果トス

爾來科學的養鶏法ヲ採用シ、生産増加ヲ計ラントスル運動起リ、漸次經濟的ニ均衡ヲ得ルニ至レリ  
コノ宣傳ハ Unione Massaie della Compagna (聯合婦人會) ニヨツテ爲サレ、農務大臣ノ讃同ト支持ヲ受ク

即チ伊太利養鶏ノ發達ハ常ニ農村婦人ノ有益ナル活動ニ起因スルハ極メテ意義アリト思料セラル

第一一號 養鶏巡回講習ニ於ケル實地指導ノ效果

北米合衆國

オハイオ大學養鶏指導技師

C. M. Ferguson

指導ヲ有效ナラシムルニハ (一) 關心ヲ唆ルコト (二) 效果的ナル反應ヲ起サシムルコト (三) 自己表現ノ三者ヲ主要條件トス

即チ巡回旅行、農村訪問、會合ノ席上ノ模型、標本類ノ陳列或ハ幻燈映畫、寫真等トス、活動寫真ノ

ノ内容ハ往々ニシテ一般的ニ成リ、爲ニ地方民ノ興味ヲ呼バザルコト多キヲ以テ適切ナル映畫ハ次ノ如キ點ヲ具備スルヲ要ス

- (一) 娛樂ヨリモ寧ロ教育本位ニ仕組マレタルモノ
- (二) 觀衆ニ對シ目新シキ事物タルベキコト
- (三) 一卷中餘リニ寫真ノ種類ヲ多クセザルコト
- (四) 巧妙ナル字幕ヲ挿入スルコト
- (五) 良キ寫真ノミヲ選擇スルコト
- (六) 掛圖類ハ可及的簡單ナルコト
- (七) 漫畫挿入ノ場所ヲ誤ラザルコト
- (八) 配列ノ順序宜シキコト

第一一二號 養鶏相談ノ成功

獨

逸

オツベルン養鶏技師

B. Schösingk

養鶏ハ一農家ノ副業トシテ經營セラルル事多キヲ以テ、農務局、農會及販賣組合等ト連絡シ養鶏相談所設置セラレ、良好ナル成績ヲ擧ゲタリ、所員ハ常ニ農家ト接スル方針ノ下ニ養鶏一般ニ亘リテ助言、指導ヲナシ、特ニ經營法、經濟上ノ諸問題トシテ投資ノ節限、自給飼料ノ利用、農家自體ノ事情ニヨル經營法ノ決定等ニハ充分ノ考慮ヲ拂フト共ニ、鶏卵ノ格付、食鶏ノ調整等生産品改良ノ要ヲ認識セシメ、同時ニ取引組合トノ連絡ヲ圓滑ナラシメツツアルヲ以テ、シレジア地方ニ於テハ次第二飼養羽數並生産卵數ノ増加ヲ示シツツアリ

第一一三號 ブルガリヤ地方種ノ蕃殖價值ニ就テ

ソフィア養鶏研究所長

G. S. Chlebaroff



本邦一般ニ飼養セララル地鶏ハ地中海沿岸種ニ屬シ其ノ重要性質ニ關スル研究概要ハ次ノ如シ

- (一) 早熟性及平均初産日齡—在來種 “The black Schumenka,” “White Sebievka” 及 “Yellow Breed of Elena” 等平均初産日齡ハ品種ニヨリテ異ルモ初産ヲ早メシムル可能性有リ
- (二) 季節ニヨル産卵數ノ變化及ビーケ年産卵數—ブルガリヤ在來種ノ産卵數ハ年七〇乃至八〇箇ナルモ、ソフィア中央家禽研究所ニ於テ研究セル結果、相當能力ノ増進ヲ見、冬期産卵數ニ於テモ亦増進ヲ示セリ
- (三) 最大、最小及平均卵重量—ブルガリヤ諸品種ノ平均卵重量ハ五三・五瓦強ナルモ、六五瓦ニ達スル産卵ヲ爲スモノアルヲ以テ卵重量増加モ亦單ニ蕃殖法ノ如何ニ存スルコト明ナリ
- (四) 孵化率—孵化率亦良好ニシテ受精卵ニ對スル孵化率ハ人工孵化ニ於テハ六一・五—七一・八%母鶏孵化ニ在リテハ七二・七—九〇・二%ナリ
- (五) 飼料ノ利用性—地鶏ハ採食性強ク、粗飼ニ耐ヘ且飼料ノ利用性ニ富メルヲ以テ鶏卵一箇ノ生産費ハ白色レグホーン種及ロードアイランドレッド種ト大差ナク、プリマスロック種及ビワイヤンドット種ニ比シテ安價ナリ
- (六) 生體重—年齢二—三年ノ雌鶏ハ平均一・五—一・八瓦ニシテ、中等度ニ肥育セル場合二—三年雌鶏一・八五瓦、一年雌鶏一・五七瓦、二—三年雄鶏二・二六五瓦、一—二年雄鶏一・九六瓦ナリ

(七) 屠肉歩合—諸品種ヲ肥育調査セルニ平均屠體重一・二五瓦ニシテ、肉六三・三%、骨一四・八%、脂肪一一・九%、心臟、肝臟、筋胃一〇%ナリキ

(八) 抗病性並死亡率—傳染病及氣候ノ影響ニ對スル罹病歩合ハ高キモ斃死率ハ却テ低シ  
以上ヲ綜合スルニブルガリヤ在來種ハ嚴重ナル淘汰ニ依リ、形質向上ノ見込充分ナルモ新實用種ノ作出、形態的ニ殆ド固定セル Black Schumenka ヲ改良シ一層經濟的品種タラシムル等蕃殖上ノ重要問題多ク、養鶏ノ前途極メテ有望ナリ

第一一四號 官民合同ノ養鶏獎勵五ヶ年計畫

獨逸 オスナブルユツク

Mühlberg

本計畫ハオスナブルユツク縣ニ於テ實施セラレ、農家收益ノ増加ト市場ニ對スル必需食料品ノ供給法改善ヲ目的トセルモノナリ

政府及民間有志ノ協力ト生産物ノ増加ト相俟ツテ市場統制ヲ必要トスルニ至リ、當業者ト有力ナル中央市場トノ協力ニヨリ、生産物ノ販賣並利用及養鶏經營法ノ合理化及集約ヲ實行ス  
農家ヲ刺戟シ且好例ヲ提供センガ爲、模範養鶏場設置セラレ政府ハ之ニ對シテ補助金ヲ交付ス

第一一五號 健康雛育成運動ニ就テ

北米合衆國 コネクチカツト巡回養鶏指導講師

R. E. Jones



健康雛育成運動ハ過去十一年間ニ急激ナル發達ヲ遂ゲ二七州ハ實行中ニシテ本運動開始後雛ノ斃死率ハ五〇%以上ノ減少ヲ見タリ

北東養鶏會議ノ健康雛育成運動ニハ實際上最モ根本的ナル諸點ヲ包含ス、即チ其ノ各項目及夫ヲ計畫中ニ採擇セル州數ヲ示セバ次ノ如シ

- (一) 清潔ナル雛 二七州
- (二) 清潔ナル育雛舎 二二州
- (三) 清潔ナル土地 二一州
- (四) 清潔ナル敷藁 一八州
- (五) 清潔ナル飼料及飲水 二二州
- (六) 清潔ナル管理 二〇州

以上ノ外「雛ノ早季孵化」ヲ計畫項目トセルモノ數州アリ

健康雛育成計畫ハ運動ノ形式ヲ採リ、其ノ應用ノ範圍廣大ニシテ育雛技術ノ改良、雛斃死率ノ減少及ビ發育優良ナル若雌生産等ニ其ノ效果大ナルモノアリ

第一一六號 和蘭ニ於ケル養鶏組合ノ活動

和 蘭 和蘭養鶏組合長

P. J. Van Haren

和蘭ニ於テハ一般農業ノ活動性ハ養鶏業ニモ反映シ、經濟的事情ヨリ專業養鶏家ト愛玩養鶏家トハ其ノ組合ヲ異ニスルモ、最モ重要ナル組合ハ專業家ニヨツテ組織セラルル和蘭家禽組合ニシテ、國內專業者ノ地方的組合ノ大部分ハ本組合ノ下ニ統制セラレ、組合員一〇萬以上ヲ算ス

加入セル組合ハ(一)專業家地方組合(二)地方農事組合(三)鶏卵市場組合  
農業關係ノ重要問題決定ニ際シ政府ハ屢々和蘭ノ農業代表者タル最高ノ專門組合ヲ召集シ、之ニ附議スルモ、養鶏組合ハ其ノ間ニ在ツテ他ノ有力ナル酪農、園藝等ノ組合ト同様重要性ヲ有セル事實ハ現在養鶏業ガ内外共ニ放任シ得ザル危機ニ遭遇シ、アラユル匡救手段ノ講ゼラルル極メテ重要ナル意義ヲ有スルモノナリトス

此ノ外種禽業者ノ組織セル和蘭種禽業組合、或ハ愛玩養鶏組合等アリ

第一一七號

獨 逸 血統登錄組合

A. von Burgsdoff

獨逸ニ於ケル血統登錄組合ハ次第二其ノ勢力ヲ増シ、州ノ統制下ニ漸次其ノ範圍ヲ擴張シツツアリ  
組合ハ組合員ノ飼養鶏蕃殖上ノ問題ニ關シテハ進ンデ援助スルト共ニ組合員ニハ賦課シ、之ヲ養鶏獎勵費及若干小農場ニ於ケル登錄事業資金トス  
尙組合ハ營業部ノ活動竝一般狀勢ノ通報ヲ爲シ組合員ヲ援助ス



血統登録組合ハ數多ノ血統明ラカナル雄ヲ配付シ、又冬期ニ雄ノ競賣ヲ行ヒ優良雄鶏ノ普及ヲ見ルニ至リ、獨逸養鶏業ニ大ナル影響ヲ與ヘタリ

第一一八號 **トラツブネスト**ニ關スル觀察

伊 太 利 羅馬地方養鶏研究所長

F. Clement

産卵ニ際シ雌ノ好ム場所、巢中ニ糞ヲ整ヘル動作、卵ノ破損ヲ防止シ得ル糞ノ厚サノ程度、**トラツブネスト**ノ占ムル容積、品種ニ依ルト**トラツブネスト**ノ高サ、鶏舎ノ床カラノ高サ及種々ノ**トラツブネスト**臺ノ製作法ヲ論ジ、次デ**トラツブネスト**ニ應用セラルル機構ヲ (一)**トラツブネスト**中ノ鶏ノ體重ヲ應用シタルモノ (二)**トラツブネスト**ニ進入ノ際ノ衝動ヲ應用シタルモノノ二種ニ分チ、種々ナル扉ノ構造、及閉塞ノ速度ト鶏ノ進入速度トノ關係ヲ論ジ**トラツブネスト**内ノ氣温、一日ノ使用時間ノ大要、就巢鶏ニヨル支障等ヲ述べ、更ニ當業者ノ實利問題トシテ (一)産卵鶏ト然ラザルモノトノ觀察 (二)多産鶏ノ識別 (三)**トラツブネスト**中ニ産卵スル鶏ノ概數ノ調査 (四)**トラツブネスト**中ニ入ルモ産卵セザル鶏ノ概數ノ調査 (五)産卵ノ啄食及巢外脱落ノ防止等ノ要ヲ論ジ、産卵鶏ト然ラザルモノトノ識別ニ便ナル二重扉式**トラツブネスト**及著者ノ考案セル入巢、産卵竝出巢ヲ自働的ニ記録スルト**トラツブネスト**ヲ紹介セリ

第一一九號 北米合衆國ニ於ケルR、O、P

北米合衆國

ミシガン大學巡回養鶏指導講師

O. E. Shear

- (一) 本邦ニ於テハR、O、P事業ハ一九二六年ニ開始セラレタリ
- (二) 一七州ハ現在モ尙實施中ニシテ一四州ハ合衆國血統登録協會ニ屬ス
- (三) 一五州ノ報告ニ依レバ一九三三年ニ二〇七人ノ會員ハ六萬七千餘羽ノ産卵能力ヲ檢定セリ、之ヲ種類別ニ見ルニ單冠白色レグホーン七〇・八%、單冠ロードアイランドレッド一四・七%、横斑プリマスロツク九・三%、白色プリマスロツク三・八%、白色ワイアンドット一・二%、バフ色オーピントン一・〇%、白色ミノルカ〇・四%ナリ
- (四) 現場及集合檢定鶏ノ中一萬羽即チ一五%内外ハ年々登録資格ヲ與ヘラル
- (五) 登録雌鶏直系ノR、O、P、雄鶏ハ年々數百萬ノ雛ヲ生産ス
- (六) R、O、Pハ能力優良ナル種鶏ノ給源トナリ、又優良ナル蕃殖家ノ數ヲ著シク増加セリ
- (七) 近年ノ不況ニモ不拘R、O、P、ハ極メテ健全ナル發展ヲ遂ゲタルヲ以テ、經濟狀態ノ好轉ニヨリ一層ノ發展ヲ期待シ得ベシ

第一二〇號 伊太利ニ於ケル養鶏組合

伊 太 利 國家ファアシスト農業者聯盟養鶏部長

R. Rinaldi Ceroni

國家ファアシスト農業者聯盟ハ之ニ所屬セル經濟團體中ニ養鶏部ヲ設置シ、之ニ全縣數ト同數ノ地方



部會ヲ包含セシメタリ  
尙農業ニ關係アル總テノ團體ヲ總括セル統制會議ノ組織並養鶏部會ノ計畫事業及現在ニ至ル迄ノ成績ヲ説明セリ

### 第五部 經濟問題及家禽生產物ノ取引

#### 第一二二號 鶏卵變敗ノ起因ニ關スル考察

佛 蘭 西

C. H. Rerard

鶏卵ノ變敗ハ保健上並經濟上ノ重大問題ニシテ之ガ起因ハ鶏卵形成中ニ卵巢、輸卵管、腸管等ヨリ侵入スル微生物或ハ産卵鶏ノ健康狀態及飼料ノ種類、交尾等ニシテ又産卵後卵殻ニ附着セル塵埃、貯藏日數、天候、取扱ノ巧劣等ノ影響ヲ受クルコト多シ  
而シテ如斯變敗ハ生産並販賣方法ノ改良ニヨリ或程度迄防止シ得ラルヲ以テ一層當業者ヲ指導シ清潔ニシテ健全ナル鶏卵ヲ最短時間ニ消費者ニ供給スルノ要ヲ認識セシムベキナリ

#### 第一二二號 水素イオン測定ニ依リ鶏卵ノ新鮮度鑑別法

佛 蘭 西 國立農事試驗場畜産部

Ch. Voiteiller

分析化學研究所

Mlle Goyat & M. Devaux

燈火檢卵ハ取扱法トシテハ衛生的ナルモ、新鮮度ノ格付ヲナスニハ未ダ充分ナリト言ヒ難シ、仍テ産卵後ノ日數ニ依ル卵白及卵黃ノ水素イオン濃度ノ變化ニ關スル諸家ノ研究ヲ綜合シ Gillespie 法ニ依リ水素イオン濃度ヲ測定セルニ六・七五乃至九・七五ノ範圍ニ在リテ産卵後一二日目迄ハ増加シ第三日目迄ノ増加ハ特ニ著シキヲ知リ之ガ實際的應用トシテ大要次ノ如キ結論ヲ得タリ

(一) Gillespie 法ハフェノールレッド、クレゾールレッド及チモールブルーヲ使用シ少數ノ供試鶏卵ニヨリ全鶏卵ノ相對アルカリ度ヲ推定シ得

(二) 本法ニヨレバ産卵後二、三日以内ノモノハ新鮮卵トシテ市場ニ供給スルモ支障ナシ

(三) 産卵後三日以上ヲ經過セル鶏卵ノ産卵後ノ日數ハ決定シ難シ

(四) 本法ハ簡易ナレドモ技術上ノ化學的知識ヲ必要トスルヲ以テ熟練セル技術官ニ限り採用スベシ

#### 第一二三號 合衆國ニ於ケル鶏卵ノ防腐用油處理法ノ實用化

北米合衆國 中部カリフォルニア養鶏生産會社長

J. Lawler

合衆國ニ於テ鶏卵ノ腐敗防止ヲ目的トセル卵殼塗油ノ實用化セルハ一九一〇年頃ニシテ當時ハ植物性油ヲ使用シタルモ現在ハ無色、無味、無臭、不揮發性ノ礦物性油ヲ使用ス、之ガ爲ニ大規模ナル特種ノ機械考案セラレ特許ヲ受ケ使用者ニ貸與セラレ塗布油ハ又別個ノ特許獲得者ヨリ供給セラ



塗油セラレタル鶏卵ハ通常ノモノニ比シ長期ノ貯藏ニ耐ヘ一般ニ冷蔵ニ供セラル

第一二四號 最近ノ經濟恐慌ニ對スル本邦冷凍乾燥卵業ノ活動

北米合衆國 セント・ルイス

A. D. Greenlee

本邦ノ冷凍乾燥卵業ハ過去三年間ニ殆ンド需要ト同量ヲ生産スルニ至リ不統一ナリシ冷凍卵生産モ不況ノ結果却ツテ統制ヲ得タリ、即チ若干ノ大出荷團體ノ擴張ト成功ハ遂ニ過剰出荷ヲ招致シ一九三〇年ノミニテモソノ數三千萬封度ニ達シタル爲出荷者ハ冷凍方面ニ意ヲ用ヒ地方ニヨリテハ下級卵ハ勿論、數百萬封度ノ出荷時ノ過剰生卵ヲモ冷凍、乾燥ニ供シ生卵取引ノ供給過剰ハ却ツテ冷凍卵トシテノ契約相場ニテ良好ナル取引ヲ行ヒタリ、而テ冷凍卵ノ秩序アル出荷ハ斯業ノ一大安全辨タルモ無統制トナラバ市價ヲ脅ス危險物トナルベシ

第一二五號 冷蔵卵ノ重量減損

北米合衆國

M. E. Pennington

鶏卵ノ水分蒸散ト冷蔵室ノ冷却法トノ間ニハ極メテ密接ナル關係ヲ有ス、冷却空氣送氣式ニテハ八ヶ月ノ貯藏ニヨリ五%、送氣式及圓筒式併用ニテハ四%、壁又ハ天井ニ圓筒ヲ附設シ空氣ノ流動ヲ自然ニ放置スル時ハ絶縁效果、冷蔵溫度等ノ程度ニ依リ三%強ノ減量アリ、圓筒式ニ空氣ノ流動ヲ一定ナラシムベキ圓管裝置及包装材料ニ對スル給濕設備ヲ施ス時ハ八ヶ月間ノ減量ヲ二・五%以下

タラシムルヲ得

合衆國特選卵 (U. S. Extras) 或ハ合衆國標準卵 (U. S. Standards) ノ如キ優良品ニシテ右ノ如キ方法ヲ以テ八ヶ月貯藏ニヨル減量ガ二・五%以下ナル時ハ貯藏卵數ノ七五%—九〇%ハ依然當初ノ格付ヲ以テ取引シ得ルモノニシテ如斯處理宜シキモノハ内容外觀共殆ンド新鮮卵ト區別スルヲ得ズ

第一二六號 鶏卵市場組合ニ於ケル諸實驗

獨逸 メルキツシュ鶏卵肉利用組合長

F. Skaller

鶏卵市場組合ハ鶏卵處理法ノ統一出荷費ノ低減及市場ノ安定ヲ目的トシ鶏卵ノ買付及市場出荷ヲ行フ  
買入部ノ業務原則ハ (一) 凡テ經常費ハ絶對ニ之ヲ認メズ (二) 卵價ハ從量評價トス (三) 過剰卵ハ有利ナル場合ニ限り區域外ニ出荷ス (四) 曾テ個人的ニ村落ノ鶏卵買出ヲ爲セシ者ヲ集卵人トシテ利用ス (五) 組合ニ鶏卵ヲ供給スル生産者ニ對シテハ州當局ハ特別ノ利便テ與フ (六) 鶏卵ノ處理ハ認可セラレタル者ニ限ル

鶏卵ノ販賣ハ一般市場狀態ニ適合セシメ次ノ如キ販賣方法ヲ採ル

(一) 和蘭競賣



- (二) 全商品ノ代理店販賣
- (三) 小賣商ヘノ直接販賣

猶春期ノ過剩卵ハ秋期ノ品不足ニ備フル爲冷藏シ、最近ニ於ケル販賣斡旋及市場ノ需要ニ對スル生産改善ノ諸施設ハ益々組合ノ活動ヲ促シツツアリ

第一二七號 鷄卵ノ標識ト其ノ養鷄業ニ及ボセル影響

白耳義 フラツセル

F. Mannes

鷄卵ニ商標ヲ附記セルハ若干ノ丁抹及和蘭ノ農業組合ガ嚆矢ニシテ、政府ノ之ニ關與セルハ遙カニ其ノ後ナリ、一九二八年四月三十日丁抹ニ於テ之ニ關スル最初ノ法令ノ制定ヲ見爾來丁抹、英國、波蘭、白耳義、獨逸ニ制定セラレタルモ各國相違スル點多ク國際貿易上ノ障礙大ナルヲ以テ本邦ノ主唱ニヨリ萬國農事協會ハ之ニ關スル協議會ヲ開催シ相當ノ效果ヲ收メタリ、次デフラツセルニ於テ十二月七日國際會議ヲ行ヒ生卵ノ產地ヲ標識スルコトトセルモ貯藏卵ニ付テハ決定ヲ見ルニ至ラザリキ、標識ノ結果ハ其ノ品質、風味、新鮮、包裝ヲ著シク改良セシメ不正競賣、投機等ノ跡ヲ絶チ消費ノ増加ニヨリ養鷄業ニ好影響ヲ與ヘ現在ノ危機ヲ脱スルヲ得ベシ

第一二八號 ミラン帝室養鷄試驗場ニ於ケル孵卵費及三ヶ月迄ノ育雛費

伊 大 利 ミラン國立農科大學

G. Giusti

當場ニ於テ孵卵費及三ヶ月迄ノ育雛費ヲ試驗セルニ孵卵費六・八六リラ、育雛費八・四一リラ計一五・二七リラトナリ之ヲ試驗終了當時ノミラン市場ニ於ケル食鷄相場ニ比シ且若雄ヲ蕃殖用トシテ高價ニ賣却シ難キ點ヲ考慮スル時ハ稍高キニ過グルベシ、而シテ此ノ結果ヨリ實際上次ノ重要ナル事項ヲ考慮セザルベカラズ、即チ農村ノ小規模養鷄ニ孵卵器育雛器ノ如キ工業設備ヲ施スト雖モ必ズシモ生産費ノ低減ヲ來サシメズ飼料ヲ安價ニ得ラル、外ハ孵化用卵、燃料、資本、利子等ニ經費ノ増大ヲ來スヲ以テ斯ル設備ヲ小農ニ推奨シ難シ

本邦現在ノ農村經濟狀態竝技術ノ未熟ナル點ヨリ見ル時ハ母鷄孵化ト放飼ヲ以テ最モ經濟的ナル經營法トスルモ之ガ改良ノ要ナキニハ非ズ、而シテ適當ナル衛生設備ノ普及或ハ大養鷄業者ノ誠意アル雄ノ大量供給等ニ依リ農村養鷄ノ發展ヲ望ミ得ベシ

第一二九號 世界各國ニ於ケル養鷄業ノ比較研究

獨 逸

W. Rieth

諸國ニ於ケル養鷄業ノ現狀ヲ考察セバ明ニ二ツノ傾向アルヲ認メ得ベシ、即チ一ハ最適ノ條件ヲ利用シ、極メテ集約ナル養鷄業ヲ營メル結果過剩ノ生産ヲナシ外國市場ヲ販路トシツツアル國ニシテ他ハ粗放ナル經營ニモ不拘國民ノ生活程度低ク消費量僅少ナルタメ過剩ヲ輸出シツツアル國ナリ、而シテ如斯養鷄生産物ノ輸入セラルル諸國ハ未ダ自給自足ノ域ニ達セザル狀態ニ在ルモノニシテ何



レモ國內ノ増産ニ依リ輸入ヲ防止セントスル傾向アルヲ以テ此ノ計畫ノ實現スル時ハ養鶏生産物殊ニ鶏卵ノ過剰ヲ來シ、勢ヒ市場取引不能ニ陥リ他ノ食料品ニ於テ其ノ例ヲ見ル如ク價格ノ低落ヲ來スベシ、而シテ之ガ對策トシテハ唯生産制限ヲ行フノ外ナシ

第一三〇號 世界的ニ有利ナル養鶏生産物消費宣傳

獨逸

F. Penningstoft

現在ノ農業危機ハ主トシテ生産過剰ニ原因スルモノニシテ養鶏業モ亦實際上ニハ消費ノ減少ニ因リ危機ニ頻スルヲ以テ大ニ積極的ナル消費宣傳ヲ必要トス

蛋白質ニ富ミ脂肪ニ乏シク且消化容易ナル食物ヲ要求スル一般ノ傾向ヨリ見レバ鶏卵肉ノ消費増大ハ極メテ容易ナルベシ

輸出入國共ニ之ガ消費ノ増大ハ共通ノ利益トナルヲ以テ萬國家禽學會ノ最モ重要ナル活動ノ一トシテ養鶏生産物消費ノ指導獎勵ヲ爲シ消費宣傳ニ對スル國際的協同ヲ助長セシムベキナリ

第一三一號 加奈陀ニ於ケル養鶏生産物ノ取引

加奈陀 モントリヨール

G. Henderson

養鶏生産物ノ輸送法ノ改善ト需要者ノ嗜好ノ變遷ハ生産物販賣法ノ向上ヲ促シ今ヤ鶏卵、肉ノ公定格付標準ノ制定ヲ見組合員ニヨル生産物ノ強制検査ト相俟ツテ包装完備サレ生産者ヨリ消費者ニ渡

ル迄ノ期間著シク短縮サルルニ至レリ

又共同販賣所ハ生産物ノ格付ヲ行フト共ニ小生産者ノ指導ヲ爲シテ生産物ノ品質向上ニ寄與セリ斯カル諸施設ニヨリ鶏卵、肉ノ消費量ハ著シク増加シ尙將來増大ノ傾向ニ在リ、著者ハ更ニ販賣法ノ改善並宣傳法等ニ就キ詳述セリ

第一三二號 ルーマニヤ小農家ニ於ケル養鶏收益

ルーマニヤ

J. Braghina

本邦養鶏ハ小農ノ副業的ニ飼養スル地鶏多ク體軀強健、重大ナレド産卵數年平均六〇—八〇箇ナリ常ニ各種ノ蟲類、落穀粒或ハ家畜糞中ノ不消化穀類ヲ採食スルヲ以テ飼料費ハ極メテ低廉ニシテ各農家ハ成鶏八羽、雛二〇羽内外ヲ飼養シ一ケ年四二〇 Leiノ收入ヲ得養鶏生産物ノ輸出ハ之等小農ノ副業的ノモノヲ主トシ昨年度輸出額ハ生鶏、鶏肉、鶏卵、羽毛等併セテ六億四千萬 Leiニ達セリ

第一三三號 瑞西ニ於ケル養鶏生産物ノ利用ト其ノ鶏卵、肉ノ輸入ニ及ボセル影響

瑞西

K. Kleb

(一) 一九三一年養鶏生産物輸入量

鶏卵	約二億箇
鶏肉	四千百三十二噸



生 鶏

四千百七十三噸

一三六

- (二) スイスフランノ高値ニヨリ輸入卵ハ國産卵ニ比シ格安トナリS、E、G、(スイス共同販賣組合)ハ最低價格ヲ一九三三年中玉一個一一・五センチメートルト公定セリ
- (三) 本邦養鶏ハ小農ノ副業特ニ有畜農業經營トシテ益々普及ノ傾向ニ在ルモ專業養鶏(千羽以上)ハ伸展ノ氣運ナシ
- (四) 瑞西養鶏協會ハ種禽検査ヲ委託農場ニ施行シ會立養鶏學校ハ實用的竝科學的見地ヨリ養鶏業ノ發達ニ努力ス
- (五) 養鶏生産物ノ品質維持向上ニ對シテハ凡ユル必要ナル方法ヲ講ジS、E、G、ノ商標ヲ附シ品質ノ優良ヲ保證セリ
- (六) 輸入ヲ制限シ生産過剩ノ國産鶏卵、肉ニ對シ確實ナル取引ヲ維持セシム
- (七) 家禽衛生法規ヲ制定シ病鶏及駄鶏ノ輸入ヲ取締リ國內養鶏業ヲ保護ス
- (八) 國內養鶏業ノ發展ニヨリ國産鶏卵ノミヲ以テ國內ノ需要ヲ滿シ又鶏肉ノ消費量ヲ増加シ得ル見込アリ

第一三四號 合衆國ニ於ケル鶏卵肉ノ國營検査及格付

北米合衆國 農務省酪農養鶏產物課

R. G. Potts

農務省ハ鶏卵、肉ノ格付標準ヲ制定シ之ヲ實施ス

鶏卵ノ格付ハ清潔完全ナル卵殻ノモノニ行ハシ U. S. Specials, U. S. Extras, J. S. Standards 及 U. S. Trades トナシ卵殻ノ状態、氣泡ノ大イサ卵黃、卵白及胚子ノ状態ヲ考慮シ產地買入格付卸賣格付及小賣格付ヲ行フ

屠鶏肉ハ U. S. Specials, U. S. Prime, U. S. Choice 及 U. S. Commercial ノ四種ニ分タレ肉付ノ良否、脂肪ノ状態、拔羽整形ノ完否、放血ノ良否、損傷ノ有無、皮膚ノ變色畸型其他ヲ考慮ス、又紐育市ニ於テハ生鶏ノ検査ヲ行ヒ、鶏肉罐詰製造工場ニ於テハ製品五〇種以上ヲ數ヘラレ政府ノ検査ニ合格セルモノハ合格證ヲ添付セリ

第一三五號 合衆國ニ於ケル吐綬鶏ノ公定格付ニヨル取引狀況

北米合衆國 農務省農業經濟局

T. W. Heitz

一九二七年政府ハ吐綬鶏肉ニ對スル格付標準ヲ制定シ U. S. Special, U. S. Prime, U. S. Choice, 及 U. S. Commercial ノ四等級ニ分チ主ナル市場、生産地ニ於テ實施ス、品位ノ決定ニハ肉量及外觀ヲ考慮シ整形ノ不備竝畸形ヲ比較的重要視ス  
格付終了後體重、年齢及雌雄ニヨリテ分類シ品位、年齢竝雌雄ヲ記入セル符標ヲ貼付シ各箱ニハ政府ノ明細證明書ヲ附ス



第一三六號 アイオハ洲ニ於ケル養鶏生産物ノ販賣指導

北米合衆國 アイオハ大學助教

W. D. Ternohlen, M. S.

養鶏生産物ノ販賣統制ニハ生産者、問屋、及消費者ノ三者ヲ考慮スルヲ要ス、即チ(一)各種ノ報告、時期並資金 (二)生産數量ト品質、養鶏業ノ普及狀況、農業經營上養鶏ノ重要性、生産物ノ取引關係者ノ數及其種類、消費者ノ種類等ヲ精細ニ考研スルヲ要ス

本計畫ハ(一)鶏卵肉ノ販賣ト格付 (二)市場ノ分析ト共同事業ノ實際 (三)消費者ノ教育ヲ方針トス

格付實施以來格付卵ノ生産農家及取扱者ハ著シク増加シ格付卵ハ然ラザルモノヨリ一打ニツキ三仙高價ニ取引サルル現況ナリ

第一三七號 合衆國ニ於ケル鶏卵及生鳥ノ競賣

北米合衆國 ニュージャーシー農務省市場局

A. E. Jones

東部地方鶏卵、生鳥生産地ニ於テ施行セラルル競賣ハ一定ノ機構ニヨリ特定ノ時期ニ定期的ニ行ハレ其ノ事業ハ他ノ共同團體ニ於ケルト全ク同一ナリ

著者ハ過去三ケ年間ニ於ケル競賣ノ成果ト其ノ原因並豫定計畫ヲ略述シ、現在ノ競賣原案ヲ左ノ如ク説明セリ

(一) 格付標準ニヨル高級品ノ生産並之ニ對スル政府検査官ノ検査證ノ附標

(二) 主産地ニ會費低廉ニシテ有限責任ノ地方共同團體ヲ設立シ、實費ニ對シ低廉ナル均一手數料ヲ徴收ス

(三) 各組合ニ於テハ交付ニ一定ノ間隔ヲ以テ競賣ヲ施行ス

(四) 入札ニヨリ等級別、大小別ニ價格ヲ決定シ價格表ヲ作成シ各支所ヘ配布ス

(五) 検査官ノ検査證ニテ封印シタル荷造ノママ生産者ヨリ直接消費者ニ販賣シ荷造月日ヲ明記ス

現在ニ於テハ東部地方十一ヶ所ニ競賣市場開設セラレ好果ヲ收メツツアリ

第一三八號 合衆國ニ於ケル鶏ノ急速冷凍

北米合衆國 グルースターシャー、バースアイ研究所長

G. Birdseye

近時冷凍業ノ發達ハ鶏肉ニモ應用セラルルニ至リ生産地ニ於テ不可食部ヲ除去シ、均一ニシテ優良ナルモノヲ生産者ヨリ消費者ニ常ニ冷凍ニヨツテ供給スル等冷凍作業ノ完全ナル組織要求セラルルニ至レリ

冷凍食品株式會社、Birdseye 式冷凍機ヲ設備シ大規模ナル冷凍鶏肉ノ販賣ヲ行ヒ好成績ヲ收メタリ、同會社經營ノインディアナ洲工場ニ於テハ最盛期ニハ一分間二四羽、一日十時間、一週六日ノ就業制度ヲ採レリ

如斯急速冷凍法ハ時ト距離ノ顧慮ヲ必要トセズ今後ハ國際貿易上次第二其ノ重要性ノ増加スルヲ豫



想シ得ベシ

1 E 0

## 第六部 養 兔

第一三九號 家兔ニ於ケル染色體數

伊 太 利

G. Ragionieri

家兔ノ染色體數ノ研究概要ニシテ家兔ニ於テモ他ノ動植物同様何箇ノ染色體ガ巨大性ノ構成ニ關係アルヤヲ判定シ得ルモノノ如シ、本研究ハ品種改良ノ雜交問題ニモ亦著者ガ**アングラトジヤイアン**トヲ交雜シテ圖ラズモ遭遇セル遺傳的親和力ノ問題上ニモ寄與スル點アリタリ

第一四〇號 家兔ニ於ケル**フリユートダツチ**間ノ新連鎖關係

英 國 **ケンブリツチ**大學農學部

M. S. Pease

**フラツクダツチ**ヲ**フリユ**ニ交配シテ得タル成績ヲ舉ゲ淡青色因子**トダツチ**ノP因子トノ間ノ連鎖關係ヲ説ク

第一四一號 卵子ノ成熟ガ性決定ニ及ボス影響

佛 蘭 西 **バリ**國立農事試驗場畜產部

Ch. Voitellier

一八六〇年**テユリー**氏ノ報告セル卵子ノ成熟ガ性ノ決定ニ及ボス影響ヲ尙組織的ニ確メントシ一

三二年本研究ヲ試ミタリ、本研究ハ或ル刺戟ニヨリ排卵ニ授精無キ場合偽妊娠ヲ誘起シタリト云フ家兔ノ排卵ニ關スル**ケンブリツチ**大學**ハモンド**教授ノ實證ニ基ケルモノナリ

輸精管ヲ摘出シ授精能力ヲ喪失セシメタル雄ヲ交配シタル後稍間隔ヲ置キテ正常ノ雄ヲ配スル時成熟程度ノ稍進ミシ卵子ニ對シテ授精ヲ起サシムルヲ得ベシ、授精能力ナキ雄ヲ配シタル後第一試驗ハ十五分、三、六、九、十二時間ヲ經テ正常雄ヲ交配シテ授精セシメ、第二試驗ハ十五日目ヨリ三日ノ間隔ヲ以テ反復交配シ出生仔兔並死産仔兔ノ雌雄比ヲ觀察セリ、本研究ハ尙相當ノ反復追試ノ要アルヲ以テ斷定的ノ結論ヲ避クルモ大要次ノ如キ結果ヲ得タリ

- (一) 偽妊娠ノ繼續期間ハ從來ノ考察ヨリモ變化多ク十四日乃至一ヶ月以上モ繼續スルコトアリ
- (二) 偽妊娠ノ状態ハ自然的刺戟ヲ與ヘテ後十二時間ニシテ發現ス
- (三) 受胎力ノ減少セル場合ニ仔兔ノ雌雄比ノ變化大ニシテ、又交尾回数ニ對スル産仔回数ト一回産仔數トノ間ニハ正ノ相關々係存在スルモノノ如シ

第一四二號 **アングラ**兔ニ於ケル流産症ニ就テ

伊 太 利

D. Bidone

一九三二—三三年冬季**アレキサンドリヤ**ノ全國養兔協會ニ於テ變敗セル**獐**ヲ給與シタル爲一種ノ流産猛烈ニ蔓延シタルコトアリ、而シテ妊娠中ノ**海狸**ニ右**獐**ヲ給與試驗シテ同様ノ結果ヲ招致セリ



尙本春アニコラ兔ニ如斯モノ多數ニ生ジタルモ、實驗研究ノ結果凡テノ傳染性及非傳染性ノ原因タルベキ點ヲ排除セバ飼料中ノ**ビタミンE**及鹽類ノ缺乏ガソノ誘因ナルモノノ如シ、即チ此ノ如キ家兔ニ春季ニ至リテ**クローバー**、**ヴェツチ**、**キャベツ**等ヲ給與セバ直チニ流産終熄シ爾後此ノ發病ヲ見ズ

本研究ハ猶繼續中ニシテ傳染性ニ關シテハ未ダ不審ノ點アレドモ如斯流産症ハ主トシテ食餌ト密接ナル關係アリト報告ス

第一四三號 紫外線照射飼料ニヨル幼兔ノ血球ノ變化

伊 太 利      **メツシナ**大學畜産學教授

A. Magliano

豫メ紫外光線ヲ照射セル粉粹胡實粕ヲ幼兔ニ給與シソノ血球數ヲ研究セルニ試驗開始後八日ニシテ既ニ赤血球ノ著シキ増加ヲ示シ、第三週ニ至ル迄繼續増加スルヲ見タリ、同時ニ淋巴球鹽基嗜好性多形有核細胞ノ増加及ビ大形單形有核細胞、中性並酸性嗜好性多核細胞ノ減少ヲ認メ得タリ、

第一四四號 アニコラ兔ノ皮毛

獨 逸      **パレエザール**

E. Tänzer

組織學的試驗ニヨレバ剪毛ハ生理的見地ヨリ最モ理想的ナル採毛方法ニシテ機械工業ニモ有利ナルヲ以テ蕃殖家ハ能フル限り換毛ヲ除キ剛毛ヲ減少スベク意ヲ用フベシ

第一四五號 數種ノ鼻加答兒療法ニ就テノ觀察

伊 太 利

C. Ragonieri

種々ノ家兔ノ鼻加答兒療法ノ試驗報告ニシテ之レヲ二ツニ分ツ

(一) 局所療法 藥液ノ滴下、蒸氣療法、洗滌等ハ姑息的手段ナレド、例外トシテ鹽素療法ノミハ重症及ビ慢性ノモノニ對シテハ效果少ナキモ輕症初期ノモノニ適用セバ良結果ヲ得ベシ、又著者ハ偶然ノ發見ニシテ極メテ有效ナル療法トシテ罹病兔ヲ若干ノ木炭末ヲ入レタル箱ニ收容スル方法ヲ紹介ス

(二) 一般療法 鼻加答兒ハ傳染性疾病ナルヲ以テ最モ信賴シ得ルモノハ**ワクチン**療法ナリ、又著者ノ試驗ニヨレバ**ヨードフォルム**〇・〇五%ヲ溶解セル**エーテル**療法ハ一層顯著ナル效果アリタリ

而シテ現在ノ此等諸療法ハ完全ナルモノナラズ、著者ハ鼻加答兒ニ抵抗力アル個體ヲ選擇シ該病ニ對シテ免疫性アル家兔ノ作出ヲ提唱セリ  
此ノ如キ家兔ハ遺傳學及ビ衛生學的法則ニ從ヒテ作出改良サルベキモノニシテ著者モ或程度成功セリト云フ

第一四六號 **ベルギー**ニ於ケル實用養兔獎勵法



白耳義 養兔生産物中央市場長

H. Monier-Tilmann

養兔ハ經濟竝社會的ニ極メテ重要性ヲ有シ現在ノ經濟危機ニ當テ下層階級ニ於ケル利用價值特ニ大ナルヲ以テ白耳義政府ハ之ガ獎勵ヲナシ農林省指導ノ數多ノ組合ヲ組織セシメタリ、之等ノ機關特ニ地方竝政府ノ獎勵施設トシテ最モ效果アリシハ家兔品評會及家兔蕃殖競技會ノ開催ナリ又政府ハ生産者ニ標準荷造見本ヲ配布シテ養兔生産物ノ輸出ヲ獎勵セリ、又宣傳及輸出獎勵ノタメ宣傳印刷物ヲ發行シ外國取引ノ斡旋ヲ爲ス中央市場ニ於テハ既ニ六百萬フランノ毛皮ノ販賣斡旋ヲ爲シ手數料トシテ五%ヲ差引キ殘額ヲ生産者ニ手交セリ

第一四七號 **ベルチアン** 兔ノ體型及種類ノ統一ニ就テ

白耳義 小家畜輸出獎勵局長

H. Monier-Tilmann

**ベルギー**ニ於ケル家兔ノ體型及品種ノ統一ヲ目的トセル諸施設ヲ説明シ、地方蕃殖協會ハ種兔場ヲ設ケ體型及品種ノ特質ノ固定ニカメ、又地方、州及全國競技會ヲ開催シ此ノ成績ニ徴シ**ベルチアン**種ハソノ體型、品種ノ統一性ニ於テ特ニ價值アリトサルルニ至レリト云フ

## 第六回萬國家禽會議







ハ、會議日程……………	一五〇
ニ、會議ノ經過概要……………	一五一
第二、展覽會……………	一五七
第三、會議中及會議後ノ特種催事……………	一五九
附	
第六回萬國家禽會議報文要旨……………	一六一

緒 言

萬國家禽會議ハ萬國家禽學會主唱ノ下ニ開催セラレ、其ノ目的左ノ如シ

(一) 養禽、養兔業ノ進展ニ干與スル各國當事者ノ親睦ヲ圖ル

(二) 斯業ニ關スル最新智識ヲ交換シ、其科學的研究並教育指導、獎勵ノ達成ヲ圖ル

(三) 列國ノ出陳ニヨリ優良品種、器具、器械ヲ紹介シ其普及ヲ期ス

(四) 養禽、養兔生産物ノ交易ノ促進ト調整ヲ圖ル

而シテ本會議ハ三ヶ年毎ニ開催セラルルモノニシテ第六回會議及展覽會ハ獨逸國ノ招聘ニヨリ、一九三六年七月獨逸國ライプツヒ市ニ於テ開催セラレタリ

第一會 議

- (一) 名稱 第六回萬國家禽會議 (6th. World's Poultry Congress)
- (二) 會期 一九三六年自七月二十四日至八月二日ノ十日間
- (三) 會場 獨逸國ライプツヒ市獨逸國立圖書館
- (四) 主催者 萬國家禽學會



獨逸國食糧農業省

(五) 贊同國 四十二ヶ國  
(六) 役員

- 總裁 獨逸國食糧農業大臣 R. Walther Daré
- 副總裁 萬國家禽學會頭、伊太利ボロニヤ大學總長 Alessandro Ghigi
- 事務總長 獨逸國小家畜業者聯盟長 Karl Vetter
- 事務次長 獨逸國小家畜業者聯盟事務長 J. Filler
- 總會委員 獨逸國食糧農業次官 A. Moriz 他一七名
- 幹事長 獨逸國農業省技師 W. Kupsch

右ノ外總務並會計係 K. Beller 外三名、會議學術係 O. Bartsch 外二一名、展覽會係 A. Claus 外一四名、印刷宣傳係 Fr. Brown 他一一名、視察接待係 B. L. Baer 外一七名ヲ舉ゲ事務ヲ分擔遂行セリ

(七) 會議概要

(イ) 會員

贊同四二ヶ國ヨリハ孰レモ公式、非公式ニ政府又ハ各種團體ノ代表員參加シタル外、個人ニテ參加

セルモノ夥シキ數ニ昇リ、參加登錄セルモノノ總數八〇〇名ニ達セリ、參加登錄者ノ多キ主ナル國ハ英國(一四〇名)和蘭(七五名)伊太利(七二名)北米合衆國(六四名)丁抹(五二名)加奈陀(四二名)佛蘭西(三七名)西班牙(三四名)瑞西(三〇名)等ニシテ本邦ヨリ出席セルハ種鶏場技師神尾正夫、九州帝國大學助教佐々木清綱、及ビ萬國家禽學會ノ招聘ニヨル東京帝國大學教授増井清ノ外當時日本雌雄鑑別協會ヨリ派遣セラレ滯歐中ノ初生雌雄鑑別師三名ナリ

(ロ) 各國ヨリ提出ノ報文

贊同國ノ内二四ヶ國ヨリ提出發表セラレタル報文ハ一六〇題ニシテ、左記ノ如ク總會及六部會ニ分タレ、英、獨、佛、伊、西ノ五ヶ國語ニテ逐次日程ノ通り發表討論セラレタリ

- 總會講演 一六種
- 第一部會 總論、教育並制度 二一種
- 第二部會 生理並榮養 四〇種
- 第三部會 孵化育雛、蕃殖並遺傳 二五種
- 第四部會 衛生並疾病 二九種
- 第五部會 經濟問題 二〇種
- 第六部會 養 兔 九種







二、海藻紛末給與ノ鶏卵ノ沃度含量ニ及ボス影響

畜産試験場 芝 田 清 吾

三、家禽ニ於ケル胚子死滅ノ觀察

畜産試験場 角 田 英 二

畜産試験場 村 田 章  
甲 木 茂

四、日本産長尾鶏ト白色レグホーン種ノ雜種ニ關スル血清學的研究

九州帝國大學助教 佐々木 清 綱

五、傳染性咽頭氣管枝炎ノ豫防接種ニ關スルニ、三實驗的知見

獸疫調査所 中 村 哲 哉

(ハ) 會議日程

會議ハ連日午前九時開會セラレ午後一時前後ニ終了セリ、同時ニ萬國家禽學會委員ノ協議會ヲ適宜開催セラレタリ、午後ハ主トシテライプチツヒ市及郊外ニ於ケル養鶏其他一般畜産關係ノ研究、指導獎勵施設ノ視察或ハ名所舊蹟ノ見物、各種ノ歡迎會、懇親會等ニ充テラレタリ  
學術報文ノ發表、討論ハ前述ノ如ク總會及六部會ニ類別セラレ、左記ノ如ク進メラレタリ

七月二十四日 (金) 會員ノ登録、會議及展覽會開會式

二十五日 (土) 總 會

二十六日 (日) 休 會

二十七日 (月) 各部 會

二十八日 (火) 各部 會

二十九日 (水) ベルリン市へ自由旅行

三十日 (木) 總 會

三十一日 (金) 總會、閉會式

(ニ) 會議經過ノ概要

七月二十四日 (金)

一、午前九時ヨリ參加會員ノ登録(前日ニ引續キ)

一、午前十一時、ライプチツヒ音樂堂ニ於テ會議開會式舉行セラレ、全會員參列シ頗ル盛會ニ行ハル

開會式順序

一、オルガン演奏 Günther Ramiu 教授



一、第六回萬國家禽會議事務總長 K. Vetter 氏歡迎ノ辭

一、**ザツクセン**州知事 Martin Mutschman 氏挨拶

一、萬國家禽學會頭 Alessandro Ghigi 教授挨拶

一、獨逸國食糧農業大臣兼農民長 R. W. Daré 氏開會ノ辭

一、國歌合唱

一、午後四時三十分 **ライプツヒ**市見本市會場ニ於テ展覽會開會セラル

開會式順序

一、奏 樂

一、第六回萬國家禽會議事務總長 K. Vetter 氏歡迎ノ辭

一、獨逸國食糧農業大臣兼農民長 R. W. Daré 氏開會ノ辭

一、國歌合唱

開會式終了後展覽會場ヲ巡覽ス

夜ハ**ライプツヒ**市動物園白亞館ニ於テ獨逸國食糧農業大臣ノ招宴アリ

七月二十五日(土)

一、午前九時 見本市第一九號館講堂ニ於テ伊太利**ボロニヤ**大學總長ア・ギギー教授開會ヲ

宣シ、總會開催セラル

佛國**アルフォル**大學シモン教授以下五氏ノ報文説明ト討論アリ

一、午後二時 新市廳舎ニ於テ萬國家禽學會委員會開催セラレ、主トシテ開催中ノ事務的協議ヲ爲セリ

一、午後三時 普佛戰爭捷記念碑參拜、郊外住宅地**モイスドル**ヲ視察

一、午後四時 **ライプツヒ**大學獸醫學部家畜解剖學教室並畜產學教室見學、前者ハ家畜解剖學ノ創設者タル**エレンベルガー**及**バウム**兩氏ノ多年研鑽ヲ積ミシ權威アル教室ニシテ諸設備完ク整備セリ、後者ハ畜產學者トシテ令名アリタル**ブツシユ**教授ノ主宰セシ教室ニシテ曾テ世界的權威者ヲ生ミタル兩教室モ現在ニ於テハ其ノ業績特ニ見ルベキモノナシ

一、午後八時 音樂堂ニ於テ市主催祝賀音樂會

七月二十六日(日)

一、休 會

一、特別催事トシテ有志者ヲ募リ、特別列車ニテ藝術都市**ドレスデン**ニ於ケル國立公園博覽會視察旅行舉行セラル

七月二十七日(月)



一、午前九時 各部會ノ座長其他委員ヲ指名シ、第一——第六部會開催セラレ  
 第三部會ニ於テ九州帝國大學助教授佐々木清綱ハ提出報文「日本産長尾鶏ト白色レグホーン  
 種ノ雜種ニ關スル血清學的研究」ノ説明ヲナセリ

尙第六部會養兔ニ關スルモノハ本日一日ヲ以テ終了セリ

一、午後二時三十分 養鶏ニ關スル指導教育施設トシテ公認セルシユローバツハスホーフ及ク  
 ラインリーベナウ養鶏場ヲ視察ス、前者ハライプチツヒ市ヲ去ル一二軒ノ地點ニ在リ、白  
 色レグホーン及ロードアイランドレッド種ヲ主トシ、北京鶩、鶩、珠鶏、鳩、山羊、緬羊、  
 家兔、蜜蜂等ヲ飼養ス、技術ノ傳習經營ノ指導、各種ノ試験、調査ヲ爲ス外産卵能力檢定ヲ  
 施行ス、特ニ注目ニ値セシハ各種ノ器具、器械其他ノ諸設備ハ極力農家ノ自製、自給ヲ獎勵  
 シ、一見元始的トモ思ハルベキ各種器具類ノ實物見本ヲ製作運轉シテ實見セシメ、農村副業  
 養鶏ニ於ケル生産費節約ヲ高唱セル點ナリ、後者ハ小麥收穫後ノ畑地ヘ移動單鶏舎ヲ搬入シ、  
 落穀粒、雜草、昆蟲等ヲ利用シテ飼料費低減ヲ圖ルノ實狀ヲ示シ、兩者トモ本邦農村養鶏ニ  
 對シ不尠ル參考例ヲ與ヘタリ

一、午後八時 ライチツヒ市主催、會議參加者ニ對スル歡迎宴催サル

七月二十八日(火)

一、午前九時 第一——第六部會

議事進行上各部會トモ報文ノ説明ハ提出者自身ニ限ルコトトセラレ各部會トモ本日ヲ以テ發  
 表、討論終了セリ

第一部會ニ於ケル英國ダブリュー・ケネディ氏ノ報文「初生雛ノ雌雄鑑別法」中、本邦ニ於  
 ケル雌雄鑑別法ヲ論難セル點、世界雌雄鑑別史、及英國ニ於テ略完成セリト稱スル卵ノ雌雄  
 鑑別法等ニ疑義アリタルヲ以テ質疑書ヲ座長ニ提出セリ

一、午後一時三十分 第一九號館ニ於テ東京帝國大學増井教授ハ初生雛ノ雌雄鑑別ニ關スル特  
 別講演ヲ行ヒタリ、先ヅ鑑別法ノ發生學的、組織學的ノ基礎的研究ヲ詳述シ次デ日本ニ於ケ  
 ル之ガ實地應用ノ現況ヲ映寫シタル後日本雌雄鑑別協會ヨリ派遣セラレタル保母、鶴田、堀  
 井ノ三鑑別師ニヨリ鑑別技術ヲ實演セルニ何者モ本邦ニ於ケル雌雄鑑別法ノ透徹セル研究ト  
 學術的基礎トヲ認識スルト共ニ其ノ優秀ナル技術ハ滿場ノ畏敬ト賞讃ヲ博セリ

一、午後三時 新市廳舍會議室ニ於テ萬國家禽學會特別委員會開催セラレ、第七回會議ハ北米  
 合衆國ノ招聘ニ依リ一九三九年同國ニ於テ開催セラルコトニ決定シ、開催地ハ追而公報ス  
 ルコトトセリ、而シテ次回迄ノ萬國家禽學會頭ハ本會議ノ事務總長、獨逸小家畜業者聯盟長  
 カー・ベツター氏ト決定セリ



一、午後八時 アウエンゼーニ於ケル懇親會

七月二十九日(水)

一、休 會

一、特別列車ニテベルリン市へ自由旅行

一、午後一時 ベルリン市ホテル・カイザーホーフニ於テ獨逸國食糧農業大臣ノ列國公式代表員總代ノ招宴アリ

七月三十日(木)

一、午前九時 總會

和蘭エツチ・シー・ベルガー教授外四名ノ報文説明ト討論アリ

一、午後二時三十分 公認ハルレ・ケレルヴィツ養鶏場及ハルレ大學動物園ヲ視察ス、前者ハ規模ハシユローバツハスホーフニ類似シ、繫養動物、事業等モ亦略同様ナルモ、獨逸政府ノ養鶏指導獎勵ハ農村ニ於ケル副業的經營ヲ其目標トナセルヲ以テ當場ニ於テハ農村ニ於ケル技術者ノ養成、農村子弟ノ見習生ノ教育ニ留意シ、短期、長期特別講習等各種ノ練習規程制定セラレ、特ニ農村女子技術者ノ養成ニカメツツアルハ注目スベキ點ナリトス

七月三十一日(金)

一、午前九時 總會

北米合衆國農務省エム・エー・ジャル氏外六名ノ研究發表ト討論アリ

一、午後一時 新ニ萬國家禽學會頭ニ就任シタルカー・ベツター氏ニヨリ閉會ヲ宣セラル

### 第二一展 覽 會

第六回萬國家禽會議ニ附隨シテ會議中、會場ニ隣接セル見本市會場第七、八及九號館ニ於テ家禽、家兎其他ニ關スル展覽會開催セラレ、即主トシテ科學的研究ノ報告、討論ニ終始スル會議ト併行シ、之等科學的研究結果ノ實地應用ノ實況ヲ周知セシメントスルモノニシテ、多種類ニ亘レル動物出陳ハ勿論、指導獎勵、教育上ノ參考資料ノ出陳、當業者ノ利用シ得ベキ實地技術上ノ諸物料事例等ノ出品多ク一般ヲ啓發スル所甚大ナリトス

出陳ハ「獨逸國ノ特別出陳」ノ外「列國出陳」「器具、器械其他商品出陳」及「動物出陳」ノ四部ニ大別セラレ内容頗ル充實セリ、就中「獨逸國ノ特別出陳」ハ獨逸農村ノ現狀ト統制狀況、普通農業、養鶏、養兔ニ關スル國家管理、指導獎勵ノ狀態、衛生竝防疫施設、遺傳ト蕃殖ニ關スル研究ノ實績ト之ガ應用指導ノ實情、飼料ノ生産ト其ノ統制竝飼養法ノ實況、産卵能力檢定、生産供給ノ統制事情、其他養蜂、養蠶等各分野ニ亘リ整然トシテ陳列セラレ、明細ナル解説ト共ニ新興獨逸國ノ農村ノ實況ヲ



窺ハシメテ胎ス所ナク、一般入場者ノ多大ノ興味ト賞讃ヲ博セリ

「列國出陳」ハ英、米、加、佛、伊其他十七ヶ國ノ出陳ニシテ、敦レモ自國ノ最近ニ於ケル養鶏、養兔ノ狀況ヲ紹介スルニカメ、實物、模型、圖表、寫眞、映畫、電力、ラヂオ等ヲ利用シテ其ノ實狀ト特色トヲ巧ニ表現セリ

「器具、器械其他商品出陳」ハ幾多ノ會社、個人ヨリノ出陳ニシテ、養禽、養兔ニ關スル最新ノ器具、器械類、飼料、藥品、生産物、精巧華麗ナル加工品等ヲ宣傳、陳列シテ科學ノ進歩ト技術ノ普及及發達ヲ察知セシメ、一般當業者ヲ實際的ニ裨益スル所頗ル多シト思料セラレタリ

「動物出陳」ハ贊同十六ヶ國ヨリノ出品ニシテ、出陳總數ハ獨逸國ノ出品三、〇〇〇ヲ合シテ一一、〇〇〇ニ達セリ、而シテ出品點數ノ多キハ和蘭ノ二三〇點ヲ最高トシ、丁抹一二一點、ハンガリー一二〇點、伊太利一〇二點等之ニ亞ギ佛蘭西八五點、チエスコロバキヤ七七點、英國五二點、ユーゴースラビヤ五〇點等ナリ

出陳動物ノ種類ハ鶏ヲ主トシ、鳩、兔、鶯、鴛、七面鳥、愛玩種等ニシテ極メテ多種類ヲ網羅出品セラレ、各國ニ於ケル實用種類ノ特徴ト普及分布ノ状態ヲ察知シ得ルト共ニ前回ニ比シ品種改良ノ跡ヲ歴然タラシメタリ

獨逸國ノ特別出陳トシテ産卵競技會開催セラレタリ、産卵能力ノ成績、血統書等ニ就テ見ルニ總體的

ニハ特ニ優秀ナリト認め難ク又曩ノシユローバツハスホーフ及ハルレ・クレルヴィツ兩養鶏試驗場ノ能力檢定成績ヲ見ルモ、本邦養鶏ノ最近ニ於ケル産卵能力増進ノ實績ニ比シ、獨逸國實用鶏種ニハ改良ノ餘地尙多分ニ胎サルルヲ思ハシメタリ

尙家禽會議展覽會ニ於ケル最初ノ試ミトシテ、出陳セラレタル産卵競技鶏及鶏卵、一般出陳動物ハ夫々各部門擔當ノ審査官ニヨリ嚴正ナル審査行ハレ、優秀ナル出品ニ對シテハヒツトラー總統、食糧農業大臣ノ兩名譽賞ヲ始メトシ、諸官衙、團體、知名人士ノ褒賞、賞金等ヲ授與セラレタリ

又七月二十八日ニハ出陳動物ノ競賣行ハレ盛況ヲ呈セリ、其他主トシテ婦人ニ對シ獨逸國毛皮業者協會ニヨリシルバーフォックス、ミンク其他ノ毛皮製品ノ特賣行ハレタリ、同協會ノ目的ハ毛皮獸ノ生産増殖ヲ一獨立企業タラシメントスルニハ非ズシテ、獨逸國全農業經營中ノ副業的一分野タラシメントスルニ在リト云フ

### 第三 會議中並會議後ノ特種催事

一、美術博物館ニ於テ「鳥類ニ關スル古今ノ繪畫、彫刻、圖案、寫眞」展覽會開催セラレ、毎日午前十時ヨリ午後四時迄公開セラレ

一、獨逸國圖書館ニ於テ「獨逸文獻ニ現ハレタル家禽、家兔ニ關スル資料ノ展覽アリ、午前八時ヨリ



午後八時迄公開セラル

一、第一九號館講堂ニ於テ各國文化並教育ニ關スル映畫會催サル

一、七月二十七日 婦人會員ノ爲ハイターブリツクニ設置セラレタル「婦人勞働奉仕所」内國家社會主義婦人聯盟所屬「母ノ學校」視察セラル

一、七月二十八日 獨逸國農村種禽業者組合主催ニテ中央劇場ニ於テ講演會開催セラル

演 題 萬國家禽會議報告ノ當業者ニ齎ス影響

講演者 キール・シュテイーンベツク養鶏試験所長ファンガウフ博士、ザツクセン州農民聯盟家畜

衛生局獸醫ハルトヴツク博士

一、七月三十一日 ライプツヒ市營製乳工場視察、當場ハ近代的ノ諸設備完備シ、日々ノ生乳取扱

數量一五萬リツトルニ及ブ、場長メイン博士ノ「養鶏飼料トシテノ廢乳」ト題スル講演アリ

一、八月一日 第一一回オリンピック競技開會式並祝賀競技見物

一、八月三日 八月十二日迄十日間ニ亘リ獨逸國內視察旅行舉行セラル

以上

### 第六回萬國家禽會議報文目次

#### ◎總 會 報 文

第一號 (和)	家禽傳染病ニ關スル獸醫警察ノ國際運動及法規	H. C. L. E. Berger
第二號 (獨)	養鶏ニ關スル國際辭典	von Burgsdorff
第三號 (獨)	獨逸ニ於ケル家禽及小家畜飼養ノ改革	Karl Vetter
第四號 (米)	蛋白質飼料ノ營養的價值	J. L. st. John
第五號 (英)	家禽ノ營養ニ於ケル灰分ノ効用	J. S. Garner
第六號 (佛)	家禽ノ營養上ヴァイタミンノ重要性	E. T. Hahnau
第七號 (獨)	飼料ノ利用率	H. Simonnet
第八號 (獨)	鶏ノ傳染病ト其ノ防遏	E. Mangold
第九號 (米)	鶏ノ非細菌性傳染病	Miessner
第一〇號 (獨)	食糧統制ニ於ケル家禽疾病ノ意義	R. Berge
第一一號 (獨)	家兔ニ於ケル遺傳性疾患ト人類ニ於ケル類似病トノ比較	J. R. Beach
		Karl Beller
		H. Nachtsheim



- 第一二號 (伊) 生態學的條件ノ伊太利式家禽飼養法ニ及ボセル影響 A. Vecchi
- 第一三號 (米) 多産鶏ノ作出ト蕃殖法總説 M. A. Jull
- 第一四號 (米) 人工孵化進展上ノ重要事項 A. L. Romanoff
- 第一五號 (加) 人工照明ノ鳥類蕃殖力ニ及ボス影響 W. M. Rowan
- 第一六號 (英) 家兔ノ妊娠 J. Hammond

◎第一部會 總論、教育及組織

- 第一號 (伊) 原產地々方ニ於ケル農村養鶏トシテノ白色レゲホー  
ン種 E. Bassi
- 第二號 (西) 種禽業者聯合協會——國際種禽業者聯盟 R. R. Chico
- 第三號 (勃) 勃牙利ノ養鶏 G. S. Chlebarov
- 第四號 (獨) 包裝法ノ相違ニヨル卵質ノ損傷、洗滌ノ保存上ノ効果 B. Grozimek
- 第五號 (チエコスロバキヤ) チエコスロバキヤニ於ケル養鶏組織 G. M. B. Aut. Hruza
- 第六號 (獨) 養鶏専門技術者ノ養成 J. Jaeger
- 第七號 (獨) 養鶏顧問組織 Kamseder
- 第八號 (英) 初生雛ノ雌雄鑑別 W. Kennedy

第九號 (丁) 丁抹ニ於ケル養鶏業ノ發達

W. A. Kock

第一〇條 (瑞) 瑞西ニ於ケル養鶏獎勵方策

Hs. Küderli

第一一號 (丁) Faurholm 國立農場ニ於ケル産卵能力檢定成績ニ據

J. Lövendahl

第一二號 (奥) 農林作物ノ害蟲驅除ニ應用セル養鶏

H. Lukács

第一三號 (英) 産卵能力檢定

Jan. Macdougall

第一四號 (ルーマニヤ) ルーマニヤニ於ケル養鶏業ノ機構

D. Rusu

第一五號 (日) カーカー・キャンベル鶯ニ關スル研究

芝田清吾

第一六號 (英) 英國ニ於ケル鶏卵ノ販賣狀態

S. Street-porter

第一七號 (獨) 農村ニ於ケル婦人養鶏

V. Trenenfels

第一八號 (ユゴスラビヤ) 實際的經驗ニ基クユゴスラビヤニ於ケル家禽蕃

殖ニ就キテノ觀察

M. Veslaj

第一九號 (佛) 農業者ニ依ル養鶏ノ正常化並合理化

Ch. Voitelier

第二〇號 (獨) 獨逸ニ於ケル養鶏指導方針ト其ノ効果

F. Weiss

第二一號 (ユゴスラビヤ) ユーゴスラビヤニ於ケルシュタイエラー鶏蕃殖改



◎第二部會 生理並營養

- 第一號 (丁) 産卵鶏ニ必要ナル飼料並蛋白質ニ關スル丁抹ニ於ケル研究トソノ實際的應用  
J. Baellum
- 第二號 (伊) 人類營養上ニ於ケル家禽、家兎生産物ノ生理的利用價值  
S. Baglioni
- 第三號 (加) 家禽ニ對スルビタミンA、D給源トシテノ鮮油  
J. Biely 其ノ他
- 第四號 (オホキョク) ヲイタミン含量ニ伴フ卵黄色素ノ實際的變化  
Fr. Bilek
- 第五號 (白) 飼料以外ノ物質攝取ニ對スル本能ノ影響  
Ph. V. de Bocarné
- 第六號 (米) 雛ノビタミンD及蛋白質給源トシテケンタツキープルーグラス  
G. D. Buckner 其ノ他
- 第七號 (獨) 養鶏ニ於ケルバラストノ問題  
Bünker
- 第八號 (和) 鶏ノ佝僂病ノ防止ニ就テ  
M. J. L. Dols
- 第九號 (瑞) 鶏ニ於ケル諸種飼料ノ利用ト産卵能力  
H. Eugler
- 第一〇號 (獨) 飼料トシテノ新鮮廢乳  
Faugauf

- 第一一號 (獨) 鶏ノ蕃殖並飼養上ノ心理學的問題  
W. Fischel
- 第一二號 (米) 卵内溫度ノ變化ニ影響ヲ及ボス諸因子  
E. M. Funk
- 第一三號 (英) 鶏ノ換羽ノ生理  
A. W. Greenwood
- 第一四號 (波) 腦下垂體前葉浸出物ノ産卵鶏ニ及ボス作用ニ關スル研究  
M. S. Gutowska
- 第一五號 (波) ヒスタミン影響ニ因ル鶏胃液ノ分泌  
B. Gutowski
- 第一六號 (米) 産卵鶏ノ蛋白質所要量  
G. F. Heuser
- 第一七號 (塊) 雛及産卵鶏ノ飼料ノ自由選食ニ關スル實驗  
O. Hübner & W. Liebscher
- 第一八號 (獨) 産卵鶏粒餌トシテノ小麥、燕麥、大麥、ライ麥ノ比較  
J. Jaeger
- 第一九號 (米) 卵白ノ性質  
J. L. st John
- 第二〇號 (獨) 産卵鶏並種鶏ノ綠餌及其ノ代用物  
H. Laug
- 第二一號 (英) 鶏卵ノ品質ニ關スル研究  
A. J. Macdonald
- 第二二號 (加) 肥育飼料中ノ粒飼ト其ノ屠肉品質ニ及ボス影響  
W. A. Maw 其ノ他
- 第二三號 (ニヤ) 各鶏種ニ對スル玉蜀黍ノ營養價值  
G. Nichita 其ノ他
- 第二四號 (ニヤ) 種々ノ鶏種ノビタミンB 缺亡症ニ關スル研究  
G. Nichita 其ノ他



- 第二五號 (瑞) 鶏卵ノ物理學並生理的性質ニ關スル研究  
Nils. Olsson
- 第二六號 (ロネキヤ) 産卵鶏ノ産卵期間並生涯ニ於ケル卵白、卵黄、卵殻ノ化學的組成ノ變化  
Jan. Podhradsky
- 第二七號 (伊) 鶏卵ノ貯藏中ニ於ケル卵黄、卵白ノ水素イオン濃度並氷點ノ變化  
O. Polimanti
- 第二八號 (波) 鶏ノ甲狀腺ト副甲狀腺トノ拮抗現象  
R. Prawocheuski
- 第二九號 (獨) 若鶩ノ科學的肥育  
K. Richter
- 第三〇號 (奥) ステイリヤニ於ケル食鶏ノ生産特ニ其ノ肥育期間、飼料消費量ト利用價值ニ就テ  
R. Schmidt
- 第三一號 (米) 肉粉ノ遊離脂肪酸形成ニ影響アル種々ノ條件  
Carl H. Schroeder 其ノ他
- 第三二號 (米) 産卵鶏ニ對スル **ヴィタミンA**ノ所要量  
R. M. Scherwood  
G. S. Frops
- 第三三號 (獨) 養鶏飼料トシテノ馬鈴薯  
Stahl
- 第三四號 (日) 海草粉末給與ノ鶏卵ノ沃度含有量ニ及ボス影響  
角 田 英 二 外
- 第三五號 (ワルガ) 放飼鶏ニ對スル動植兩蛋白質飼糧比較試験  
Ivan J. Tabakoff
- 第三六號 (和) 雛ノ成育ニ及ボス紫外線ノ影響  
J. C. Talker

- 第三七號 (伊) 雛ニ於ケル纖維消化ニ及ボス蛋白質ノ影響ニ就テ  
Filippo Uselli
- 第三八號 (伊) 沃度含有卵ノ生産ト其ノ小兒科的應用  
Vittorino Vezzani
- 第三九號 (獨) 草地ノ養鶏飼料の價值ニ關スル研究  
Lothar Weimiller
- 第四〇號 (汾) 鶏ノ榮養分ノ性徴  
Georg v. Wendt

◎第三部會 孵化、育雛、蕃殖、遺傳

- 第一號 (瑞典) 鶏卵ノ型ニ關スル研究  
Joel Axelsson
- 第二號 (和) 品種ナル言葉ト其ノ蕃殖上ノ意義  
D. L. Bakker
- 第三號 (獨) 獨逸ニ於ケル家禽血統登錄ト其ノ目的  
Brandt
- 第四號 (佛) 遺傳ト性ホルモン  
F. Caridroit
- 第五號 (ルマニヤ) 鶏ニ於ケル色調ノ不整ノ遺傳ニ關スル研究  
G. K. Constantinescu
- 第六號 (獨) 胚雛發達ノ初期ト其ノ重要性並透視法  
Ludwig Gräper
- 第七號 (伊) 尾氈腺ト成長トノ關係ニ就キテノ實驗的研究  
Celso Guareschi
- 第八號 (和) オートセツクシング・バーネフェルダー及オートセツクシング・レグホーンノ二新種  
A. L. Hagedoorn
- 第九號 (米) ロードアイラントレット種ニ於ケル性熟ノ遺傳  
F. A. Hays



- 第一〇號 (獨) 鶏ノ成長ニ於ケル遺傳的要素  
Paula Hertwig
- 第一一號 (波) 鶏ノ大サノ相異ノ起源  
Laura Kaufman
- 第一二號 (獨) 系統表  
H. F. Krallinger
- 第一三號 (獨) 成長及體力ニ對スルホルモンノ所要量  
Otto Kuhn
- 第一四號 (獨) 呈色反應ニヨル雛ノ雌雄鑑別  
Walter Kupsch
- 第一五號 (伊) 羽毛ノ着色ト色相ニ關スル研究  
Giuseppe Montalenti
- 第一六號 (日) 家禽ニ於ケル胚子死滅ノ觀察  
甲村 木田 茂章
- 第一七號 (米) 濕度ト七面鳥胚子ノ發育トノ關係  
F. E. Muschl
- 第一八號 (英) 自家伴性ノ理論ト實際  
C. W. Ackerson
- 第一九號 (米) 細菌ノ感染ニ對スル抵抗力ノ遺傳—白痢病ノ遺傳學的  
Michael Pease
- 第二〇號 (日) 日本産長尾鶏ト白色レグホーン種ノ雜種ニ關  
スル血清學的研究  
E. Roberts  
L. E. Card
- 第二一號 (加) 若干ノ飼料ニ就キテノ孵化試驗  
佐々木 清 綱
- 第二二號 (伊) 鶏及家鳩ノ發育中ニ於ケル過酸化酵素トヘモグロビ  
ンノ形成  
J. B. Smith  
H. D. Branion

ンノ形成

- 第二三號 (伊) 家禽ノ改良蕃殖ニ及ボス血縁ノ影響ニ關スル觀察  
Aldo Spirito
- 第二四號 (佛) 如何ニシテ卵ノ孵化率ガ左右セララルヤ  
Anita Vecchi
- 第二五號 (米) 白良レグホーン種ノ近親蕃殖  
Ch. Voitellier

◎第四部會 衛生並疾病

- 第一號 (土) 土耳其ニ於ケル家禽腸炎ノ發生  
N. F. Waters & W. V. Lambert
- 第二號 (佛) 傳染病傳播ニ對スル一防遏策トシテノ一羽飼法  
Sureyya Aygün
- 第三號 (奧) 奧太利ニ於ケル家禽痲痺ノ發生ト其ノ病理學的研究  
Baratte
- 第四號 (米) 傳染性震顫症(雛ノ震顫性疾病)  
R. Baumann
- 第五號 (米) 標準試驗管法ニ依ル白痢検査終了雛ノ生存成績  
C. A. Bortoff 外七氏
- 第六號 (英) 鶏痲痺 (Lymphomatosis) ノ觀察  
J. T. Buriss
- 第七號 (獨) マレツク氏鶏痲痺 (Neurolymphomatosis)  
E. W. Roberts
- 第八號 (獨) 鶏痲痺防遏法ニ關スル知見  
T. Dalling 外
- 第九號 (白) 養鶏業ニ重大性ヲ有スル鶏痲痺ト淋巴系統疾患  
J. Dobberstein
- 第一〇號 (亞) 鶏ニ於ケル傳染性舌病ノアルギロール療法  
Karl Frilzsche



- 第一一號 (ロヒモス) 家禽結核ト其ノ豫防法竝家禽ト鳩ノ B. C. G. 牛結核 (ワクチン) ニヨル免疫試験 R. Harnach
- 第一二號 (獨) 鶏ノ疾病防遏上養鶏場ニ對スル獸醫衛生取締ノ重要性 H. Hartwigk
- 第一三號 (和) 和蘭ニ於ケル鶏ノ疾病防遏ニ關スル觀察 Te. Hennepe
- 第一四號 (獨) 家禽及家禽生産物ガ原因トナル食料品中ノ有害細菌 Lerche
- 第一五號 (佛) 鳩ノバラチブス G. Lesbouyries
- 第一六號 (英) 鶏ノ疾病ニ關スル研究ノ進歩 C. A. Mc Gaughey
- 第一七號 (洪) 鶏コレラニ關スル新知見 R. Manning
- 第一八號 (西) ヴイタミン類ノ缺乏ト傳染病——兩症候ヲ現セル鶯ノ疾病 C. Arroyo Martin
- 第一九號 (西) 西班牙ニ於ケル家禽ノ傳染性菌頭氣管支炎 C. Arroyo Martin
- 第二〇號 (加) 雛ニ於ケル脚麻痺ノ研究 Helen I. Milne
- 第二一號 (日) 傳染性咽頭氣管支炎ノ豫防接種ニ關スル二、三實驗的知見 中村哲哉

- 第二二號 (伊) 鶏ノ疾病治療竝豫防上又ハ農作物ノ害蟲驅除ニ使用セラルル藥品ノ鶏ニ及ボス影響 Andrea Secacini
  - 第二三號 (獨) 家禽ノ傳染性腸炎 (バラチブス) J. Schaaf
  - 第二四號 (獨) 家禽麻痺竝榮養障害 Oskar Seifried
  - 第二五號 (土) 家禽ノ出血性盲腸炎ノ原因トナル吸蟲類ニ就キテ C. Sprehu
  - 第二六號 (ニヤ) 結核ト併發スル Bacillaemia (細菌性敗血症) ノ重大性 C. V. Tomescu
  - 第二七號 (伊) ロムバルデイニ於ケル家禽結核ニ就テ Gino Vianello
  - 第二八號 (獨) 獨逸ニ於テ發見サレタル家禽絛蟲ノ中間宿主ノ研究 R. Welzel
  - 第二九號 (ニヤ) Pasteurella avicida ノ培養型ノ免疫原的價值 Wynoh radnyk
- ◎第五部會 經濟問題
- 第一號 (伊) 鶏卵ノ新鮮度識別法ニ關スル研究 Paola Braccini
  - 第二號 (西) 養鶏經營ニ對スル巨額投資ノ財政的陷穽 Salvador Castello
  - 第三號 (獨) 世界各國ノ鶏卵肉消費狀況ニ就キテ Haus v. d. Decken
  - 第四號 (英) 英國ニ於ケル採卵採肉養鶏ノ經濟問題 F. S. Dennis



- 第五號 (諾) 諾威市販鶏卵ノ格付標準トシテノ卵黃氣室ノ狀態 Five
- 第六號 (伊) 白色レゲホーン種ノ屠體量ニ關スル觀察 Giuseppe Giusti
- 第七號 (獨) 獨逸ニ於ケル鶏卵監査制度 B. Grzimek
- 第八號 (瑞典) 採卵養鶏上鶏卵ノ生産並賣行ノ變動低減ノ可能性 Einer Haeggblom
- 第九號 (獨) 國際貿易協定ト養鶏業 W. von Hasselbach
- 第一〇號 (米) 屠鶏ノ塗蠟拔羽法 Thos W. Heitz
- 第一一號 (チエコスロバキヤ) チエコスロバキヤニ於ケル市販鶏卵ノ外觀ト内容トノ關係 Jaroslav Krizenecky

- 第一二號 (白) 白耳義ニ於ケル鶏卵ノ生産、貿易並消費 Felicien Mannes
- 第一三號 (チエコス) 國家經濟ニ於ケル養鶏生産物消費ノ重要性 Anna Mrskosová
- 第一四號 (加) 卵黃及卵白ノ二、三測定値ト新鮮卵並貯藏卵トノ關係 S. S. Munro
- 第一五號 (獨) 鶏卵ノ生産獎勵ト消費宣傳 Fritz pfenning's forff
- 第一六號 (獨) 國際養鶏統計ニ關スル問題 Theodor Schulz
- 第一七號 (諾) 諾威ニ於ケル鶏卵ノ生産並其ノ配給調整 Leif Svendsen
- 第一八號 (スラビヤ) 科學的研究ノ結果ニ基クユーゴスラビヤニ於ケル Sava Uimonosky

各鶏種ノ比較

- 第一九號 (伊) 鶏卵ノ新古鑑別トウツド氏ランブ Vitorino Vezzani
- 第二〇號 (獨) 農村養鶏ノ經濟問題 J. Weiss

◎第六部會 養 兎

- 第一號 (米) 家兎ニ於ケル血液型ト其ノ遺傳 Clyde E. Keeler
- 第二號 (伊) ヴイタミンEノ家兎ノ蕃殖力ニ及ボス影響 F. Maiocco
- 第三號 (西) 西班牙ニ於ケル養兎組合 E. A. Martin
- 第四號 (ルーマニヤ) ルーマニヤニ於ケル養兎ノ現状 A. Mauch
- 第五號 (英) 英國ニ於ケル養兎 J. N. Pickard
- 第六號 (獨) 獨逸ニ於ケルアンゴラ兎ノ能力試験 K. Richter
- 第七號 (獨) 家兎一萬頭ノ剖檢結果ノ統計學的研究特ニ雌兎二千百頭ニ就テノ結果 Seidel
- 第八號 (獨) 家兎ニ於ケル特種疾病ノ病理學的研究 Oskar Seifried
- 第九號 (英) レツキス兎ノ蕃殖試験 W. K. Wilson



## 一、總會報文

第一號 家禽傳染病ニ關スル獸醫警察ノ國際運動及法規

和 蘭 在巴里、國際傳染病協會委員長

H. C. L. E. Berger

家禽傳染病ノ防遏ニ關スル國際間ノ協力運動ハ國際家畜傳染病協會 "Office International des Epizooties" ノ設置以來著シク進展セリ、而シテ本協會ハ養禽業ニ關スル各國ノ國內機關及國際機關トノ協調連繫ヲ希望スルモノナルモ現今ニ於テハ歐洲以外ノ諸國トハ連絡上遺憾ノ點アリ  
各國ノ家禽傳染病防遏施設ニ關シ調査セルニ二十八ヶ國中二十二ヶ國ハ獸醫警察機關ヲ以テ防疫ニ當リ、他ノ六ヶ國ニハ特ニ斯ル機關ナキモ孰レモ獸疫研究所或ハ試驗所ノ設置、家禽傳染病ニ關スル法規ノ設定其他衛生知識ノ普及向上ニ努メ家禽コレラ、ペスト等傳染病ノ防遏ニ努メツツアリ  
又傳染病ニ關シ殆ド總テノ國ニ於テハ家禽輸入ニ法律的制限ヲ設クルモ輸出ニ關シテハ制限ヲ設ケタルモノハ少ナク數ヶ國ニ於テ相互協定ヲ結ベルモノアリ

第二號 養鶏ニ關スル國際辭典

獨 逸

von Burgsdorf

第五回萬國家禽會議ハ第四分科會ノ提案ニヨリ養鶏ニ關スル用語ノ國際辭典ヲ作成スベキコトヲ決

議セリ、之ハ通常ノ辭典ニ見出し得ザル養鶏ニ關スル特殊用語ノ夥シキ數ヲ算スル結果右ノ如キ辭典ヲ要求スルニ至リタルモノナリ、此豫備勞作トシテ、關係用語七四五個ヲ蒐集セリ、各國別譯語ノ完璧ヲ期センガ爲ニハ自國語ニ翻譯センコトヲ希望スル國ハ各々特ニ補助者トシテ専門家ヲ任命サレンコトヲ余ハ本會議ニ要請シ一般ヨリノ關係資料ノ供給ヲ希望ス

第三號 獨逸ニ於ケル家禽及小家畜飼養ノ改革

獨 逸 食糧局検査官

Karl Vetter

現在ノ國家社會主義政府成立ノ以前ニ於ル本國ノ小家畜(家禽、緬羊、豚)ノ飼養狀況ハ無秩序ニシテ各種ノ協會、組合及生産者ノ地方團體等亂立抗爭シ夫々私利ニ因ハレ小家畜飼養ノ國家經濟上竝國民生活ニ對スル重大性ヲ没却シ居タリ

右ノ状態ハ一九三二年以降地方的ニ且強制的ニ改革セラレ、現在ニ於テハ總テノ小家畜飼養者ハ獨逸小家畜飼養者組合メンバータリ、右ノ組合ハ産業養鶏、出品鶏、傳書鳩、山羊、蜜蜂、家兔、毛皮獸、養蠶ノ八部門ヨリ構成セラレ、縣別ニ同様部門ヨリ構成セラル、二十ノ支部ヲ設ク縣支部組合ハ更ニ郡別ニ分タレ孰レモ亦八部門ヨリ成ル郡支部組合ヘ各地方團體ヲ以テ構成セラレ此ノ地方團體中ニ各地方小家畜飼養者加入スルモノニシテ其ノ事業等ニ關シテハ何等ノ拘束ヲ受クルコトナキモ只獨逸政府ノ一貫セル方針ニ從フモノトス

右ノ組織ガ過去三年間極メテ好成绩ヲ收メ得タルハ役員組合員ノ努力及科學的竝實際的専門家、指



導員ノ盡力ニ負フコト多ク組合員數ハ逐年増加シツツアリ  
本政策ノ目的トスルトコロハ獨逸ノ食糧供給力ヲヨリ鞏固ナル基礎ノ上ニ置キ食糧供給ノ點ニ於テ  
經濟的ニ獨立セントスルニ在リ

第四號 蛋白質飼料ノ榮養的價値

北米合衆國 ワシントン農事試驗場化學及家禽部

J. L. St. John  
J. S. Carver

鶏ニ於ケル蛋白質供給量ノ最少量、適量及其ノ給源ヲ研究セルモノ頗ル多キモ試驗方法ノ異ルニ從  
ヒ結果ニモ亦差異アリ斯ル差異ヲ生ズベキ原因ヲ探究シ又其ノ標準ヲ確定スルノ要アリトシ、供試  
鶏ノ種類、年齢、體重等ノ各種條件ヲ參酌シ蛋白質ノ適量及各成分ノ基礎割合ノ決定、試驗結果ノ  
差異ノ解明カルシウム、燐、ビタミン A. D. G. ノ標準量等ニ就テ爲スベキナリト論ズ

第五號 家禽ノ榮養ニ於ル灰分ノ效用

英國 劍橋大學農學部

E. T. Hahn

雛ノ成長期ニ於ケル體成分ヲ調査セルニ孵化後數週間ハ礦物質著シク増大シ其ノ後ハ漸次緩カナル増  
加ヲ示セリ、灰分ノ體內貯藏ハ第七週迄ハ其ノ蓄積率低ク其後二十四週乃至二十八週迄ハ其ノ率大  
ナリ、即チ灰分所要量ハ第八週以後増大スト言フベシ

一般慣用飼料ノ灰分ノ成分ヲ考究スルニ植物質飼料ニ於テハ鹽素及ナトリウム缺乏シ尙苴科植物

以外ニ於テハカルシウムモ亦不足シ、動物質飼料ヲ添加シテ補充スベキナリ

成長中ノ灰分所要量—ナトリウム鹽或ハカルシウムノ添加ハ雛ノ成長上有效ニシテ畸形及尙  
病ハ特ニ燐トカルシウムトノ比率宜シカラザルニ起因ス、畸形ハ全ク灰分特ニ燐ノ過多ニ因ルモ  
ノニシテ孵化後八週間以内ノ幼雛ニ對シテハ骨粉、燐酸カルシウムノ給與ハ却テ宜シカラズ、尙  
儂病ハカルシウムノ不足、有效燐酸又ハビタミン D ノ缺乏ニ因ルモカルシウムト燐トノ標準比  
ナルモノハ一律ニ定メ難シ

卵生産ニ要スル灰分—鶏卵、若雌ノ體及飼料ノ灰分組成ニ關スル研究ノ結果鶏卵形成上灰分ノ利  
用率ヲ決定スベキハカルシウム、ナトリウム及鹽素ニシテ又カルシウム鹽及ナトリウム鹽ノ  
給與ハ産卵ヲ増進スルコト明トナレリ、骨粉中ノカルシウムノ産卵ニ利用セラルル割合ハ極メテ  
僅少ナリ

石片—不溶性礦物質ノミガ石片トシテ利用セラルト云フ Mangold ノ説ハ異論ナク、石片ハ必ズ  
シモ必要ニハ非ザルモ之ガ給與ハ飼料ノ利用上及消化器官ノ保健上有效ナリ

第六號 家禽ノ榮養上ビタミンノ重要性

佛蘭西 アルホール官立獸醫科大學

H. Simonnet

鶏ハ普通成分ノ混合飼料ヲ攝取スル時大體ニ於テ必要ナルビタミンハ補給セラルヲ以テ飼料中ニ



特ニ**ビタミン**ヲ添加スルモ成長ノ促進或ハ産卵率ノ増進ヲ示スコトナシ、然レドモ成長期及産卵期ニ於テハ**ビタミン**ノ必要量ハ特ニ大ナルコトト鶏ノ種類ニヨリ**ビタミン**缺乏ニ對スル感受性ニ差異アルコトニ留意スルヲ要ス

飼料ノ調理方法ハ其消化率及蛋白質ノ價值ニ影響スルノミナラズ屢々其ノ**ビタミン**含有量ニモ影響ヲ及ボス事ハ魚粉ニ其ノ適例アリ

**ビタミン**ノ缺乏ハ諸組織、器官及機能ニ障礙ヲ來シ特ニ成長及産卵ニ關スル器官ニ變調ヲ齎ラス、又生理上、榮養上ノ缺陷、毒素、傳染病及寄生蟲等ノ影響ハ潜伏性**ビタミン**缺乏症 (Mouriquandsノ所謂不可視ナル榮養不良)ノ誘因トナル

要之**ビタミン**ノ問題ハ家禽飼養上ノ重要事項ニシテ榮養上各飼料間ノ關係及均衡等ヲ充分ニ考慮スベキモノトス

第七號 飼料ノ利用率

獨逸 伯林大學飼料研究所長

Ernst Mangold

飼料利用ノ生理的原理ハ飼料ノ榮養率、可消化率並消化吸収セラレタル飼料ノ動物體內ニ於ル蓄積及生産ノ新陳代謝機轉ニ在リ、飼料消化率ハ飼料ノ生理的特性並鶏自體ニヨリ差異アルモノニシテ鶏ノ種類ニヨリ差異アリヤ否ヤハ目下ノ處決定致シ難シ、消化試験ニ當リテハ豫備飼育期間及試験

期間ノ長サハ重要事項ニシテ又各種飼料ハ產地ニヨリ消化率ニ著シキ差異アル事ヲ留意スベシ、粗飼料ニ依ル榮養率或ハ利用表ノ算出ハ可消化飼料ニ依ルヨリモ正確ナル事多シ、之後者ハ種々ノ原因ニヨリ變差生ズル事アレバナリ

第八號 鶏ノ傳染病ト其ノ防遏

獨逸 ハンノーバー獸醫科大學衛生科

Dr. Miessner  
Dr. R. Berge

- (一) 家禽**コレラ**ハ積極的及消極的免疫法ニヨリ容易ニ驅逐シ得、鶏輸入ノ減少ハ獨逸ニ於ケル本疾病ノ被害ヲ著シク減少セシメタリ
- (二) 家禽結核ノ撲滅ハ利用年齢ノ縮限(二歳更新)産卵巢ノ統制、馱鶏ノ淘汰、及衛生思想ノ普及ニヨリテ成功セリ、當業者ニ對シ衛生知識ヲ普及セシムルハ傳染病驅除ノ最良法ナリ
- (三) 鶏痘ハ他ノ衛生施設ト相俟チ**ワクチン**ノ豫防接種最モ效果アリ、若鶏ハ三ヶ月内外ニ施行スルヲ可トス
- (四) 傳染性咽喉氣管支炎 (Laryngo-trachetis) ハ當國ニハ著シキ發生ナキモ養鶏ノ普及ニ伴ヒ之ガ發生蔓延ノ惧アリ、**ワクチン**接種ハ最良法ノ如シ
- (五) 傳染性加答兒ノ原因ハ未ダ鮮明ナラズ、鶏舎ノ清潔、換氣ニ留意シ、強健ナル雛ノ育成ヲ最良豫防法トス



(六) 白痢病ハ政府ノ補助ヲ受ケ種禽業者團體ノ勵行スル血液検査及豫防衛生施設ニヨリ防遏ノ效果ヲ擧ゲツツアリ又抵抗力強キ品種ヲ生産スルコトニ特ニ留意スルノ要アリ

(七) **ロイコーシス** (Leucosis) ハ瘤腫 (Tumours) ト併發スルモノト認メラル、而シテ白血球増殖ノ際生産セララル酵素様物質ガ媒介原ナリト思料セララル

(八) 家禽痲痺ハ最近**ロイコーシス**ニ原因スルモノト見做サレタリ、淋巴細胞組織ノ刺戟ニヨリ淋巴球ノ神経内浸入ニ起因スルモノト認メララル

第九號 鶏ノ非細菌性傳染病

北米合衆國 カリホルニヤ大學獸醫科

J. R. Beach

家禽**ペスト**、**ペスト**類似病、白血球包容體ヲ特徴トスル傳染性震顫、鶏痘、傳染性咽喉炎及傳染性氣管支炎等非細菌性傳染病ノ特徴竝各國ニ於ケル發生狀況ノ比較研究ヲ論述セリ

第十號 食糧統制ニ於ケル家禽疾病ノ意義

獨逸 伯林

Karl Beller

鳥類ト哺乳類トニハ系統發生學的相異アリテ鳥類疾病ハ家畜竝人類ノ疾病ト全ク關係ナキコトヲ主張セリ、只唯一ノ例外ハ水禽ノ**バラチプス** (腸加答兒) ニシテ本病ニ犯サレタル鶯ノ卵ヲ食スルコトニヨリ罹病家禽ノ肉ヲ食スル場合ト同様人間ニ對シ有害ナル影響ヲ齎ラスモノナリ、又鳥卵生産

ニ當リ家禽結核ノ人類傳播ヲ防止スベキ施設ヲナスハ頗ル肝要ニシテ獸醫學ヲ應用シ食料品ヲ統制シテ人類健康ノ保持ニ努ムルハ生産者竝消費者ノ双方ヲ利スル所大ナリ

第一一號 家兔ニ於ケル遺傳性疾患ト人類ニ於ケル類似病トノ比較

獨逸

伯林大學遺傳蕃殖學研究所

Haus Nachtsheim

突然變異ニヨリテ發現スル家兔ノ遺傳性疾患ニ關スル研究總說ナリ、神経系遺傳的疾患トシテハ大腦ノ腦幹神經節ノ頽敗ニ因ル所ノ痲痺性震顫及脊椎神經系ノ發達不良ニ因ル癱瘓性脊椎痲痺等ハ劣性ナリ、成熟期ニ至リテ發現シ脊椎中ニ罅裂形成スルヲ特徴トスル脊椎空洞症 (Syringo-Myelia) ノ遺傳様式ハ頗ル複雑ナリ

皮膚ノ極度ノ角化ト鱗屑形成ニヨリ被毛ノ發生ヲ阻止スル角化症 (Keratosi) ハ劣性遺傳ヲナス眼瞼浮腫及白內障ハ遺傳性眼疫ノ例ニシテ何レモ劣性ナリ、又齒數ニ過不足生ズルコト、突顎其他遺傳性ノ齒疫患ニツキテ詳述セリ

第一二號 生態學的條件ノ伊太利式家禽飼養法ニ及ボセル影響

伊太利 ボロニヤ大學動物科

Anita Vecchi

伊太利ハ地方ニヨリ生態學的ニ著シキ相異アリテ養鶏業ニ對シテ相當ノ影響ヲ與フ、即チ産卵ハ北部ニ於テハ三月ヨリ四月ニ亘リテ最高ニ達シ南部ニ在リテハ十一月ヨリ一月ニ亘リテ最高ヲ示スガ



如キ其一例ナリ

夏季ノ數ヶ月ニ就テ見レバ北部地方ハ南部地方ニ比シ適度ノ降雨アル點ニ於テ惠マレタリ、又南部地方ハ飼料ニ關シ經濟的ニ不利ナルニ對シ北部地方ハ不順ナル氣候ニ適應スベキ施設ニ對シ相當ノ經費ヲ要ス

之等ノ事項ハ一九三四——三五年ノ產卵競技會ノ結果ニ徴スルモ明ナリ、如斯熊學の條件ノ著シキ相異ハ夫々地方の適性ヲ持テル生理的形質ノ異ナレル種類及系統ノ普及發達ヲ促進セリ

第一三號 多產鶏ノ作出ト蕃殖法總說

北米合衆國 農務省畜產局養鶏技師

M. A. Jull

產卵能力ノ向上ハ一種禽選擇ノ適正ニ據ルモノナルモ一般ニ個體產卵記錄ノミヲ過重視スル傾向アリ爲ニ一群ノ能力向進上著効ヲ見ルコト少ナシ、品種改良ノ實効ヲ促進センニハ系統特ニ後裔調査ニ一層留意スルノ要アリ

第一四號 人工孵化進展上ノ重要事項

北米合衆國 コーネル大學家禽科助教

A. L. Romanoff

最近ニ於ケル鳥卵人工孵化術ノ進歩ハ幾多科學者ノ思索研究ノ結果ニシテ單ニ養鶏ノ分野ノミナラズ生物學、藥物學等各方面ノ科學者ノ研究業績ノ綜合セラレシモノナリ

鳥類胚子ノ發育ニ關シテハ遠ク紀元前五世紀ニ於テ Hippocrates 觀察ヲ行ヘルモ發生學ニ關スル科學的研究ノ行ハレタルハソレヨリ二千年以上後ノコトナリ

一七四九年佛人 Reaumur ハ發時ノ發生學上ノ知見ヲ人工孵化ニ應用シテ成功セルコトヲ發表セリ、更ニ Spallanzani (一八〇三)ノ鳥卵ノ呼吸ニ關スル研究、Darsté (一八五二——九五)及 Féré (一八九〇——九九)ノ胚子ノ内外環境ニ對スル感受性ニ關スル研究其他多數ノ學者ノ生物學各部面ヨリノ研究ニヨリ鳥類實驗發生學ハ著シク開拓セラレタリ

斯クテ孵卵中ノ鳥類胚子ノ發育ニ影響スル生理學的環境ノ要素トシテハ溫度、濕度、空氣ノ成分、換氣、氣壓、有害瓦斯及蒸氣、紫外線、X光線電氣、磁氣、「ラジウム、エマナチオン」等及卵ノ位置、震動等ノ機械的影響ヲ舉グルヲ得ベシ

而シテ實驗發生學ハ未ダ研究ノ餘地少カラザルモノニシテ遺傳上、營養上及環境上ノ觀點ヨリ胚子ノ成長及新陳代謝ノ本質ヲ究明スルコト必要ナリ

第一五號 人工照明ノ鳥類蕃殖力ニ及ボス影響

加 奈 陀 アルバート大學動物科

Wm. Rowan

點燈養鶏ノ効果ハ己ニ周知ノ事實ナルモ著者ハ最近ニ於ケル養鶏以外ノ此ノ方面ノ研究ヲ詳述セリ、一般ニ鳥類ノ翠丸ハ冬季ハ小シニテ夏季ハ大ナル事實ヲ從來溫度ノ變化ニ因ルモノトセラレタ



リ、然ルニ Rowan (一九二五——三三) Bissonette (一九三〇——三三) Baker & Ranson (一九三二) Marshall & Bowden (一九三四)等ハ種々ノ鳥類、動物ヲ供試シ、人工照明ニヨリ冬季ニ於ケル發情ノ誘致或ハ發情周期ノ調節ニ成功セリ  
而シテ紫外線ハ影響ナク、可視光線ノ影響ニ因ルモノニシテ網膜ニ映ジ神經ヲ刺戟シテ腦下垂體ニ作用スルモノナルベシト謂フ

第一六號 家兔ノ妊娠

英 國 劍橋大學農科大學

John Hammond

妊娠——家兔ニ於テハ卵ハ交尾後約一四時間ヲ經テ輸卵管ノ前部ニ於テ受精ス、黃體ヨリ分泌セラ  
ル Progesterin ハ母性胎盤ノ形成維持上必要ナリ  
生殖器ニ起ル變化——妊娠ノ末期ニ於テ Progesterin ノ分泌減少シ母性胎盤ノ子宮ニ對スル緊着力稍弛緩シ胎兒胎盤トノ密着力ヲ増ス、子宮角ハ普通着床仔數ノ倍數ヲ容ルルニ足ル位迄發達シ、膈ハ第二十四日以後ニ於テ著シク發達ス、飼料ノ如何ハ乳腺ノ發育、從テ出産後ノ泌乳量ニ影響ス  
受精卵數ヲ一ケ又ハ二ケニ減ズレバ通常ノモノニ比シ體重量約二倍ノ仔兔ヲ生産シ得、性ハ出産ト同時ニ鑑別シ得  
妊娠鑑定ハ乳腺ノ肥厚ト腹部ノ觸感ニヨリテ行フ

妊娠期間ハ品種ノ體軀ノ大ナルニ隨ヒ又一腹ノ胎兒數ノ減ズルニ隨ヒテ長シ

第一部會 總論、教育及組織

第一號 原產地々方ニ於ケル農村養鶏トシテノ白色レグホーン種

伊 太 利 リボルノ州主席農業監督官

Ernesto Bassi

一九三〇年頃迄ハリボルノ州ノ農家ニハ外國種ノ影響ヲ受ケ肉用ニ傾ケル有色雜種ヲ飼養スル者尠カラザリシガ政府ハレグホーン種ノ原產地タル本州ニ於テ農村ノ飼鶏ヲ白色レグホーン種ニ統一セントシ統制アル獎勵方策ヲ樹立セリ、巡回教育制度(洲農業監督局)創設セラレ純粹種雄鶏ヲ以テ漸次一般地方種ヲ置換シ同時ニ種卵及種雛ヲ廣範圍ニ配付セリ、更ニ一九三一年ト一九三五年トノ二回ニ亘リテ新方策ヲ樹立シ種禽業者ニ對スル褒賞金ノ授與、採卵養鶏ノ講習等刺戟的効果ヲ與ヘタリ、今日ニ於テハ農家飼養鶏ノ六五%ハ白色レグホーン種ニシテ其ノ産卵數モ著シク増加セリ  
改良白色レグホーン種雌鶏ハ採肉ト採卵ノ兩用途ヲ兼備シ環境ヘノ適應性强ク粗放ナル管理ニ耐ヘ疾病ニ對スル抵抗力又大ナリ

第二號 種禽業者聯合協會ノ國際種禽業者聯盟

西 班 牙 西班牙養鶏組合 西班牙種禽業聯盟 委員長

Ramon Riera Chico